



DIGITAL MIXING CONSOLE

TF5

TF3

TF1

TF-RACK

TF Editor V4.5 ユーザーガイド

ご注意

- このソフトウェアおよび PDF 形式の取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよび PDF 形式の取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 市販の音楽データは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用时には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよび PDF 形式の取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- この PDF 形式の取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、最終仕様と異なる場合がありますのでご了承ください。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、ヤマハプロオーディオウェブサイトをご参照ください。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Mac または Macintosh は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

お知らせ

- このソフトウェアでは、一部にオープンソースソフトウェアを使用しています。各ソフトウェアの使用許諾については、Legal 画面をご覧ください。

ご注意	2
お知らせ	2
基本操作とセットアップ	4
TF Editor とは？	4
TF Editor と TF シリーズの接続	4
起動時の操作	4
画面上の操作	4
TF シリーズ本体との同期	5
オフラインエディット機能	6
メニューバー	6
各部の名称と機能	8
HOME/LIBRARY エリア	8
CONNECT エリア	9
FADER BANK エリア	9
MUTE エリア	9
MENU エリア	10
SENDS ON FADER エリア	10
CH STRIP エリア	11
MASTER/FX/ST IN STRIP エリア	11
ツールバー	12
SCENE 画面	13
METER 画面	16
MONITOR 画面	17
SETUP 画面	19
メイン表示エリア	30
LIBRARY 画面	30
SOFT KEYBOARD 画面	32
OVERVIEW 画面	33
SELECTED CHANNEL 画面	38
INPUT 画面	45
EQ 画面	48
GATE 画面	51
COMP 画面	53
FX 画面(FX1/FX2/InsFX1 ～ 6)	55
SEND TO AUX 画面	62
ASSIGN 画面	63
AUTOMIXER 画面	64
CH VIEW 画面	66
CH NAME 画面	78
GEQ 画面	79
OUTPUT 画面	81
SEND FROM 画面	82
DCA ASSIGN 画面	83
DELAY 画面	84
File メニューの画面	85
Manage Library/Scene 画面	85
Input List 画面	87
資料	89
メッセージ一覧	89
TF Editor ショートカットキー一覧	90
索引	91

TF Editor とは？

TF Editor は、コンピュータ上で TF シリーズ本体の設定をあらかじめ準備したり（オフラインエディット）、本体と接続し本体の設定を監視 / 操作（オンラインモニタリング / オペレーション）を行なうためのソフトウェアです。

TF Editor と TF シリーズの接続

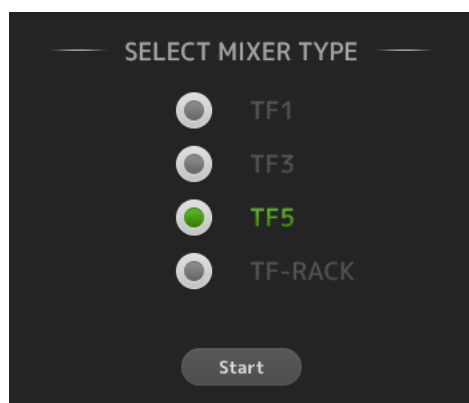
TF Editor と TF シリーズは、ネットワーク経由で接続します。TF シリーズ本体と TF Editor をインストールしているコンピュータが同じネットワーク内にあると接続できます。ネットワークの設定については、TF Editor インストールガイドをご参照ください。

NOTE

- ・ 1 台のコンピュータ上で、複数の TF Editor は起動できません。
- ・ TF Editor と StageMix は、合計 3 台まで同時に使用できます。ただし、TF Editor はそのうち 1 台までです。

起動時の操作

TF Editor を起動したときは、TF シリーズの機種を選択する画面が表示されます。



機種を選んで [Start] ボタンをクリックすると、HOME 画面が表示されます。
次回以降は、ここで選択した機種の設定で起動します。

画面上の操作

マウスホイールでの操作

マウスホイールを使って、本体の [TOUCH AND TURN] ノブと同様の操作ができます。

PC キーボードでの操作

PC キーボードでは、本体の SOFT KEYBOARD 画面と同様のテキスト入力ができます。

タッチスクリーンでの操作

タッチパネル PC などでは、ディスプレイのタッチによる操作ができます。

TF シリーズ本体との同期

TF Editor を初めて起動した時点では、TF シリーズ本体と TF Editor でパラメーターの設定が異なっています。このため、最初に TF シリーズ本体と TF Editor の設定を同期する必要があります。この操作は CONNECT エリアで操作します。



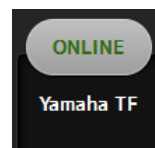
準備

同期をする前に、ネットワークインターフェースを設定します。

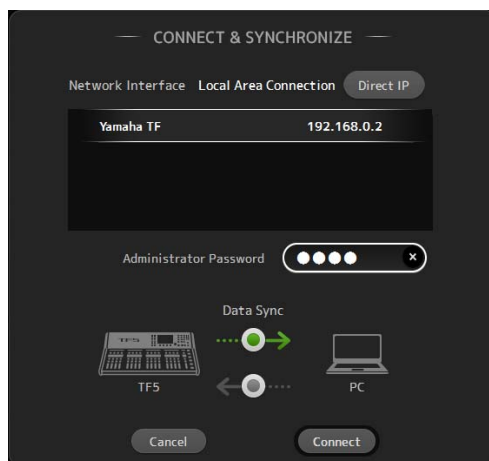
1. SETUP → Network Interface を選択します。
2. 使用するネットワークインターフェースを一覧から選択します。
3. OK をクリックします。

操作

1. CONNECT エリアのステータスボタンをクリックします。



2. CONNECT 画面で、同期する対象となる TF シリーズ本体と、同期する方向を選びます。



同期対象の TF シリーズは、TF Editor を起動するときに設定した機種を選択できます。DIRECT IP ボタンを使用すると、自動検索ではなく IP アドレスを直接指定できます。TF シリーズが異なるサブネット上にあっても指定できますが、レベルメーター情報は表示できなくなります。TF シリーズ本体に接続されている TF Editor や TF StageMix がすでに最大数(合計 3 台)に達している場合は、IP Address の左横に禁止マークが表示されます。また、禁止マークが表示されていない TF シリーズ本体を選んで CONNECT ボタンを押しても、他の TF Editor や TF StageMix との接続状況によっては、接続できなかったことを示すメッセージが表示される場合があります。同期する方向は下記のとおりです。

TF*** → PC	TF シリーズ本体のパラメーター設定を TF Editor にコピーします。
TF*** ← PC	TF Editor のパラメーター設定を TF シリーズ本体にコピーします。

TF*** はお使いの TF シリーズの機種名になります。

3. TF シリーズ本体に、Administrator のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力します。
4. [Connect] をクリックします。
同期中は TF シリーズ本体を操作しないでください。

オフラインエディット機能

TF シリーズ本体と TF Editor を連動させない場合は、CONNECT エリアのステータスボタンをクリックして OFFLINE に切り替えます。オフラインエディットで編集した内容を TF シリーズ本体に反映させたいときは、もう一度ステータスボタンをクリックして、「TF*** ← PC」で同期をとります。

メニューバー



File メニュー

ファイル操作をするメニューです。

TF Editor で扱うファイル形式は次のとおりです。

拡張子	内容
.TFP	ライブラリーの Preset データのひとつを、1 ファイルに保存したデータです。
.TFS	シーンデータのひとつを、1 ファイルに保存したデータです。
.TFF	ミキサーの設定全体を保存した一括データです。

NOTE

- TF Editor で作成した .TFF ファイルは、コンピューターに接続した USB ストレージデバイスに保存して、TF シリーズ本体の USB 端子経由で直接読み込みできます。同様に、TF シリーズ本体で USB ストレージデバイスに保存した .TFF ファイルも、TF Editor で読み込みできます。
- .TFP ファイルは、TF Editor の画面上からドラッグ＆ドロップでセーブ／ロードができます。詳しくは「LIBRARY 画面」の「プリセットのインポート／エクスポート」(→ P.31)をご参照ください。

各項目の機能は次の通りです。

Load

保存されている .TFF ファイルを読み込みます。

Save

.TFF ファイルを上書き保存します。

Save As

.TFF ファイルを別名で保存します。

Manage Library/Scene

TF Editor 内のライブラリーやシーンのデータを一括で管理する Manage Library/Scene 画面(→ P.85)を表示します。

TF シリーズ本体と接続中(ONLINE 時)は使用できません。

Input List

インプットチャンネル、アウトプットチャンネル、DCA グループのチャンネル名、チャンネルカラー、チャンネルアイコン、パッチを表示し設定する Input List 画面(→ P.87)を表示します。

Get New QuickPro Presets

ウェブブラウザを起動して、QuickPro Presets をダウンロードするページを表示します。

NOTE

QuickPro Presets のダウンロードにはインターネット接続が必要です。

Initialize Memory

TF シリーズ本体と接続中(ONLINE 時)は使用できません。

Current memory: TF Editor のカレントメモリーを初期化します。

初期化されるデータは、ミキシングデータとセットアップデータです。

All Memory: TF Editor の全メモリーを初期化します。

初期化されるデータは、シーンすべて、プリセットすべて、ミキシングデータ、セットアップデータです。

Exit

TF Editor を終了します。

Setup メニュー

各項目を選択するとチェックマークが表示されて、その機能が有効になります。もう一度選択するとチェックが外れて、機能が無効になります。

Channel Select Link

TF シリーズ本体と同期中に、チャンネル選択を本体と同期させるかどうかを設定します。

Network Interface

TF シリーズ本体とコンピューターが通信するネットワークポートを選択します。

お使いの環境に合わせて表示内容は異なります。

Confirmation

Store、Recall、Input Select、Output Patch の各機能を実行したときに、確認ダイアログを表示するかどうかを設定します。

チェックを入れると確認ダイアログが有効になります。

Display Delay Scale

DELAY ボックスに表示するディレイタイムの単位を、フレーム(frame)、メートル(meter)、フィート(feet)、ミリ秒(ms)から選択します。

Frame Rate

フレーム(frame)単位でディレイを設定するときのフレームレートを選択します。

Home Button Function

HOME ボタンをクリックしたときに表示するセクションを選択します。「CH Strip & SEL CH」を選択したときは、HOME ボタンをクリックするたびに CH Strip セクションと Selected Channel セクションが切り替わって表示されます。

Window メニュー

画面表示についての設定をします。

Zoom

アプリケーションの表示サイズを、100%、150%、200% で表示します。

Maximize

TF Editor の表示サイズをディスプレイ上で最大化します。

最大化した場合は、FADER エリア(→ [P.10](#))が拡大されて、より多くのチャンネルが表示されます。

Help メニュー

Help

Web ブラウザーを起動して、マニュアルライブラリーを表示します。

About

TF Editor のバージョンを表示する About 画面を表示します。

Legal

TF Editor の Licence 画面を表示します。

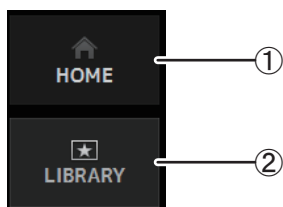
NOTE

マニュアルライブラリーの表示には、インターネット接続が必要です。



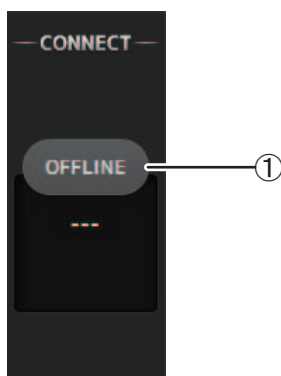
- ① HOME/LIBRARY エリア(→ P.8)
- ② CONNECT エリア(→ P.9)
- ③ FADER BANK エリア(→ P.9)
- ④ MUTE エリア(→ P.9)
- ⑤ MENU エリア(→ P.10)
- ⑥ SENDS ON FADER エリア(→ P.10)
- ⑦ CH STRIP エリア(→ P.11)
- ⑧ MASTER/FX/ST IN STRIP エリア(→ P.11)
- ⑨ ツールバーエリア(→ P.12)
- ⑩ メイン表示エリア(→ P.30)

HOME/LIBRARY エリア



- ① HOME ボタン
メイン表示エリアに OVERVIEW 画面(→ P.33)を表示します。
- ② LIBRARY ボタン
メイン表示エリアに LIBRARY 画面(→ P.30)を表示します。

CONNECT エリア

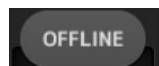


① ステータスボタン

このボタンをクリックするたびに ONLINE/OFFLINE の状態が切り替わります。



TF Editor と TF シリーズ本体が正しく接続されていると、ボタンがこの表示になります。この状態のとき、TF Editor と TF シリーズ本体のパラメーターが連動します。



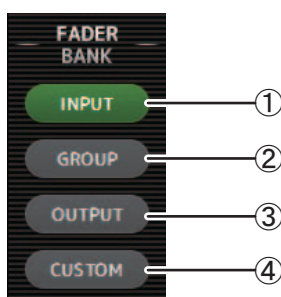
TF Editor と TF シリーズ本体が接続されていない場合、接続に問題がある場合、またはオフラインエディットが選択されている場合にボタンがこの表示になります。

この状態のときは TF Editor と TF シリーズ本体のパラメーターは連動しません。

NOTE

TF Editor と TF シリーズ本体のチャンネル選択を連動させるかどうかを設定できます。Setup メニュー→ Channel Select Link で設定します(→ P.7)。

FADER BANK エリア



CH STRIP エリア(→ P.11)に表示するフェーダーバンクを切り替えます。

① INPUT バンク

本体の INPUT1/INPUT2 バンクを表示します。

TF5 と TF3 では CH1 ～ CH40、TF1 と TF-RACK では CH1 ～ CH32 が CH STRIP エリアに展開されます。

② GROUP バンク

本体の GROUP バンクを表示します。DCA1 ～ DCA8 の 8 ストリップと、各 DCA チャンネルにアサインされたチャンネルストリップが、TF5 では最大 24 本、RF3 では最大 16 本、TF1 と TF-RACK では最大 8 本 CH STRIP エリアに表示されます。

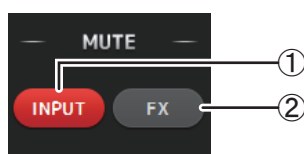
③ OUTPUT バンク

AUX1 ～ AUX19/20、MONITOR、SUB、MATRIX1 ～ MATRIX4 が展開されます。

④ CUSTOM バンク

設定されているカスタムフェーダーバンクが展開されます。

MUTE エリア



TF シリーズ本体のミュートのオン / オフを一括で操作します。

① INPUT ボタン

TF シリーズ本体のインプットチャンネルを一括でミュートします。ミュートがオンのときに点灯します。

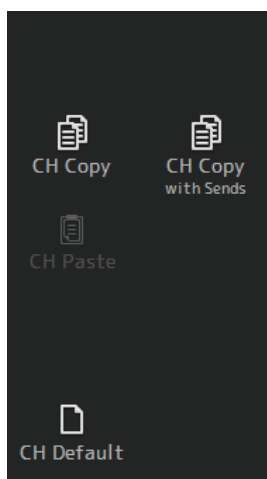
② FX ボタン

FX モジュールを一括でミュートします。AUX9/10 ～ AUX19/20 チャンネルのインサーションエフェクトはバイパスされます。ミュートがオンのときに点灯します。

NOTE

インプットチャンネルや FX チャンネルの MUTE SAFE をオンにすれば、ミュートグループから除外できます。

MENU エリア



メイン表示エリアに表示されている画面によって操作できるコンテキストメニューを表示します。
表示されるメニューの内容については、各画面の説明をご参照ください。

SENDS ON FADER エリア



CH STRIP エリアを、一時的に特定のバスへの SEND LEVEL や SEND ON のコントロールへと切り替えます。

バスをクリックすると選択されてハイライト表示になり、SENDS ON FADER モードになります。選択されているバスをもう一度クリックすると、SENDS ON FADER モードを解除します。

上下にスクロールすると表示されていないバスが表示されます。

CH STRIP エリア



① ON ボタン

チャンネルのオン / オフを切り替えます。オンのチャンネルは、ボタンが点灯します。SENDS ON FADER モードでは、そのチャンネルから現在選ばれている AUX バス、FX バスに送られる信号のオン / オフを切り替えます。

② フェーダー値表示

現在のフェーダー値を表示します。

クリックすると選択枠がピンク色になり、マウスホイールで操作できます。もう一度クリックするとコンピューターキーボードで数値を直接入力できます。[Enter] キーを押すと値を確定します。Enter キーを押さずに、他のパーツをクリックしたり、TF シリーズ本体のフェーダーを操作すると、編集前の値に戻ります。

③ フェーダー

チャンネルの信号レベルを調節します。SENDS ON FADER モードでは、そのチャンネルから現在選ばれている AUX バス、FX バスへのセンドレベルを調節します。

クリックすると選択枠がピンク色になり、マウスホイールで操作できます。

SENDS ON FADER モードのときは、フェーダーノブの色が送り先のチャンネルカラーに替わります。ただし、DCA チャンネルなど送り先に信号を送れないフェーダーノブは白色のままです。

④ CUE ボタン

CUE でモニターするチャンネルを選びます。オンのときに点灯します。

⑤ CH 表示

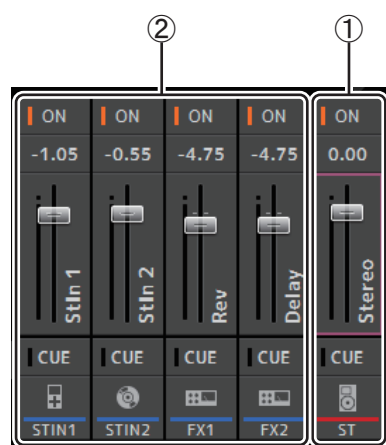
チャンネルの ID、カラー、アイコンが表示されます。クリックするとそのチャンネルが選択状態になります。

⑥ CLEAR CUE ボタン

すべてのチャンネルの CUE を一括でオフにします。

MASTER/FX/ST IN STRIP エリア

常に表示されているエリアです。



① MASTER STRIP

STEREO バスを操作します。

SENDS ON FADER モードのときは、MASTER ストリップとして送り先のチャンネルが表示されます。また、フェーダーノブの色が送り先のチャンネルカラーになります。

FX RTN チャンネルへの SENDS ON FADER モードのときは操作できません。

② FX RTN/ST IN STRIP

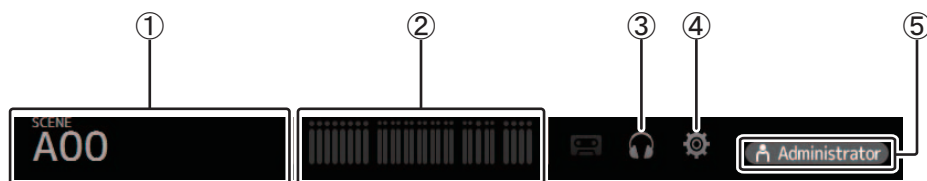
FX RTN バスと ST IN チャンネルを操作します。

SENDS ON FADER モードのときは、フェーダーノブが送り先のチャンネルカラーになります。

頻繁に使用する機能のアイコンです。メイン表示エリアの表示を切り替えても常に表示されています。

各アイコンをクリックすると、専用画面が表示されます。

もう一度同じアイコンをクリックするか、専用画面右上のクローズボタン [×] をクリックすると、元の画面に戻ります。



① SCENE 画面(→ [P.13](#))

② METER 画面(→ [P.16](#))

③ MONITOR 画面(→ [P.17](#))

④ SETUP 画面(→ [P.19](#))

⑤ ステータス表示

現在ログインしているユーザー名(必ず Administrator)が表示されます。また、下記の場合にステータスを表示します。

CUE: キューがオン

OSCILLATOR: オシレーターがオン

SCENE 画面

ミキサーの設定を保存した「シーン」を管理する画面です。

シーンを呼び出す(リコール)ときには、特定の設定を除外して呼び出すこともできます。(リコールセーフ)



① シーンリスト切り替えボタン

表示するシーンリストを切り替えます。

SCENE A: シーンリスト A を表示します。

SCENE B: シーンリスト B を表示します。

② シーンリスト

保存されたシーンをリスト表示します。

リストの項目名をクリックすると、クリックした項目の内容でソートします (Information を除く)。

シーンをクリックすると選択できます。選択したシーンはハイライト表示になり、保存、呼び出し、編集の対象になります。

現在呼び出しているシーンの先頭には、緑の三角マークが付きます。

Fade Time 欄にはシーンに設定されているフェードタイムが表示されます。フェードタイムが有効になっている場合、**FADE** が表示されます。



の欄をクリックすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、上書きを禁止できます。

Date 欄には、最後に保存した日時が表示されます。

③ Store ボタン

現在のミキサーの設定をシーンリストで選択されている番号のシーンに保存します。

クリックすると、タイトルとコメントを編集する画面が表示されます。

④ Recall ボタン

シーンリストで選択しているシーンを呼びだします。

⑤ Edit ボタン

クリックすると、タイトルとコメントを編集する画面が表示されます。

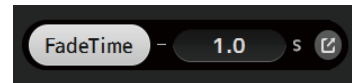
シーンのフェードタイムを設定する

1. フェードタイムを設定するシーンを選択する

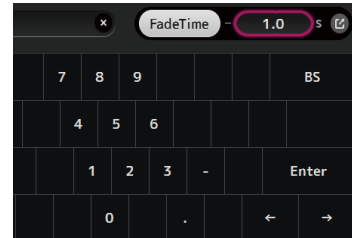
2. Edit ボタンをクリックする

タイトル、コメント、フェードタイムを編集する画面を表示します (SOFT KEYBOARD 画面→ P.32)。

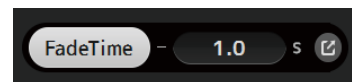
3. フェードタイムをオンにするには、FadeTime ボタンをクリックして、オフにするにはもう一度クリックする



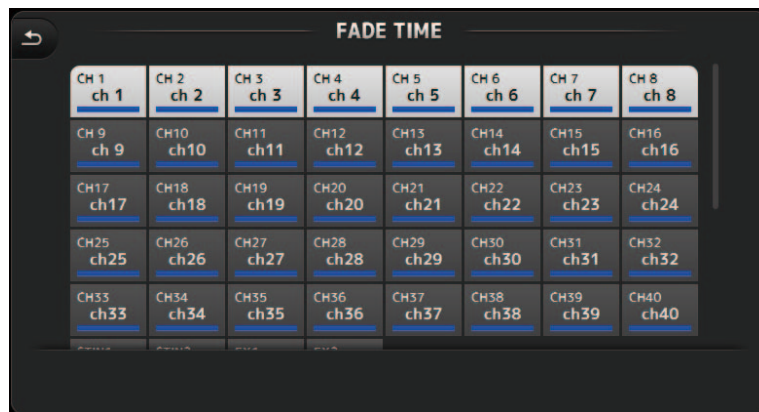
4. フェードタイムを設定するには、フェードタイム表示をクリックして、キーボードで入力する



5. チャンネルごとにフェードタイムのオン / オフを設定するには、右端のボタンをクリックする



6. FADE TIME 画面で、チャンネルごとにオン / オフを設定する



7. OK ボタンをクリックする

シーンにフェードタイムが設定されます。

No.▲	Title	Fade Time		Date
A02	General Band	1.0s FADE		02/10/2017 13:53:02
A03	Band w Horns	1.0s		02/10/2017 13:53:09
A04	Jazz Combo set	1.0s		02/10/2017 13:53:18
A05	Init data Slot	2.0s FADE		02/10/2017 13:53:24
A06				

NOTE

- ・シーンフェードタイムは TF シリーズ本体にて動作する機能です。
- ・TF シリーズ本体でフェーダー移動中にエディタからそのフェーダーの操作を行うと、その位置でフェード効果が停止します。

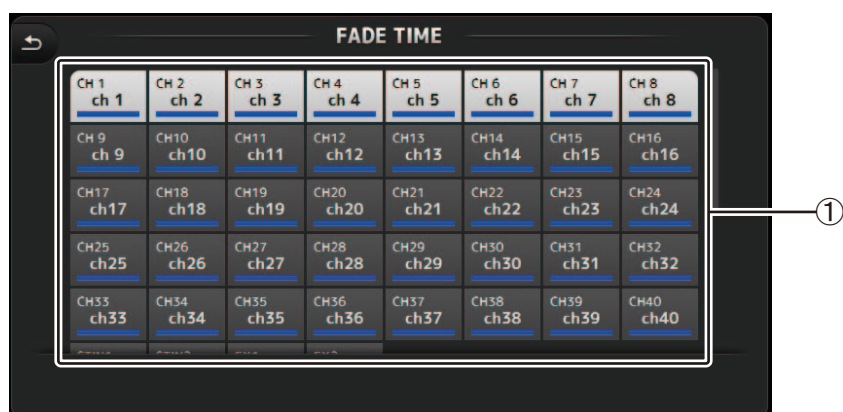
SCENE 画面のメニュー

SCENE 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



FADE TIME 画面

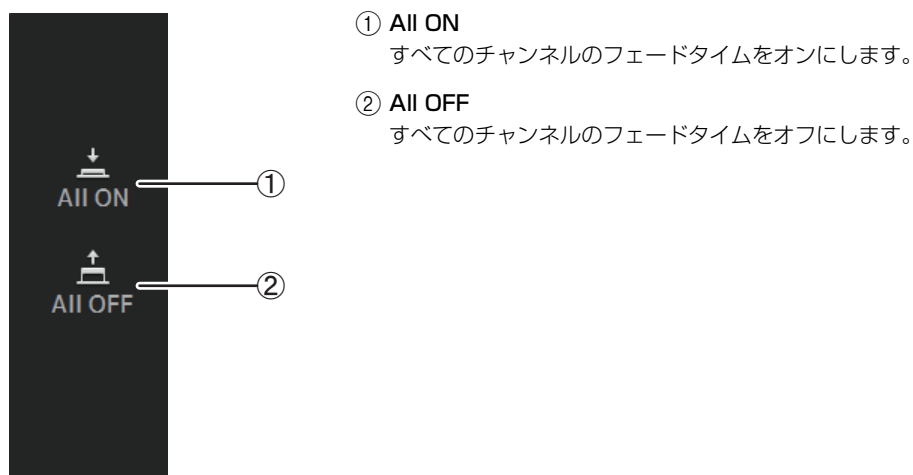
シーンのフェードタイムを反映するチャンネルを、個別にオン / オフできます。



- ① **チャンネルボタン**
フェードタイムを反映するチャンネルを個別にオン / オフします。白くなっているとオンの状態です。

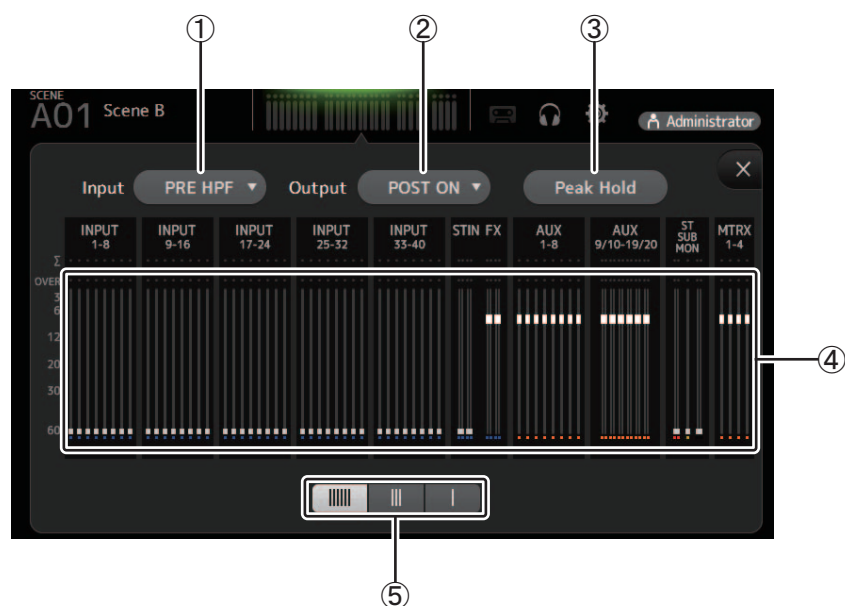
FADE TIME 画面のメニュー

FADE TIME 画面でメニューキー  を押すと、以下のメニューアイコンが表示されます。



METER 画面

すべてのチャンネルの入出力レベルを表示したり、レベルメーターのメーターポイント(レベルを検出する位置)を切り替えたりできます。



① 入力メーターポイント選択メニュー

入力レベルを計測するポイントを選択します。

PRE HPF: ヘッドアンプの直後 (HPF の直前)

PRE FADER: フェーダーの直前

POST ON: [ON] キーの直後

② 出力メーターポイント選択メニュー

出力レベルを計測するポイントを選択します。

PRE EQ: EQ の直前

PRE FADER: フェーダーの直前

POST ON: [ON] キーの直後

③ Peak Hold ボタン

オンにすると各メーターのピークが保持されます。オフにすると、それまで保持されていたピークレベルの表示がクリアされます。

Peak Hold ボタンのオン / オフはインプット系 / アウトプット系チャンネルの両方に影響します。

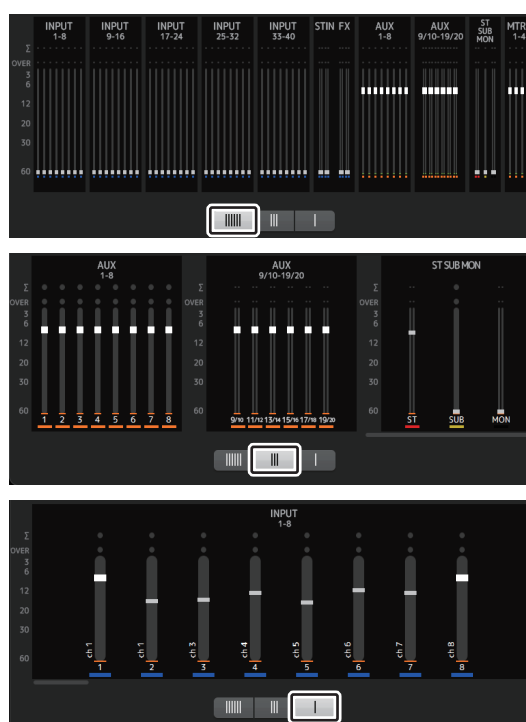
④ メーター

チャンネルのレベルを表示します。

⑤ メーター表示切り替えボタン

表示するメーターの本数を切り替えます。

3 種類の表示があります。



MONITOR 画面

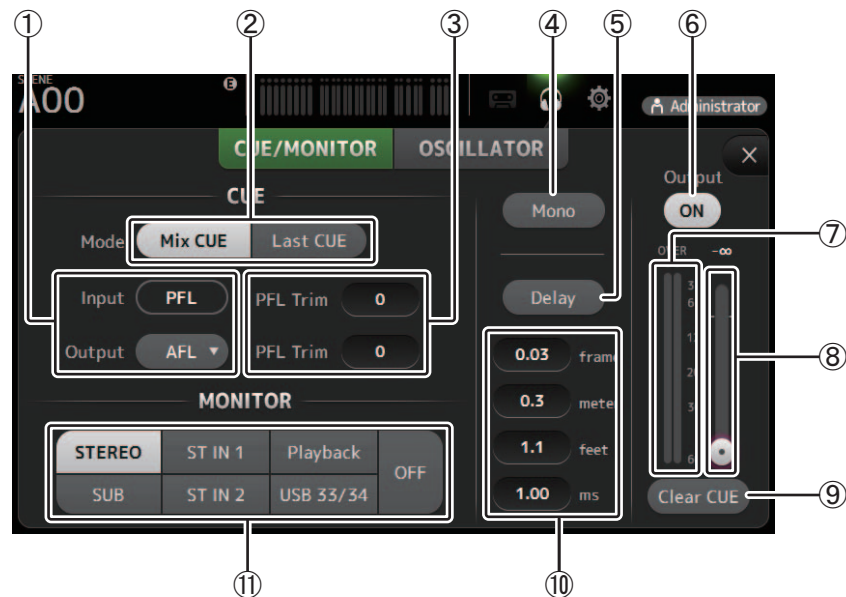
CUE やモニターのソース選択と、オシレーターの操作をします。

CUE/MONITOR 画面では、ヘッドフォンやニアフィールドモニターで確認する信号の操作をします。常時モニターするソースの選択や、個々のチャンネルをモニターする CUE 機能を操作します。

OSCILLATOR 画面では、オシレーターの設定状況を確認したり、オシレーターのオン / オフを切り替えたりできます。TF シリーズ本体にはサイン波やピンクノイズを任意のバスに出力するオシレーターが内蔵されており、外部機器のチェックや会場の特性をテストするのに利用できます。

CUE/MONITOR 画面

各チャンネルの音声入力をヘッドフォンなどでチェックします。また、モニターするソースの選択やモニター音のモノラル化、ディレイを操作します。



① CUE ポイント選択ボタン

チェックする位置を選択します。インプットは PFL (フェーダーの直前) 固定です。

PFL: フェーダーの直前

AFL: フェーダーの直後

② CUE モードボタン

CUE のモードを切り替えます。

Mix CUE: 複数チャンネルの CUE が有効になります。

Last CUE: 最後に操作したチャンネルだけ CUE が有効になります。

③ PFL Trim 設定テキストボックス

PFL を選択したときの CUE モニターの音量を調節します。設定範囲は -30dB ~ +20dB です。

クリックすると、それぞれの数値を入力する画面を表示します。

④ Mono ボタン

オンにすると、モニター信号がモノラルになります。

⑤ Delay ボタン

モニター信号を遅延させます。

ただし、CUE がオンの間は、ディレイ機能が無効になります。

⑥ モニターアウトプットボタン

モニター出力のオン / オフを切り替えます。

TF シリーズ本体の [PHONES] 端子からは、この設定にかかわらず信号が出力されます。

⑦ モニターレベルメーター

モニター信号のレベルを表示します。

⑧ モニターレベルスライダー

モニターの出力レベルを設定します。

TF シリーズ本体の [PHONES] 端子からは、この設定にかかわらず信号が出力されます。

⑨ Clear CUE ボタン

CUE を一括して解除します。

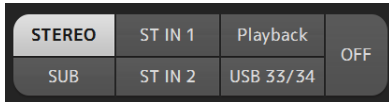
⑩ ディレイ設定

ディレイの単位を、frame(フレーム)、meter(メートル)、feet(フィート)、または ms(ミリ秒)で指定できます。
クリックすると、それぞれの数値を入力する画面が表示されます。

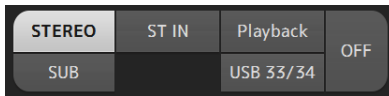
⑪ モニターソース選択ボタン

モニターソースを選択します。

TF5/TF3/TF1

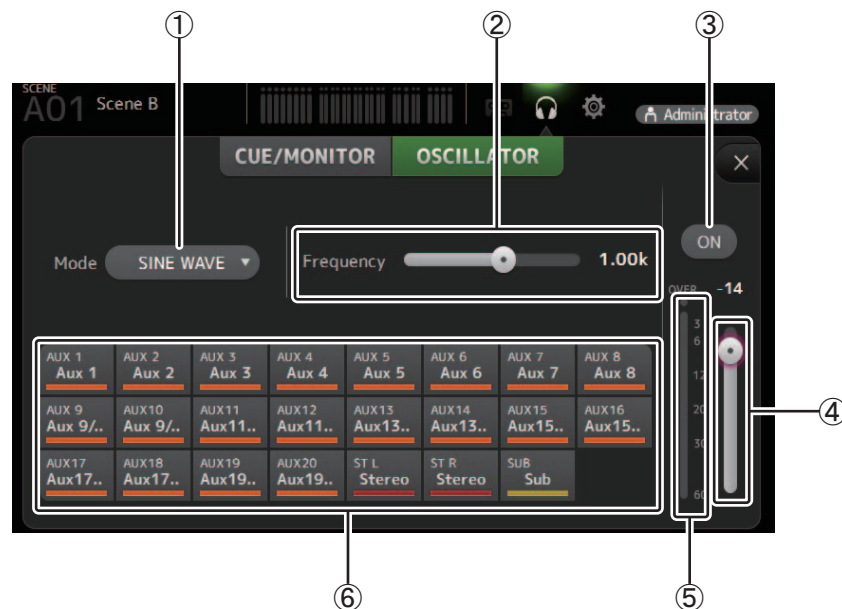


TF-RACK



OSCILLATOR 画面

オシレーターの詳細設定を行ないます。



① オシレーターモードボタン

使用するオシレーターを 3 種類から選択します。

SINE WAVE: サイン波を連続的に出力します。

PINK NOISE: ピンクノイズを連続的に出力します。

BURST NOISE: ピンクノイズを断続的に出力します。

② パラメーターフィールド

選択しているオシレーターモードで設定できるパラメーターが表示されます。

オシレーターモード	表示されるパラメーター
SINE WAVE	Frequency (オシレーターの周波数)
BURST NOISE	WIDTH (ノイズの長さ)、INTERVAL (ノイズとノイズの間隔の長さ)
PINK NOISE	表示なし

③ オシレーター出力ボタン

オシレーターの出力のオン / オフを切り替えます。オンにすると、オシレーターの信号がオシレーターアサインボタンで選んだインプットチャンネルやバスに送ります。

④ オシレーター出力レベルスライダー

オシレーターの出力レベルを設定します。

⑤ オシレーター出力レベルメーター

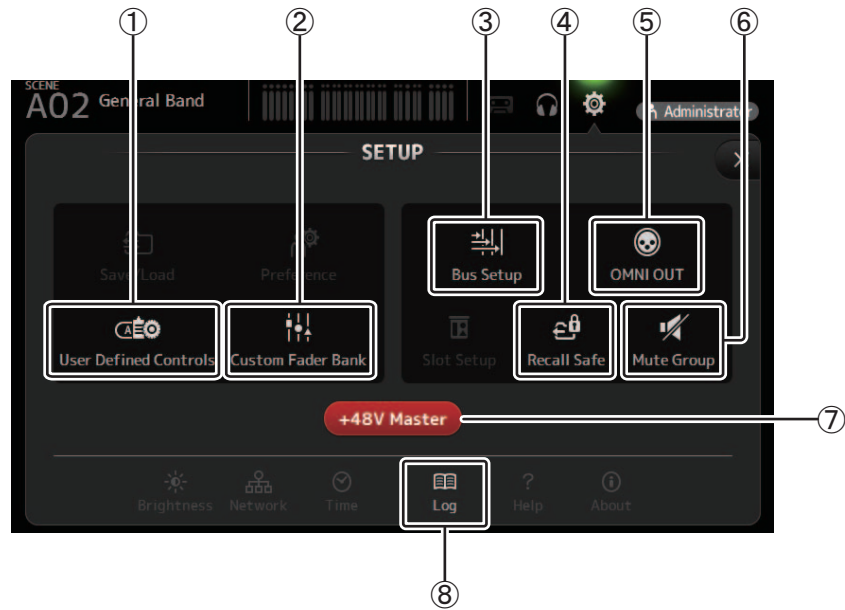
オシレーターの出力レベルを表示します。

⑥ オシレーターアサインボタン

オシレーターの出力信号を送るチャンネルを選択します。ボタンをクリックして個々のチャンネルを指定します(複数選択できます)。

SETUP 画面

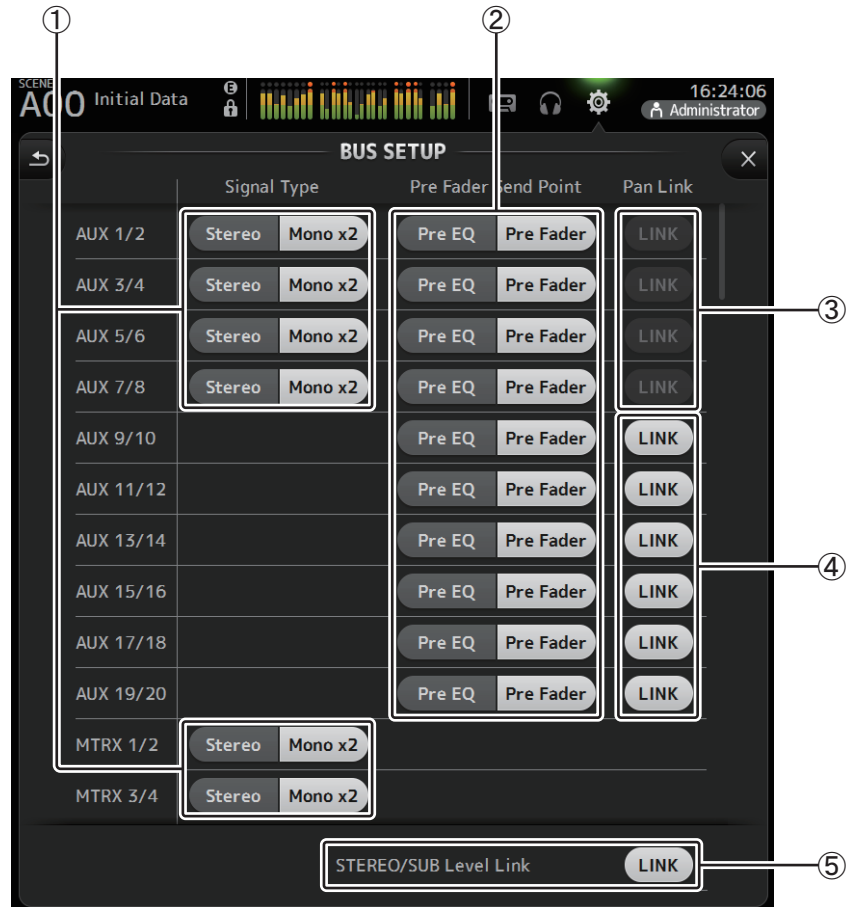
ミキサー全体の設定や OMNI OUT の設定、リコールセーフの設定をします。



- ① **User Defined Controls(→ P.24)**
USER DEFINED CONTROLS 画面を表示します。
- ② **Custom Fader Bank(→ P.28)**
CUSTOM FADER BANK 画面を表示します。
- ③ **Bus Setup(→ P.20)**
BUS SETUP 画面を表示します。
- ④ **Recall Safe(→ P.22)**
RECALL SAFE 画面を表示します。
- ⑤ **OMNI OUT(→ P.21)**
OMNI OUT 画面を表示します。
- ⑥ **Mute Group(→ P.23)**
MUTE GROUP ASSIGN 画面を表示します。
- ⑦ **+48V Master ボタン(→ P.46)**
本体のファンタム電源全体のマスターのオン / オフを切り替えます。
このボタンがオフのときは、各チャンネルの INPUT 画面にある +48V ボタンをオンにしても、ファンタム電源は供給されません。
- ⑧ **Log(→ P.29)**
TF Editor の LOG 画面を表示します。

BUS SETUP 画面

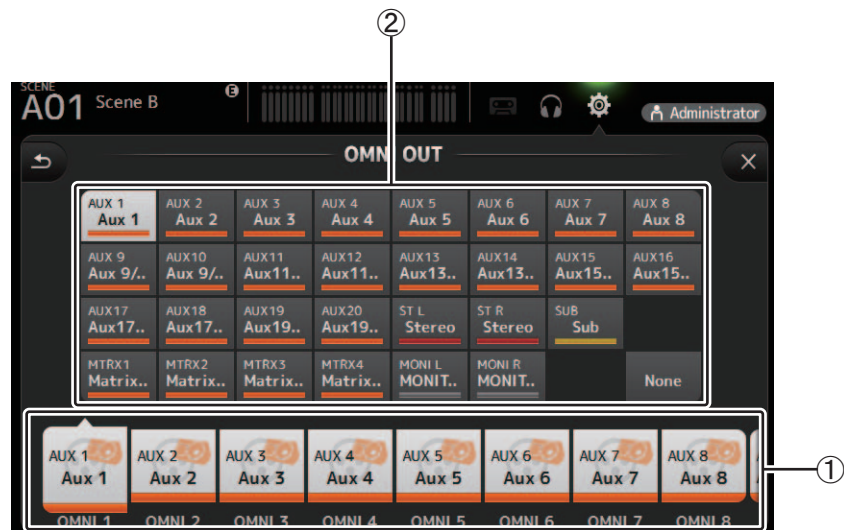
バスに関する設定を行ないます。バスの基本設定(ステレオ / モノラルの切り替え、Pan Link など)を変更します。
変更した内容は、シーンに保存されます。



- ① **AUX1/2 ~ AUX7/8 シグナルタイプ切り替えボタン**
MATRIX1/2 ~ MATRIX3/4 シグナルタイプ切り替えボタン
 2つのバスごとに信号の処理方法を選択します。バスごとに Stereo(奇数 / 偶数番号の順に並んだ 2つのバス単位で主要パラメーターを連動させる)、または MONO ×2(モノラル ×2 チャンネルとして使用する)を選択します。
- ② **Pre Fader Send Point 切り替えボタン**
 インพุットチャンネルから AUX バスへのセンドで、Pre をオンにしたときのセンドポイントを切り替えます。
Pre EQ: EQ の直前
Pre Fader: フェーダーの直前
- ③ **AUX1/2 ~ AUX7/8 Pan Link ボタン**
 AUX1/2 ~ AUX7/8 の Pan Link のオン / オフを切り替えます。
 このボタンは、Signal Type が Stereo の設定になっている場合に表示します。
 ボタンがオンのときは、インพุットチャンネルから該当する 2つのバスの送られる信号のパンが、Stereo バスのパンと連動します。
- ④ **AUX9/10 ~ AUX19/20 Pan Link ボタン**
 AUX9/10 ~ AUX19/20 の Pan Link のオン / オフを切り替えます。
- ⑤ **STEREO/SUB Level Link**
 STEREO バスと SUB バスの操作を連動させるかどうかを設定します。

OMNI OUT 画面

OMNI OUT 端子に出力するアウトプットチャンネルを設定します。



① OMNI OUT1 ～ 16 ボタン

設定対象となる OMNI OUT 端子を選択します。

ボタンには、現在アサインされているチャンネル名が表示されます。

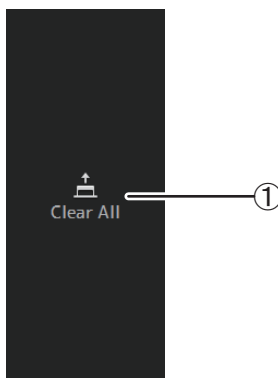
② アウトプットチャンネルボタン

① で選択した OMNI OUT 端子に出力するアウトプットチャンネル、またはモニター出力を選択します。

None を選択すると、何も出力されません。

OMNI OUT 画面のメニュー

OMNI OUT 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



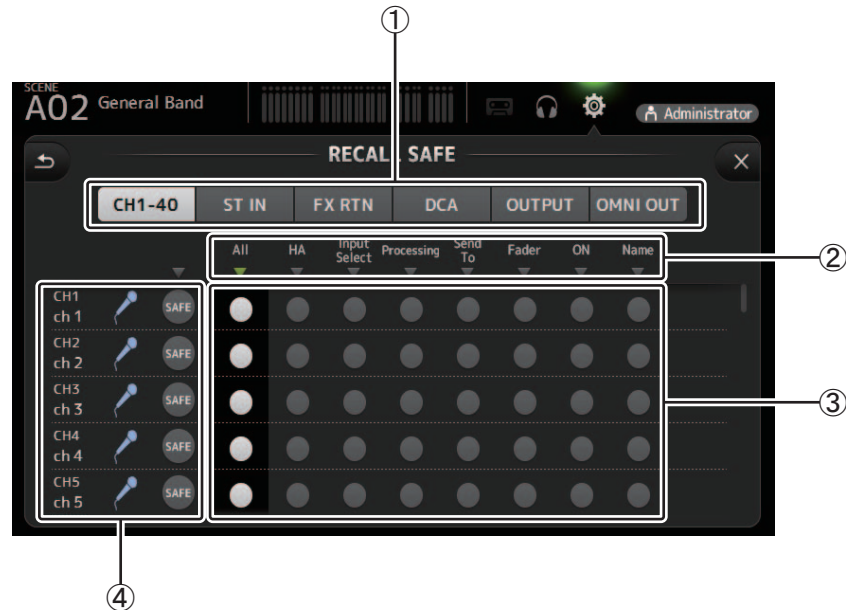
① Clear All

OMNI OUT 端子に対するすべてのアサインを、一括で解除 (None に設定) します。

RECALL SAFE 画面

シーンやプリセットをリコールしたときのリコールセーフを設定します。

「リコールセーフ」とは、特定のパラメーター/チャンネル(DCA グループ)をリコール操作から除外する機能です。



① 設定対象チャンネル切り替えボタン

リコールセーフを設定するチャンネルタイプを選択します。

選択したチャンネルタイプに応じて、SAFE パラメーター表示が変わります。

② SAFE パラメーター名表示

▼ボタンをクリックすると、選択しているチャンネル種別の全チャンネルの SAFE パラメーターのオン / オフが切り替わります。

▼ボタンは、すべての SAFE パラメーターがオンの場合に緑色になります。また、一部の SAFE パラメーターがオンの場合は青色、すべてのパラメーターがオフの場合は灰色で表示します。

③ SAFE パラメーター切り替えボタン

SAFE パラメーターのオン / オフを切り替えます。オンにしたパラメーターがリコールセーフの対象となります。

OMNI OUT の SAFE パラメーターは、OMNI OUT PATCH のみです。

④ チャンネル情報表示

チャンネル ID、チャンネル名、アイコンを表示します。

SAFE ボタンをクリックすると、そのチャンネルのリコールセーフのオン / オフを切り替えます。

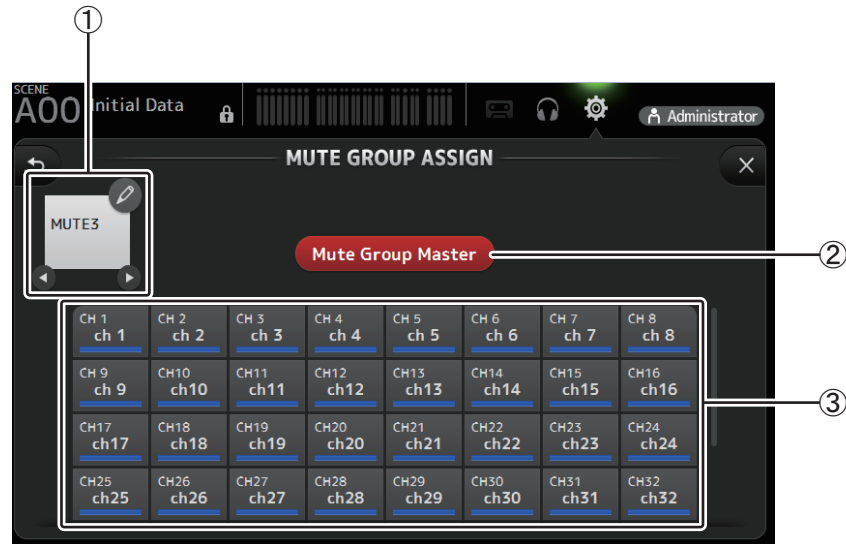
オンのときは、SAFE パラメーター切り替えボタンで選択したパラメーターがシーンリコールされなくなります。

MUTE GROUP ASSIGN 画面

インプットチャンネルのミュートグループとミュートセーフを設定します。

ミュートグループは、INPUT(MUTE GROUP1)、FX(MUTE GROUP2) がすでに割り当てられています。それ以外に MUTE GROUP3 ～ MUTE GROUP6 にインプットチャンネルを割り当てできます。

ミュートセーフは、ミュートグループでの操作から除外するチャンネルを設定します。初期設定では ST IN1 と ST IN2 がアサインされています。



① ミュートグループ名

右上の鉛筆マークをクリックすると編集画面を表示します。

◀ / ▶ をクリックすると、情報を表示するミュートグループを切り替えられます。

② Mute Group Master ボタン

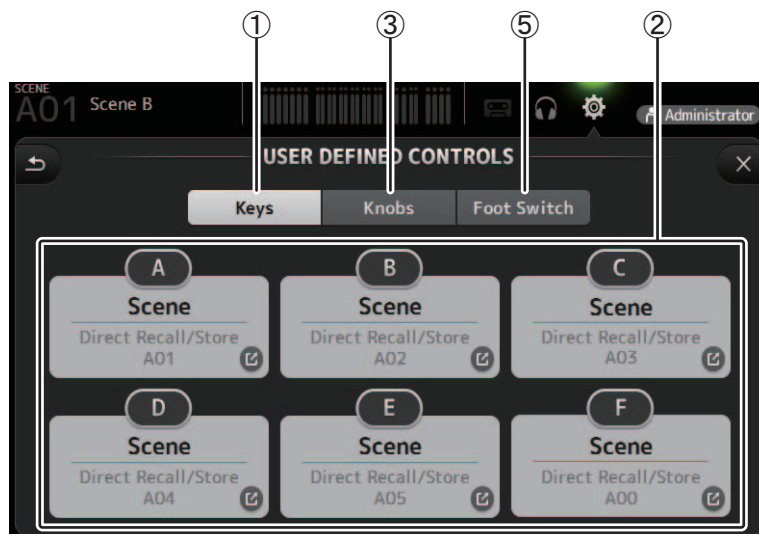
表示しているミュートグループのオン / オフを切り替えます。このボタンがオフのときは、該当するミュートグループが無効になります。

③ MUTE GROUP ASSIGN ボタン

表示しているミュートグループに割り当てるインプットチャンネルを選択します。

USER DEFINED CONTROLS 画面

[USER DEFINED KEYS]、[USER DEFINED KNOBS]、フットスイッチに割り当てる機能を設定します。



① Keys ボタン

TF シリーズ本体の [USER DEFINED KEYS] に割り当てる機能を設定します。

② KEYS 設定ボタン(A～F)

クリックすると、USER DEFINED KEYS に割り当てる機能を選択する画面(機能選択画面)が表示されます。

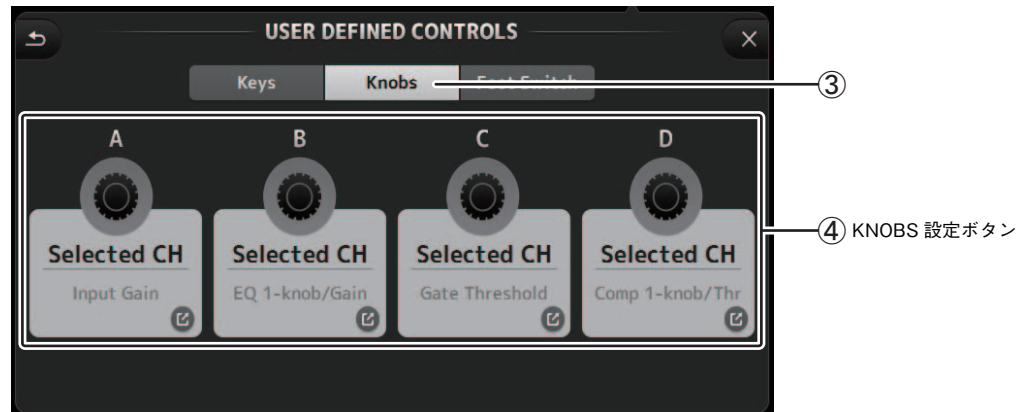
USER DEFINED KEYS に割り当てできる機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
No Assign			機能の割り当てなし
Automixer	Bypass	Group a, Group b	PARAMETER2 で設定したグループのバイパス
	Specific CH	CH1~CH8	PARAMETER2 で設定したチャンネルの Automixer の ON/OFF
Brightness	Bank Change		Brightness 設定のバンクを切り替えます。
CH ON	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA 1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの ON/OFF
CH Select	Inc		PARAMETER1 で設定した方向にチャンネルを順次選択
	Dec		
	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1L~STIN2R, FX1L~FX2R, AUX 1~8, AUX 9~20, STEREO L, R, SUB, MATRIX1~4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの選択
CUE	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA 1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの CUE の ON/OFF
Effect	Bypass	FX1, FX2, INS FX1~6	PARAMETER2 で設定したエフェクトのバイパス
EQ	Band Select	HPF, LPF, Low, Low-Mid, High-Mid, High	PARAMETER2 で設定したバンドを選択
Help			ヘルプを表示
Meter	Peak Hold ON		METER のピークホールド機能の ON/OFF

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
Monitor	Output		モニターアウトの ON/OFF
	Source Select	STEREO, SUB, STIN1, STIN2, STIN (TF-RACK), USB 33/34, Playback	PARAMETER2 で設定したモニターソースを選択
Mute Master	MUTE GROUP 3~ MUTE GROUP 6		PARAMETER1 で設定した対象のミュートの一括 ON/OFF
Oscillator	Oscillator On		オシレーター の ON/OFF
	Specific CH	AUX 1~AUX20, STEREO L, R, SUB	PARAMETER2 で選択したチャンネルへのオシレーターアサインの ON/OFF
Page Change	Bookmark		2 秒以上の長押しで表示中の画面をブックマークに保存する。2 秒未満の場合は保存してあった画面を呼び出す。
	Bookmark with "SEL"		選択チャンネルも込みで、ブックマークに保存する。その他は同上。
	Close Popup		ポップアップ画面を閉じる機能
Recorder	Transport	Play/Pause	RECORDER 画面の Play/Pause ボタンと同じ機能
		Stop	RECORDER 画面の Stop ボタンと同じ機能
		Next	RECORDER 画面の Next ボタンと同じ機能
		Previous	RECORDER 画面の Previous ボタンと同じ機能
		Rec	RECORDER 画面の Rec ボタンと同じ機能
		Auto Rec	録音を停止し、新しいファイルで次の録音を開始する機能
		Rec & Start	ワンタッチで録音を開始する機能
SCENE	Inc		一つ大きい番号の SCENE を選択
	Dec		一つ小さい番号の SCENE を選択
	Store		選択した番号にカレント設定を上書きストア
	Recall		選択した番号の SCENE をリコール
	Inc Recall		一つ番号の大きい SCENE をリコール
	Dec Recall		一つ番号の小さい SCENE をリコール
	Direct Recall/Store	No.A00~A99, No.B00~B99	PARAMETER2 で設定した番号の SCENE をリコールする。2 秒以上長押しした場合はその番号にカレント設定を上書きストアする。

③ Knobs ボタン

TF シリーズ本体の [USER DEFINED KNOBS] に割り当てる機能を設定します。



④ KNOBS 設定ボタン

クリックすると、USER DEFINED KNOBS に割り当てる機能を選択する画面(機能選択画面)が表示されます。

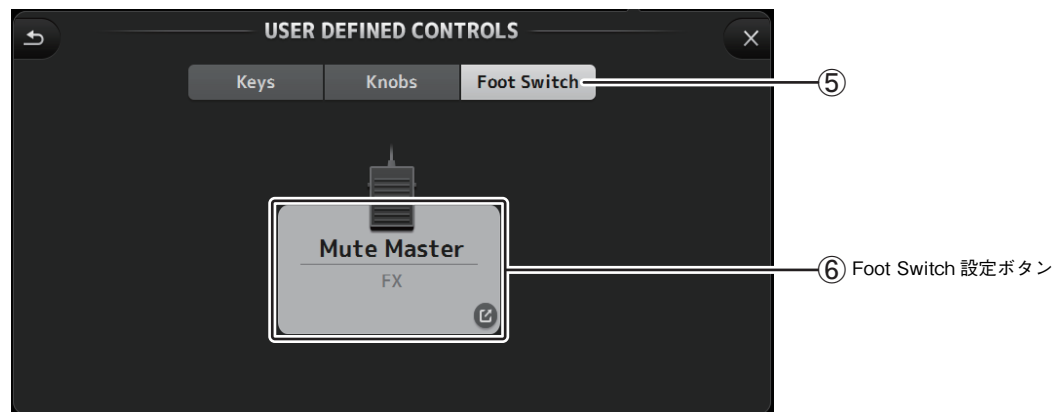
USER DEFINED KNOBS に割り当てできる機能

機能	機能説明
No Assign	機能の割り当てなし
Brightness	CH Name
	CH Color
	Screen
	Panel
CH Level	Specific CH
CH Select	Inc/Dec
Monitor Level	

機能	機能説明
Selected CH	Automixer Weight
	選択したチャンネルの AUTOMIXER の Weight の操作
	CH Level
	選択したチャンネルのレベルの操作
	Comp 1-knob/Thr
	選択したチャンネルの COMP の 1-knob または THRESHOLD の操作 1-knob COMP が ON の場合は 1-knob 操作、1-knob COMP が OFF の場合は THRESHOLD の操作
	Digital Gain
	選択したチャンネルの DIGITAL GAIN の操作
	EQ 1-knob/Gain
	選択したチャンネルの EQ の 1-knob または GAIN の操作 1-knob EQ が ON の場合は 1-knob 操作、1-knob EQ が OFF の場合は、GAIN の操作
	EQ Band Select
	選択したチャンネルの EQ のバンド選択
	EQ Frequency
	選択したチャンネルの EQ の周波数の操作
	EQ Q
	選択したチャンネルの EQ の Q の操作
	Gate Threshold
	選択したチャンネルの GATE の THRESHOLD の操作
	HPF
	選択したチャンネルの HPF の操作 ノブの回転で周波数
	Input Gain
	選択したチャンネルの ANALOG GAIN または DIGITAL GAIN の操作 チャンネルの INPUT SELECT が INPUT の場合は ANALOG GAIN の操作 チャンネルの INPUT SELECT が USB, iPad, STIN の場合は DIGITAL GAIN の操作
	Send Level
	選択したチャンネルの、PARAMETER2 で選択したバス (FX、AUX、SUB) へのセンドレベル
	Pan
	選択したチャンネルの PAN (または BALANCE) の操作
RTA Offset	RTA Offset の操作

⑤ Foot Switch ボタン

TF シリーズ本体のフットスイッチに割り当てる機能を設定します。



⑥ Foot Switch 設定ボタン

クリックすると、フットスイッチに割り当てる機能を設定する画面(機能選択画面)を表示します。

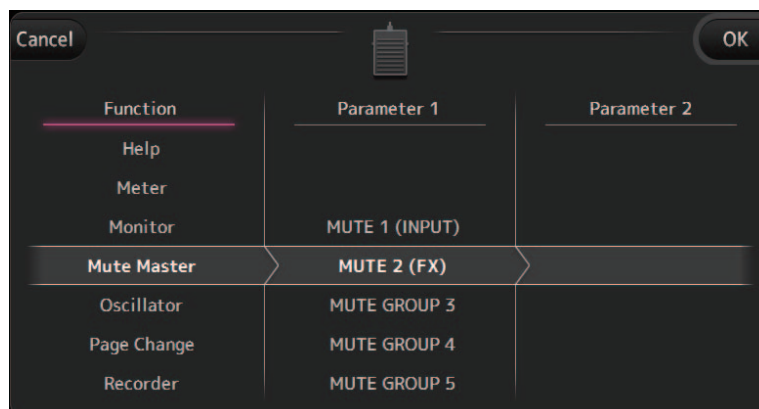
Foot Switch に割り当てできる機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
No Assign			機能の割り当てなし
Automixer	Bypass	Group a, Group b	PARAMETER2 で設定したグループのバイパス
	Specific CH	CH 1~CH 4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの Automixer の ON/OFF
Brightness	Bank Change		Brightness 設定のバンクを切り替えます。
CH ON	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの ON/OFF
CH Select	Inc		PARAMETER1 で設定した方向にチャンネルを順次選択
	Dec		
	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1L~STIN2R, FX1L~FX2R, AUX 1~8, AUX 9~20, STEREO L, R, SUB, MATRIX1~4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの選択
Clear Cue	Clear Cue		CUE を解除 パネルの CLEAR CUE キーと同じ機能

FUNCTION	PARAMETER1	PARAMETER2	機能説明
CUE	Specific CH	CH 1~CH40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, DCA 1~8, AUX 1~8, AUX 9/10~19/20, STEREO, SUB, MATRIX1~4	PARAMETER2 で設定したチャンネルの CUE の ON/OFF
Effect	Bypass	FX1, FX2, INS FX1~6	PARAMETER2 で設定したエフェクトのバイパス
EQ	Band Select	HPF, LPF, Low, Low-Mid, High-Mid, High	PARAMETER2 で設定したバンドを選択
Help			ヘルプを表示
Meter	Peak Hold ON		METER のピークホールド機能の ON/OFF
Monitor	Output		モニターアウトの ON/OFF
	Source Select	STEREO, SUB, STIN1, STIN2, STIN (TF-RACK), USB 33/34, Playback	PARAMETER2 で設定したモニターソースを選択
Mute Master	MUTE 1 (INPUT), MUTE 2 (FX), MUTE GROUP 3, MUTE GROUP 4, MUTE GROUP 5, MUTE GROUP 6		PARAMETER1 で選んだチャンネルやグループの Mute Master を ON/OFF
Oscillator	Oscillator On		オシレーターの ON/OFF
	Specific CH	AUX 1~AUX20, STEREO L, R, SUB	PARAMETER2 で選択したチャンネルへのオシレーターアサインの ON/OFF
Page Change	Bookmark		2 秒以上の長押しで表示中の画面をブックマークに保存する。2 秒未満の場合は保存してあった画面を呼び出す。
	Bookmark with "SEL"		選択チャンネルも込みで、ブックマークに保存する。その他は同上。
	Close Popup		ポップアップ画面を閉じる機能
Recorder	Transport	Play/Pause	RECORDER 画面の Play/Pause ボタンと同じ機能
		Stop	RECORDER 画面の Stop ボタンと同じ機能
		Next	RECORDER 画面の Next ボタンと同じ機能
		Previous	RECORDER 画面の Previous ボタンと同じ機能
		Rec	RECORDER 画面の Rec ボタンと同じ機能
		Auto Rec	録音を停止し、新しいファイルで次の録音を開始する機能
		Rec & Start	ワンタッチで録音を開始する機能
SCENE	Inc		一つ大きい番号の SCENE を選択
	Dec		一つ小さい番号の SCENE を選択
	Store		選択した番号にカレント設定を上書きストア
	Recall		選択した番号の SCENE をリコール
	Inc Recall		一つ番号の大きい SCENE をリコール
	Dec Recall		一つ番号の小さい SCENE をリコール
	Direct Recall/Store	No.A00~A99, No.B00~B99	PARAMETER2 で設定した番号の SCENE をリコールする。2 秒以上長押しした場合はその番号にカレント設定を上書きストアする。
TAP TEMPO			トップパネル TAP キーと同じ機能

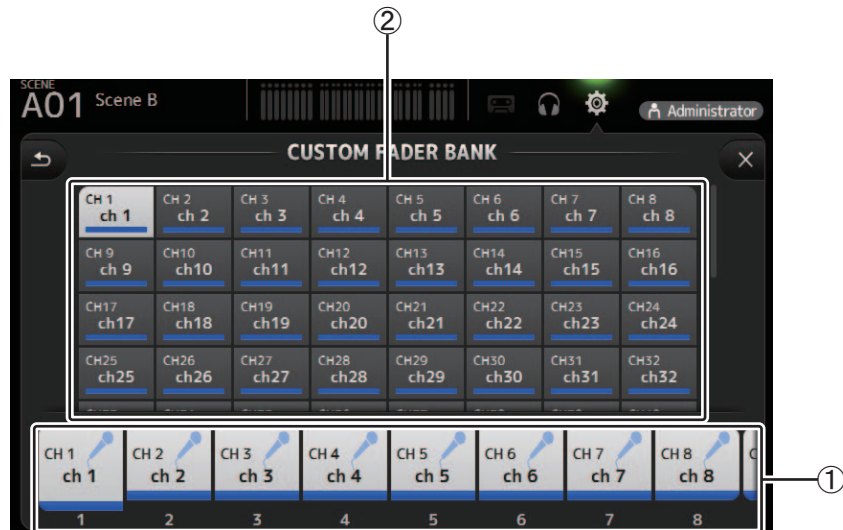
機能選択画面

Function の機能を選択すると、Parameter1 の選択候補を表示し、Parameter1 の機能を選択すると、Parameter2 の選択候補を表示します。選択した機能に続く機能の選択候補がない場合は、Parameter1 または Parameter2 の選択候補を表示しません。



CUSTOM FADER BANK 画面

カスタムフェーダーバンクはインプット、AUX、MATRIX、DCA グループなど、すべてのチャンネルから必要なチャンネルを選んで、区別なく並べて操作できるフェーダーバンクです。



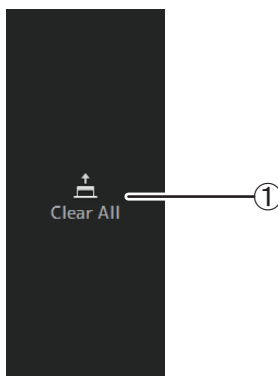
① フェーダーボタン

チャンネルを割り当てるフェーダーを選択します。

② チャンネルボタン

① で選択したフェーダーに割り当てるチャンネルを選択します。None を選択すると、割り当てなしになります。

CUSTOM FADER BANK 画面のメニュー



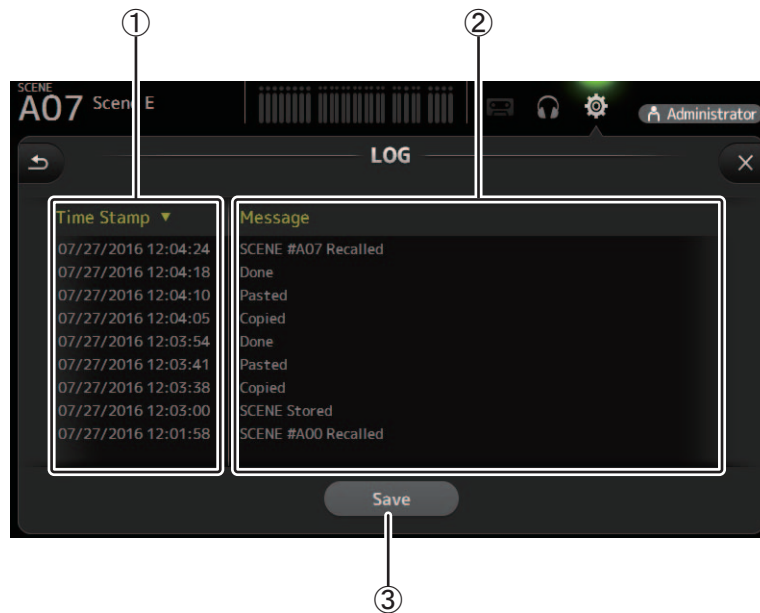
CUSTOM FADER BANK 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。

① Clear All

フェーダーに対するすべてのアサインを、一括で解除 (None に設定) します。

LOG 画面

TF Editor を操作して表示されたメッセージと、その日付、時刻の履歴を表示します。



① Time Stamp 欄

メッセージが表示された日付、時刻の一覧を表示します。
リストの項目名をクリックすると、日付、時刻順でソートします。

② Message 欄

メッセージの一覧を表示します。
リストの項目名をクリックすると、アルファベット順でソートします。

③ Save ボタン

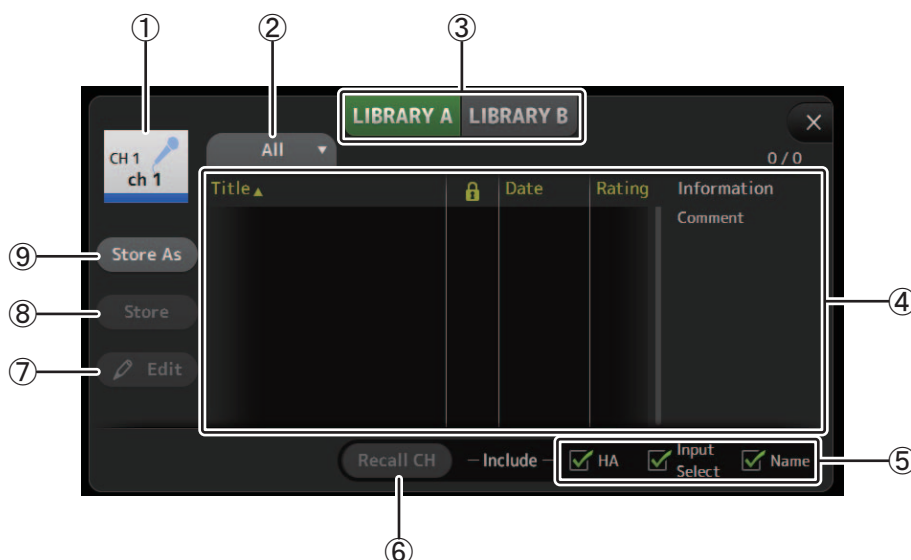
履歴を保存します。

LIBRARY 画面

HOME/LIBRARY エリアの LIBRARY ボタンを押すと表示されます。

この画面では保存されているプリセットを呼び出します。

プリセットには、各ソースに適したチャンネルの設定が保存されています。プリセットを呼び出して大まかな設定ができた状態から各チャンネルの音作りを始めると、効率よい作業ができます。また、自身でよく使う設定を保存しておくこともできます。



① チャンネル名表示

チャンネル名を表示します。

② カテゴリー選択ボタン

クリックすると、カテゴリーの選択メニューを表示します。メニューから選択したカテゴリーのプリセットがリストに表示されます。

③ ライブラリー切り替えボタン

リスト表示するライブラリーを切り替えます。

LIBRARY A: ライブラリーA に保存されたプリセットを表示します。

LIBRARY B: ライブラリーB に保存されたプリセットを表示します。

④ リスト

プリセットを表示します。

リストの項目名をクリックすると、クリックした項目の内容でソートします (Information を除く)。

プリセットをクリックすると選択できます。選択したプリセットはハイライト表示になり、保存、呼び出し、編集の対象にします。



の欄をクリックすると、鍵アイコンが付いたり消えたりします。鍵アイコンを付けると、上書きを禁止できます。

Date 欄には、最後に保存した日時が表示されます。

⑤ リコール対象選択

チェックボックスがオンになっているパラメーターはリコールの対象になります。

プリセットの種類によってリコール対象となる内容が変わります。

インプットチャンネル

HA: アナログゲイン / デジタルゲインの設定、ファンタム電源のオン / オフ、フェイズの設定

Input Select: 入力ソースの設定

Name: チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

AUX1 ~ 8, STEREO チャンネル

GEQ: GEQ の設定

Name: チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

FX RTN, AUX9/10 ~ AUX19/20 チャンネル

FX: エフェクトの設定

Name: チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

SUB, MATRIX1 ~ MATRIX4 チャンネル

Name: チャンネル名、アイコン、チャンネルカラー

⑥ Recall CH ボタン

選択中のチャンネルにプリセットをリコールします。

⑦ Edit ボタン

クリックすると、タイトルとコメントを編集する画面を表示します。

⑧ Store ボタン

リストで選択しているプリセットに、現在のチャンネルの設定を上書き保存します。

⑨ Store As ボタン

現在のチャンネルの設定を、新規プリセットとして保存します。

クリックすると、プリセット名を入力する画面を表示します。

専用画面からライブラリー画面を開く

各専用画面からライブラリー画面を開くと、ライブラリー画面に下記のボタンが追加で表示されます。

Recall EQ ボタン

EQ 画面から呼び出したときに表示され、EQ/HPF の設定のみリコールできます。

Recall Gate ボタン

GATE 画面から呼び出したときに表示され、GATE の設定のみリコールできます。

Recall COMP ボタン

COMP 画面から呼び出したときに表示され、COMP の設定のみリコールできます。

Recall FX ボタン

FX 画面から呼び出したときに表示され、エフェクトの設定のみリコールできます。

Recall GEQ ボタン

GEQ 画面から呼び出したときに表示され、GEQ の設定のみリコールできます。

プリセットのインポート / エクスポート

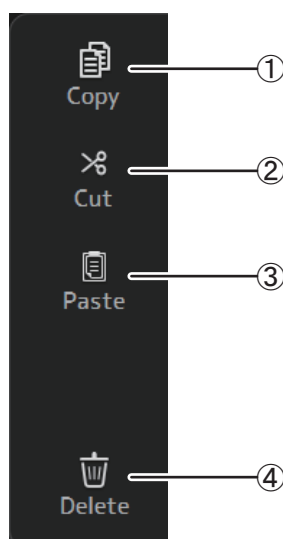
LIBRARY 画面では、プリセットをプリセットのリストからコンピューターのデスクトップやフォルダーにドラッグ&ドロップすることで個別にバックアップできます。エクスポートしたいプリセットを長押ししてから、ドラッグ&ドロップしてください。

このときプリセットは TFP ファイルとしてコンピューターに保存されます。

TFP ファイルは TF Editor にドラッグ&ドロップすることで、ライブラリーに追加されます。

LIBRARY 画面のメニュー

LIBRARY 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



① Copy

選択しているプリセットをコピーします。

② Cut

選択しているプリセットを切り取ります。

③ Paste

選択しているプリセットに、コピーしたプリセットの設定をペーストします。

④ Delete

選択しているプリセットを削除します。

SOFT KEYBOARD 画面

タイトルやコメントを編集します。画面によって表示される内容は異なります。



- ① **Cancel ボタン**
編集を無効にして、元の画面に戻ります。
- ② **OK ボタン**
編集結果を確定して保存します。
- ③ **Title 欄**
- ④ **Comment 欄**
テキストを入力します。
- ⑤ **キーボード**
クリックした文字を入力します。
コンピューターのキーボードでも入力できます。

OVERVIEW 画面

チャンネルストリップ情報の概要を表示する画面です。起動したときに最初に表示されます。

この画面から各専用画面に移動して操作します。

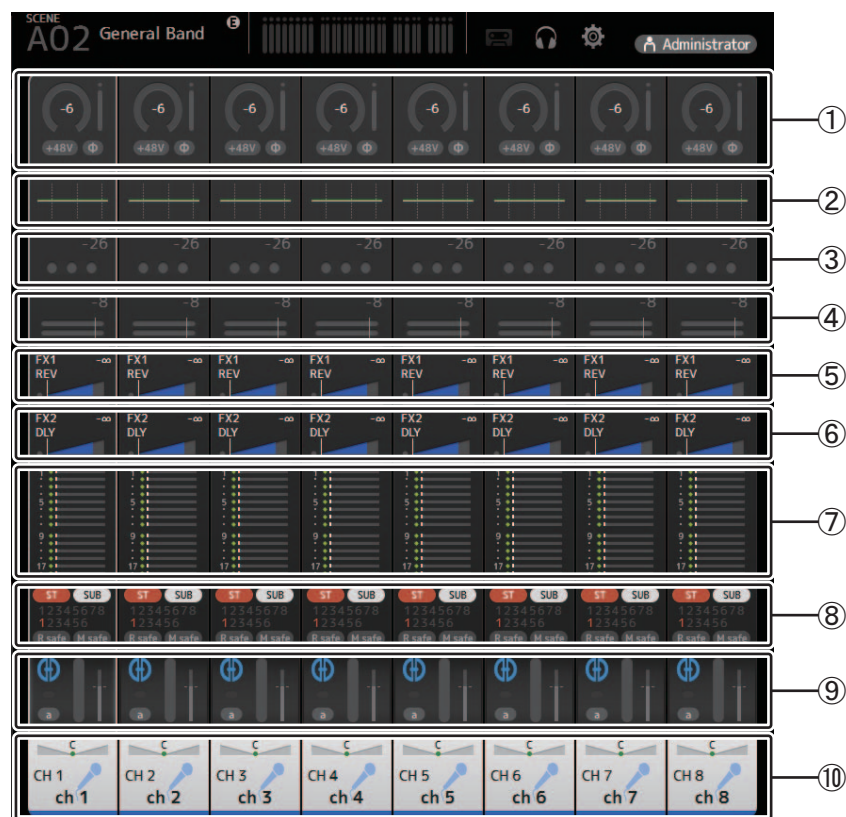
どの画面が開いていても HOME/LIBRARY エリアの HOME ボタンを押すとこの OVERVIEW 画面に戻ります。

OVERVIEW 画面では、上下にドラッグすると表示されていない機能を表示できます。

左右にドラッグすると表示されていないチャンネルを表示できます。

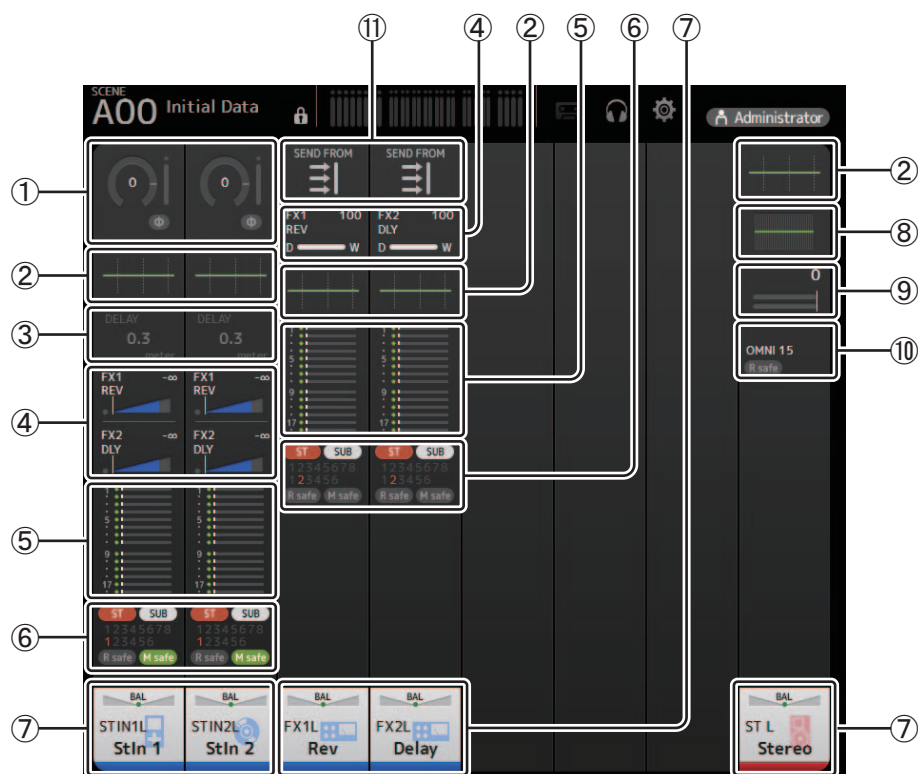
OVERVIEW 画面の表示は、チャンネルの種類によって異なります。

インプットチャンネル



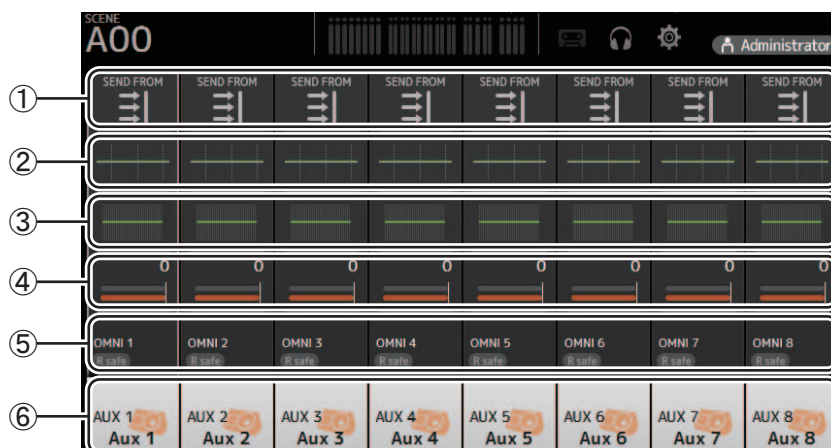
- ① INPUT 画面を表示します(→ P.45)。
- ② EQ 画面を表示します(→ P.48)。
- ③ GATE 画面を表示します(→ P.51)。
- ④ COMP 画面を表示します(→ P.53)。
- ⑤ FX1 画面を表示します(→ P.55)。
- ⑥ FX2 画面を表示します(→ P.55)。
- ⑦ SEND TO AUX 画面を表示します(→ P.62)。
- ⑧ ASSIGN 画面を表示します(→ P.63)。
- ⑨ AUTOMIXER 画面を表示します(→ P.64)。
- ⑩ CH VIEW 画面を表示します(→ P.66)。

ステレオチャンネル



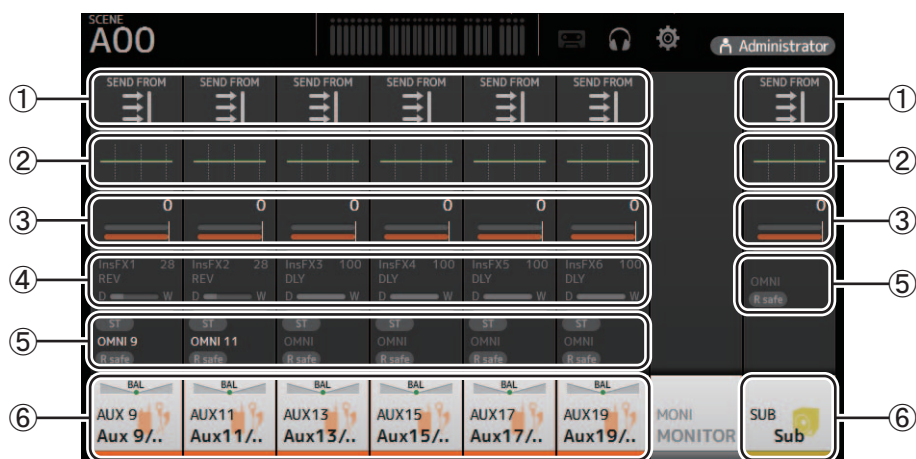
- ① INPUT 画面を表示します (→ P.45)。
- ② EQ 画面を表示します (→ P.48)。
- ③ DELAY 画面を表示します (→ P.84)。
- ④ FX1/FX2 画面を表示します (→ P.55)。
- ⑤ SEND TO AUX 画面を表示します (→ P.62)。
- ⑥ ASSIGN 画面を表示します (→ P.63)。
- ⑦ CH VIEW 画面を表示します (→ P.66)。
- ⑧ GEQ 画面を表示します (→ P.79)。
- ⑨ COMP 画面を表示します (→ P.53)。
- ⑩ OUTPUT 画面を表示します (→ P.81)。
- ⑪ SEND FROM 画面を表示します (→ P.82)。

AUX1 ～ AUX8 チャンネル



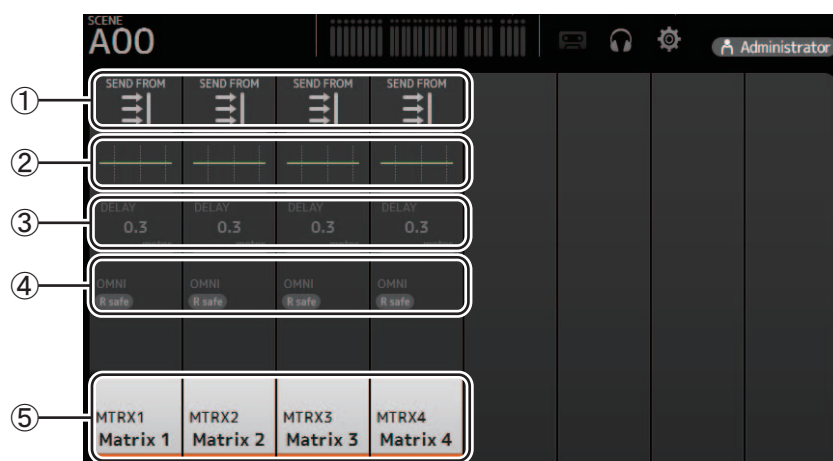
- ① SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。
- ② EQ 画面を表示します(→ P.48)。
- ③ GEQ 画面を表示します(→ P.79)。
- ④ COMP 画面を表示します(→ P.53)。
- ⑤ OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。
- ⑥ CH VIEW 画面を表示します(→ P.66)。

AUX9/10 ～ AUX19/20 チャンネル、SUB チャンネル



- ① SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。
- ② EQ 画面を表示します(→ P.48)。
- ③ GEQ 画面を表示します(→ P.79)。
- ④ COMP 画面を表示します(→ P.53)。
- ⑤ OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。
- ⑥ CH VIEW 画面を表示します(→ P.66)。

MATRIX1 ～ MATRIX4 チャンネル

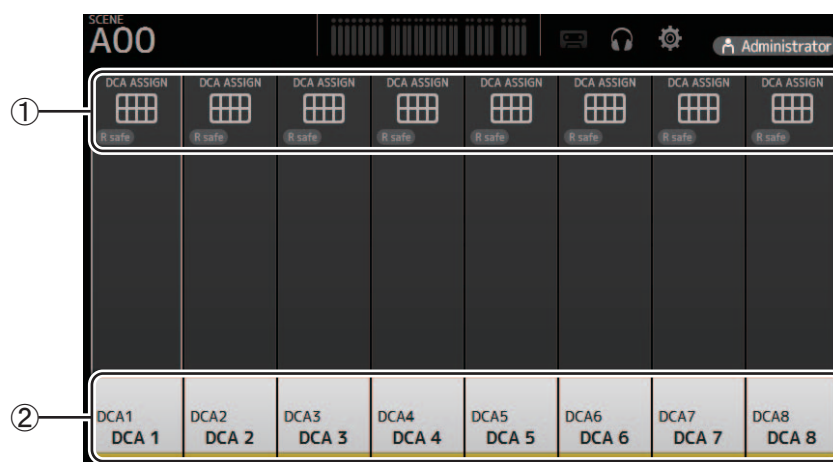


- ① SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。
- ② EQ 画面を表示します(→ P.48)。
- ③ DELAY 画面を表示します(→ P.84)。
- ④ OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。
- ⑤ CH VIEW 画面を表示します(→ P.66)。

NOTE

MATRIX1 ～ 4 チャンネルは、OUTPUT FADER BANK に表示されます。

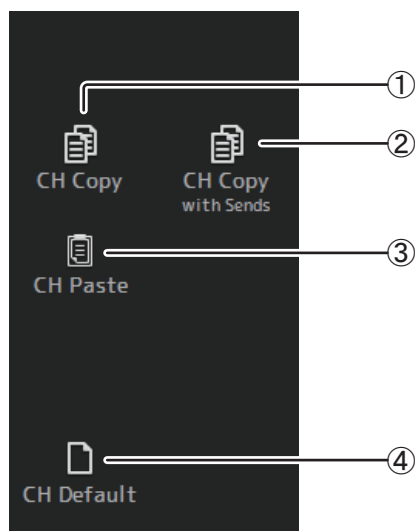
グループチャンネル



- ① DCA ASSIGN 画面を表示します(→ P.83)。
- ② CH VIEW 画面を表示します(→ P.66)。

OVERVIEW 画面のメニュー

OVERVIEW 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



① CH Copy

選択しているチャンネルの設定をコピーします。

② CH Copy with Sends

選択している AUX/MATRIX チャンネルの設定と各チャンネルから送られてくるセンドの設定をコピーします。

③ CH Paste / CH Paste with Sends

選択しているチャンネルに、CH Copy でコピーしたチャンネルの設定、または CH Copy with Send を使ってコピーした設定をペーストします。

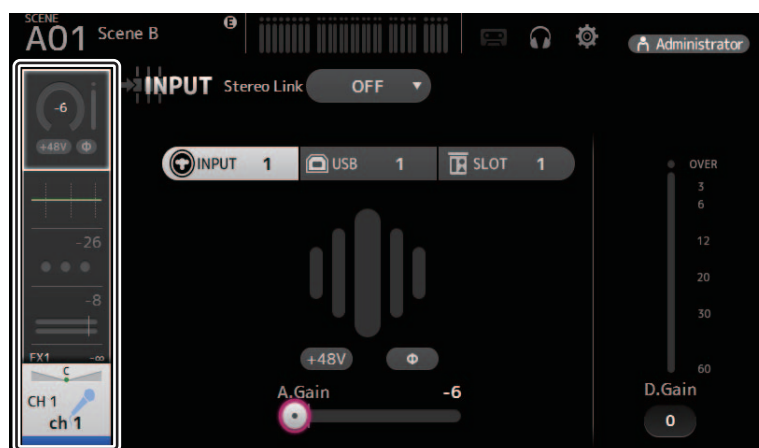
④ CH Default

選択しているチャンネルの設定を初期化します。

ナビゲーション表示部

各専用画面を開いたときに、左側に表示されているのがナビゲーション表示部です。

ナビゲーション表示部に表示される内容は、専用画面を開いているチャンネルの OVERVIEW 画面の内容と同じです。

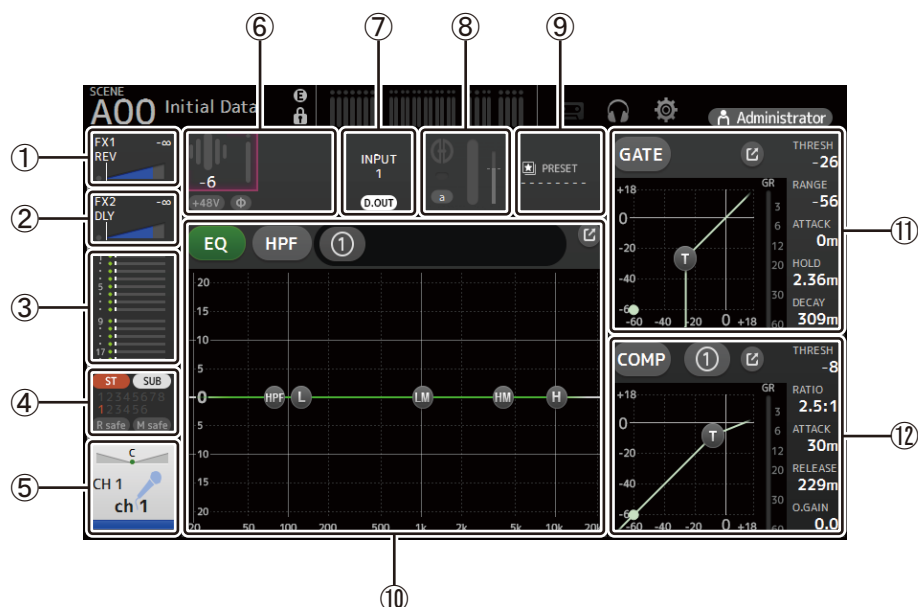


SELECTED CHANNEL 画面

NOTE

SELECTED CHANNEL 画面の EQ、GEQ、GATE、COMP では、ドラッグ & ドロップの操作のほか、各パラメーターをクリックしてフォーカスした状態で、マウスホイールを使った操作ができます。

CH1 ~ CH32

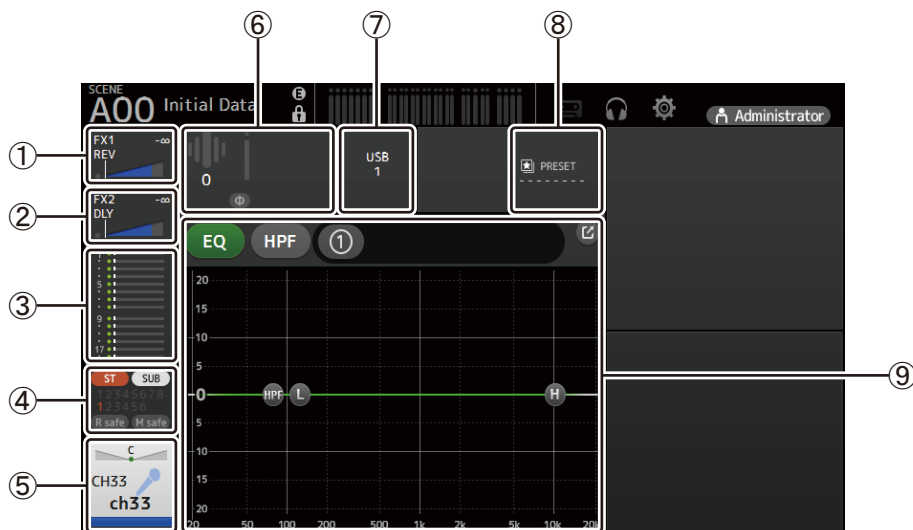


- ① FX1 画面を表示します。(→ P.55)
- ② FX2 画面を表示します。(→ P.55)
- ③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.62)
- ④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.63)
- ⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)
- ⑥ HA の状態を表示します。
クリックしてフォーカスした状態でマウスホイールを回すと、ゲインを調整できます。
フォーカスした状態でクリックすると INPUT 画面を表示します。(→ P.45)
ステレオリンクを設定しているチャンネルでは 2 つの HA が表示されます。



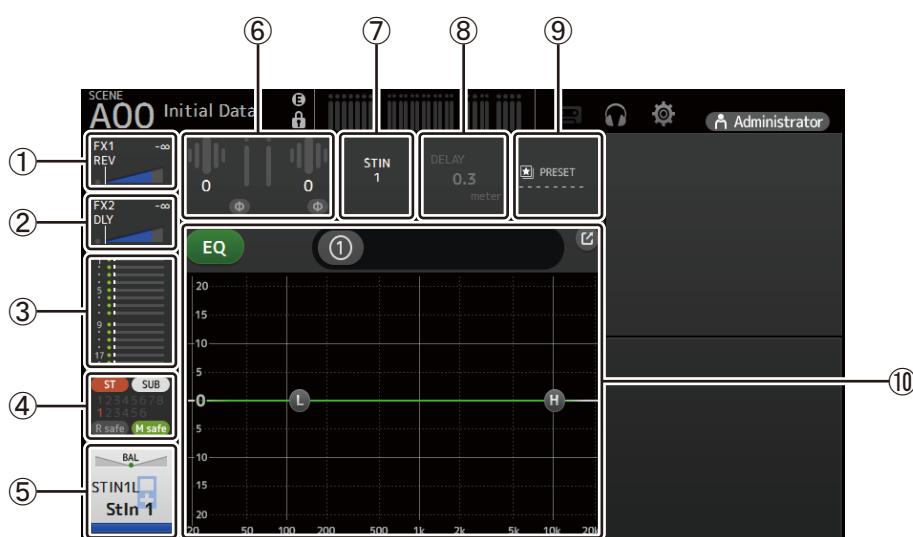
- ⑦ 入力ポートと DIRECT OUT の ON/OFF の状態を表示します。
- ⑧ AUTOMIXER 画面を表示します。(→ P.64)
- ⑨ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ⑩ チャンネルの EQ を設定します。
① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)
- ⑪ チャンネルの GATE を設定します。
③ マークをクリックすると GATE 画面を表示します。(→ P.51)
- ⑫ チャンネルの COMP を設定します。
④ ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
⑤ マークをクリックすると COMP 画面を表示します。(→ P.53)

CH33 ~ CH40



- ① FX1 画面を表示します。(→ P.55)
- ② FX2 画面を表示します。(→ P.55)
- ③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.62)
- ④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.63)
- ⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)
- ⑥ HA の状態を表示します。
クリックしてフォーカスした状態でマウスホイールを回すと、ゲインを調整できます。
フォーカスした状態でクリックすると INPUT 画面を表示します。(→ P.45)
- ⑦ 入力ポートを表示します。
- ⑧ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ⑨ チャンネルの EQ を設定します。
① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)

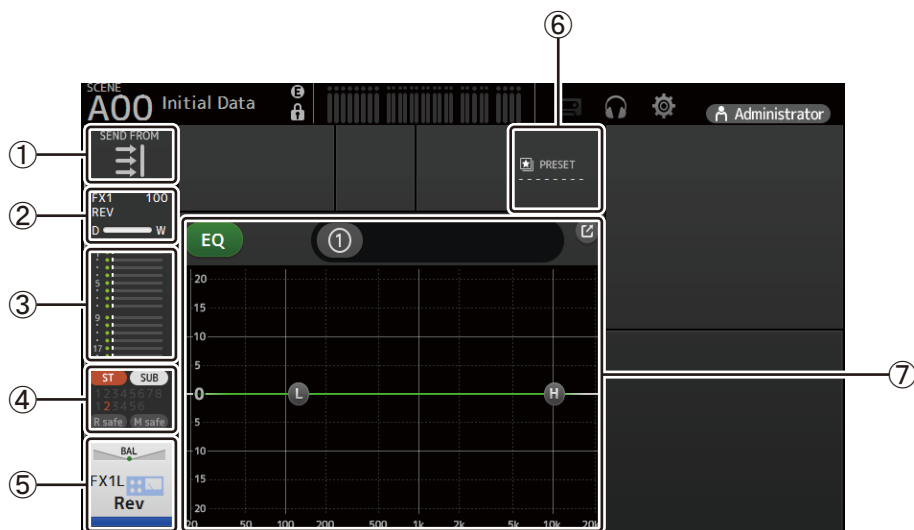
ST IN1L ~ 2R



- ① FX1 画面を表示します。(→ P.55)
- ② FX2 画面を表示します。(→ P.55)
- ③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.62)
- ④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.63)
- ⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)

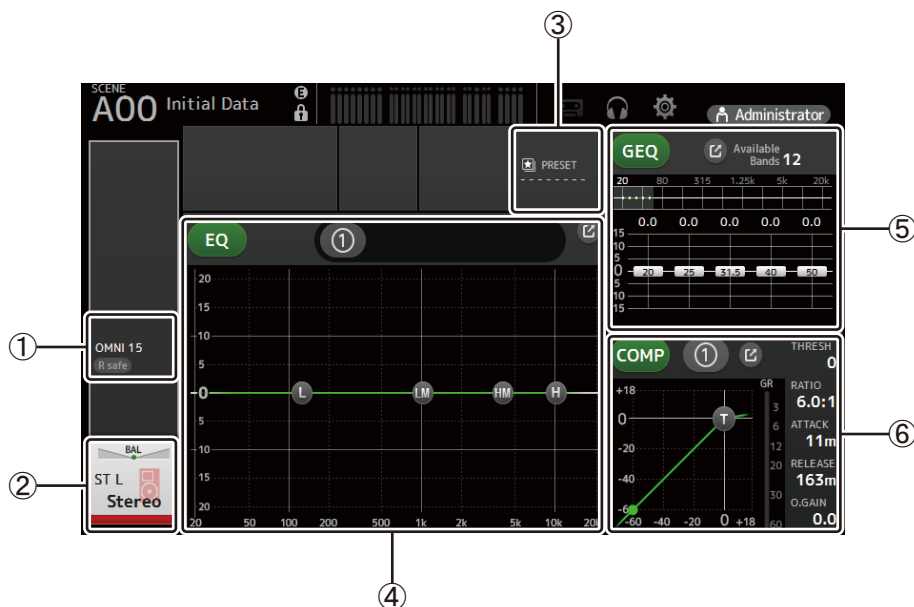
- ⑥ HA の状態を表示します。
クリックしてフォーカスした状態でマウスホイールを回すと、ゲインを調整できます。
フォーカスした状態でクリックすると INPUT 画面を表示します。(→ P.45)
- ⑦ 入力ポートを表示します。
- ⑧ DELAY 画面を表示します。(→ P.84)
- ⑨ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ⑩ チャンネルの EQ を設定します。
 ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
 1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
 ② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)

FX1L ~ 2R



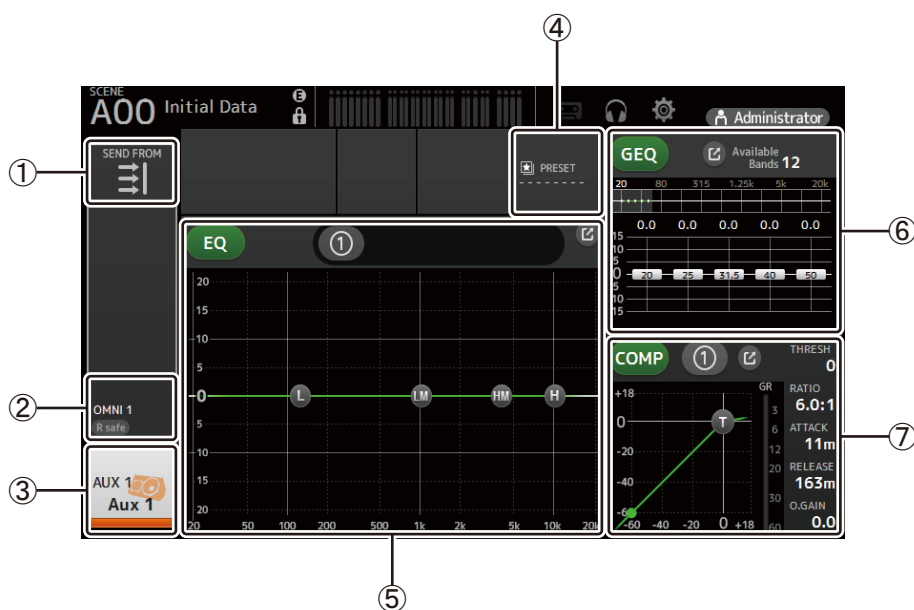
- ① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.82)
- ② FX 画面を表示します。(→ P.55)
- ③ SEND TO AUX 画面を表示します。(→ P.62)
- ④ ASSIGN 画面を表示します。(→ P.63)
- ⑤ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)
- ⑥ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ⑦ チャンネルの EQ を設定します。
 ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
 1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
 ② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)

ST L/R



- ① OUTPUT 画面を表示します。(→ P.81)
- ② CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)
- ③ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ④ チャンネルの EQ を設定します。
 - ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
 - ② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)
- ⑤ チャンネルの GEQ を設定します。
 - ① マークをクリックすると GEQ 画面を表示します。(→ P.79)
- ⑥ チャンネルの COMP を設定します。
 - ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
 - ② マークをクリックすると COMP 画面を表示します。(→ P.53)

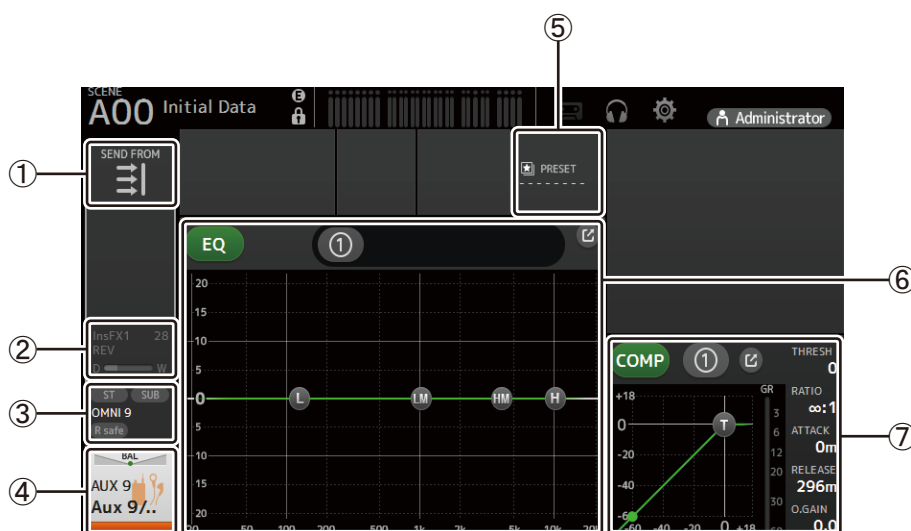
AUX1 ~ AUX8



- ① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.82)
- ② OUTPUT 画面を表示します。(→ P.81)
- ③ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)

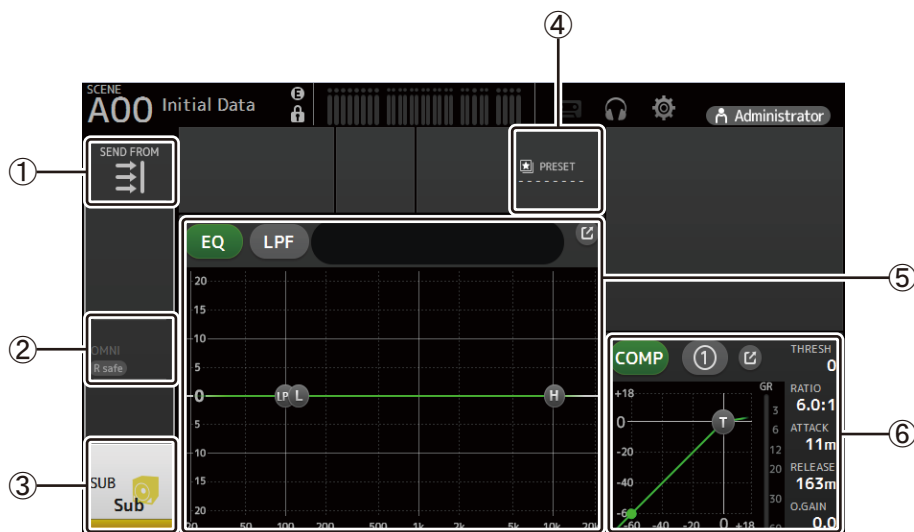
- ④ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ⑤ チャンネルの EQ を設定します。
 - ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
 - ② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)
- ⑥ チャンネルの GEQ を設定します。
 - ③ マークをクリックすると GEQ 画面を表示します。(→ P.79)
- ⑦ チャンネルの COMP を設定します。
 - ④ ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
 - ⑤ マークをクリックすると COMP 画面を表示します。(→ P.53)

AUX9 ~ AUX20



- ① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.82)
- ② FX 画面を表示します。(→ P.55)
- ③ OUTPUT 画面を表示します。(→ P.81)
- ④ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)
- ⑤ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)
- ⑥ チャンネルの EQ を設定します。
 - ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
 - ② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)
- ⑦ チャンネルの COMP を設定します。
 - ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
 - ② マークをクリックすると COMP 画面を表示します。(→ P.53)

SUB



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.82)

② OUTPUT 画面を表示します。(→ P.81)

③ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)

④ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)

⑤ チャンネルの EQ を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタタイプの切り替えは EQ 画面で設定します。

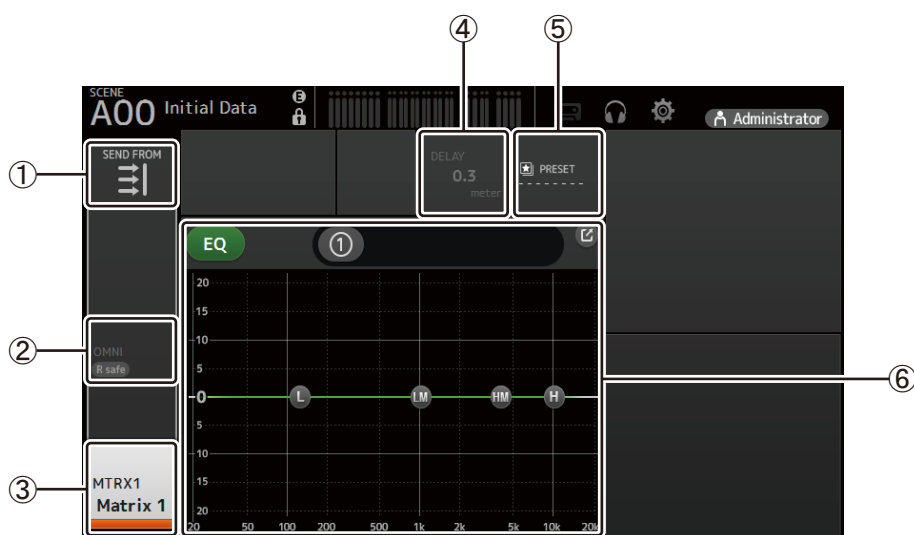
② マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)

⑥ チャンネルの COMP を設定します。

① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。

② マークをクリックすると COMP 画面を表示します。(→ P.53)

MATRIX1 ~ MATRIX4



① SEND FROM 画面を表示します。(→ P.82)

② OUTPUT 画面を表示します。(→ P.81)

③ CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)

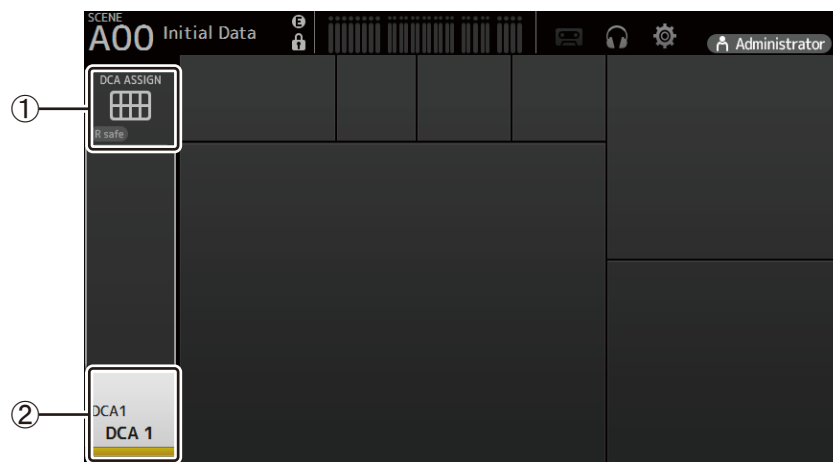
④ DELAY 画面を表示します。(→ P.84)

⑤ LIBRARY 画面を表示します。(→ P.30)

⑥ チャンネルの EQ を設定します。

- ① ボタンで 1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob EQ モードのタイプ選択やフィルタータイプの切り替えは EQ 画面で設定します。
- マークをクリックすると EQ 画面を表示します。(→ P.48)

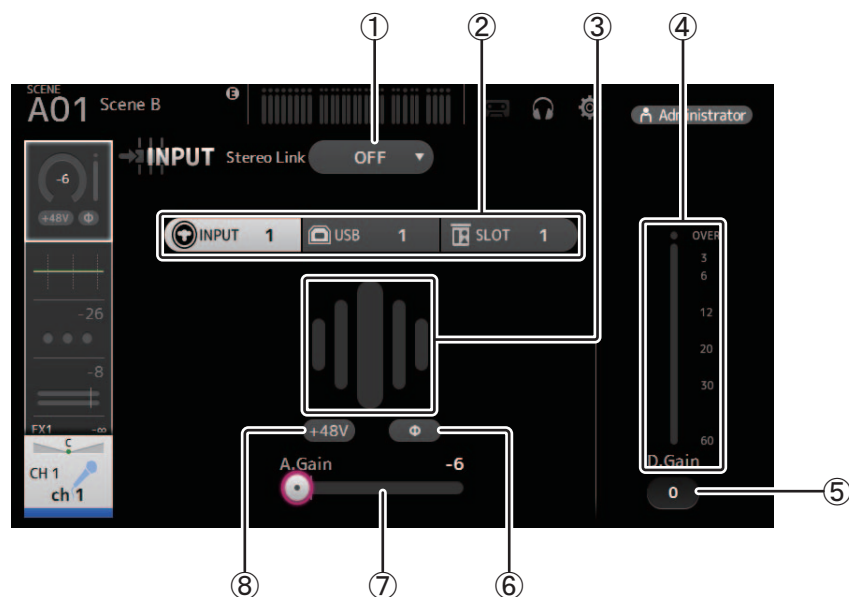
DCA1 ～ DCA8



- ① DCA ASSIGN 画面を表示します。(→ P.83)
- ② CH VIEW 画面を表示します。(→ P.66)

INPUT 画面

ステレオリンクの設定、入力ソースの選択、ファンタム電源のオン/オフ、フェイズの切り替え、入力ゲインを設定します。



① ステレオリンク選択ボタン

隣り合った 2 つのモノラルインプットチャンネルを選択し、ステレオリンクの機能を設定します。

クリックすると、ポップアップメニューを表示します。

OFF: ステレオリンクの設定を無効にします。

CH1&2: ステレオリンクを設定します。設定すると、奇数チャンネルは L、偶数チャンネルは R にパンが振り切られます。CH の数字は選択しているチャンネルによって変わります。

CH2&3: ステレオリンクを設定します。設定すると、偶数チャンネルは L、奇数チャンネルは R にパンが振り切られます。CH の数字は選択しているチャンネルによって変わります。

② インプット選択ボタン

インプットチャンネルの入力ソース(入力ポート)を切り替えます。選択できるインプットは、選択中のチャンネルによって異なります。

INPUT: INPUT 端子に接続した機器からの入力を選択します。

USB: USB TO HOST 端子に接続したコンピューターからの入力を選択します。

SLOT: 拡張スロットに挿入された NY64-D からの入力を選択します。NY64-D と Dante ネットワークで接続された Tio1608-D などのステージボックスからの入力の選択に使用してください。

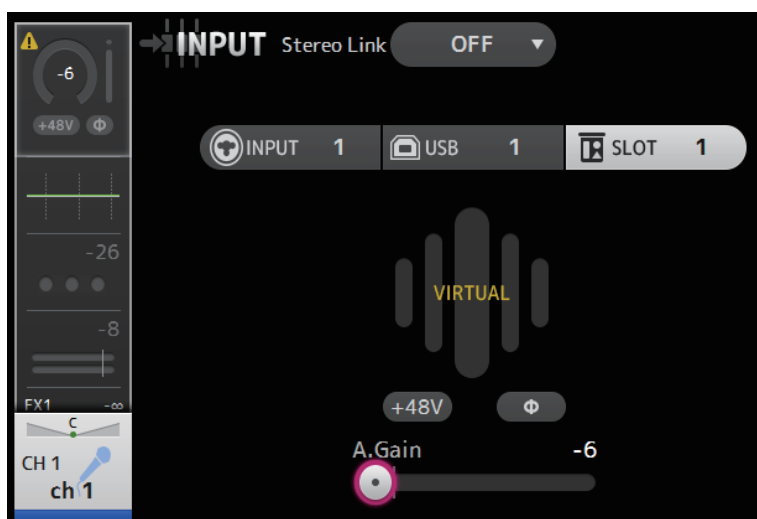
Playback: ST IN1 で表示されます。フロントパネルの USB 端子に挿入したポータブルデバイスなどからの入力を選択します。

NOTE

USB を選択したときは、⑦ ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、⑧ +48V ボタンが非表示になります。

SLOT を選択した場合、SLOT SETUP 画面の「HA Control」ボタンが ON になっていないときはアナログゲインおよび +48V ボタンの操作はできません。また、ヘッドアンプの操作ができない機器からの入力のときは、⑦ ゲインスライダーがデジタルゲインとなり、⑧ +48V ボタンが非表示になります。

入力ソースを SLOT に設定しても、実際の入力ソースがない場合(例:NY64-D カードが挿入されていない、Tio1608-D などのステージボックスが接続されていない、Dante のパッチがされていない)は、「仮想の HA」であることを本画面および OVERVIEW 画面、CH VIEW 画面の HA ボックス部分にも表示します。



③ **GainFinder(ゲインファインダー)**

入力レベルを表示します。音声を入力したときにレベル表示が中央に合うように調整すると、入力ゲインを適切な範囲に設定できます。

④ **レベルメーター**

ゲイン調整後のレベルを表示します。

⑤ **デジタルゲインテキストボックス**

デジタルゲインを設定します。初期設定では 0dB に設定されています。

テキストボックスをクリックし、フォーカスした状態でマウスホイールを回すと値が変化します。また、フォーカスした状態で再度テキストボックスをクリックすると、コンピューターキーボードで値を直接入力できます。

⑥ **Φ(フェイズ)ボタン**

信号の位相を切り替えます。

オンにすると、入力される信号の位相を反転します。

⑦ **ゲインスライダー**

インプット選択が INPUT のときは、ヘッドアンプのアナログゲインを設定します。

アナログゲインを +17dB と +18dB の間で変化させると、PAD(-24dB)のオン / オフが切り替わります。

インプット選択が USB のときは、デジタルゲインを設定します。

⑧ **+48V ボタン**

ヘッドアンプのファンタム電源(+48V)のオン / オフを切り替えます。

オン: ファンタム電源をオンにします。

オフ: ファンタム電源をオフにします。

インプット選択が USB のときは非表示になります。

SYSTEM SETUP 画面の +48V Master ボタンがオフのときは、このボタンをオンにしてもファンタム電源は供給されません(→ P.19)。

注記

ファンタム電源について

ファンタム電源が不要な場合、+48V ボタンをオフにしてください。

ファンタム電源を使用する場合は、本体 / 外部機器の故障やノイズを防ぐために、次の内容にご注意ください。

- ・ INPUT 端子にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、+48V ボタンをオフにする。
- ・ +48V ボタンをオンにしたまま、ケーブルの抜き差しをしない。
- ・ +48V ボタンのオン / オフは、そのチャンネルのボリュームをすべて最小にした状態で行う。

NOTE

ファンタム電源使用中で、INPUT 端子に接続されている機器の Hot と Cold 間の出力インピーダンスに差がある場合にはノイズが発生することがあります。

⑨ Gain Unlink ボタン

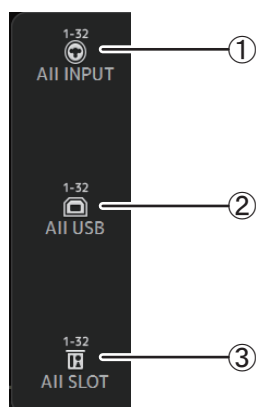
ステレオチャンネル、またはステレオリンクの設定をオンにしたときに表示されます。

ボタンを押している間、ゲイン操作のリンクが一時的にオフになり、左右のゲインを個別に操作できます。ボタンを離すと、ボタンを離したときの差分を保ったまま左右のゲインがリンク動作します。操作する場合は、操作したいチャンネルのゲインスライダーをクリックして選択したあと、Gain Unlink ボタンをクリックしたままマウスホイールを回してください。



インプット画面のメニュー

INPUT 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



① All INPUT

入力ソースを INPUT 端子に一括で切り替えます。

② All USB

入力ソースを USB TO HOST 端子に接続したコンピュータからの接続に一括で切り替えます。

③ All SLOT

入力ソースを SLOT の NY64-D に接続された Dante ネットワーク機器からの入力に一括で切り替えます。

切り替える単位は下記のとおりとなります。

TF5:

CH1-32 が選択されているときは、CH1-32 を一括で切り替え。
CH33-40 が選択されているときは、CH33-40 を一括で切り替え。

TF3:

CH1-24 が選択されているときは、CH1-24 を一括で切り替え。
CH25-32 が選択されているときは、CH25-32 を一括で切り替え。
CH33-40 が選択されているときは、CH33-40 を一括で切り替え。

TF1/TF-RACK:

CH1-16 が選択されているときは、CH1-16 を一括で切り替え。
CH17-32 が選択されているときは、CH17-32 を一括で切り替え。

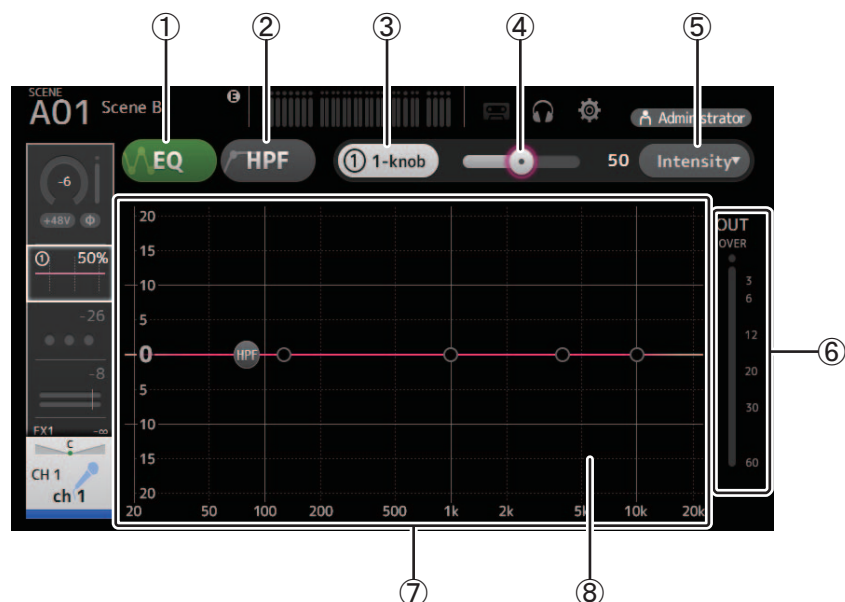
EQ 画面

各チャンネルの EQ を設定します。

CH 1-32, AUX 1-19/20, STEREO, MATRIX 1-4 には 4 バンド、CH33-40, STIN1, STIN2, FX1, FX2, SUB には 2 バンドのパラメトリック EQ が用意されています。

マウスホイールひとつで簡単に操作できる 1-knob モードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えもこの画面で操作します。

4 バンドパラメトリック EQ



① EQ ボタン

EQ のオン / オフを切り替えます。

② HPF ボタン

HPF(ハイパスフィルター)のオン / オフを切り替えます。
CH1 ~ CH40 で表示されます。

③ 1-knob ボタン

1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
1-knob モードのときは、ボタンの横に 1-knob レベルスライダーが表示されます。

④ 1-knob レベルスライダー

1-knob EQ のかかり具合を調節します。
マニュアルモードのときは、選択しているバンドの Q/F/G の情報が表示されます。

⑤ EQ モードタイプ選択ボタン

1-knob モードのときは、1-knob EQ のタイプを選択します。
ボーカルには「Vocal」を、それ以外の楽器には、「Intensity」を選びます。
「Intensity」の場合は、マニュアルモードで設定した値を中間値として、フラットから設定値をさらに強調した設定の間を操作できます。
出力チャンネルの EQ には「Loudness」が用意されています。低域と高域を強調する設定を操作できます。
選択できるタイプは、次のようにチャンネルによって異なります。

タイプ	チャンネル								
	CH1-32 HPF+4 バンド	CH33-40 HPF+2 バンド	ST IN 2 バンド	FX 2 バンド	STEREO 4 バンド	AUX1-8 4 バンド	AUX9/10- AUX19/20 4 バンド	MATRIX1-4 4 バンド	SUB 2 バンド +LPF
Intensity	○	○	○	○	○	○	○	○	×
Vocal	○	×	×	×	×	×	×	×	×
Loudness	×	×	×	×	○	○	○	○	×

マニュアルモードのときは、フィルタータイプを選択します。LOW バンドと HIGH バンドはフィルタータイプを切り替えられます。

CH1-CH40 の LOW バンドは、ローシェルビングとベルタイプを選べます。

それ以外のチャンネル EQ(専用の HPF が装備されていないチャンネル EQ)では、HPF、ローシェルビング、ベルタイプから選べます。

HIGH バンドは、LPF、ハイシェルビング、ベルタイプから選べます。

⑥ EQ アウトプットレベルメーター

EQ の出力レベルを表示します。

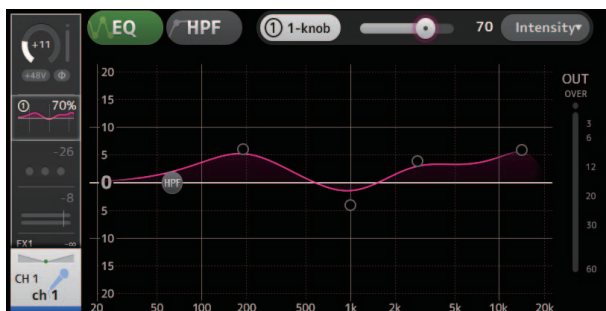
⑦ 周波数特性表示 / 設定

EQ やフィルターのパラメーターの設定値が表示されます。各バンドの周波数やゲインなどの変更に従って、特性カーブが変化します。

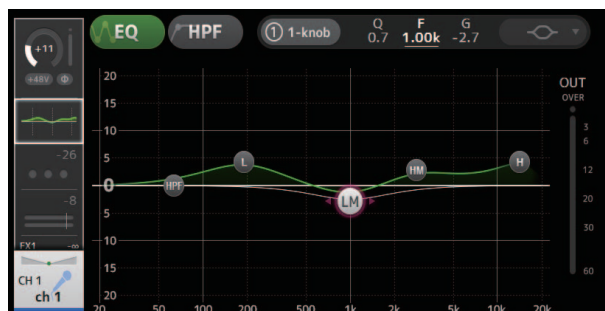
1-knob EQ モードの場合は、1-knob レベルスライダを操作します。

マニュアルモードでは、カーブ上のハンドルをドラッグして設定を変更します。HPF がオンのときは、HPF のハンドルをドラッグして、カットオフ周波数を操作します。HPF は、1-knob EQ のタイプが Intensity のときも独立して操作できます。

<1-knob EQ モードの場合>



<マニュアルモードの場合>



1-knob EQ モードの仕組み

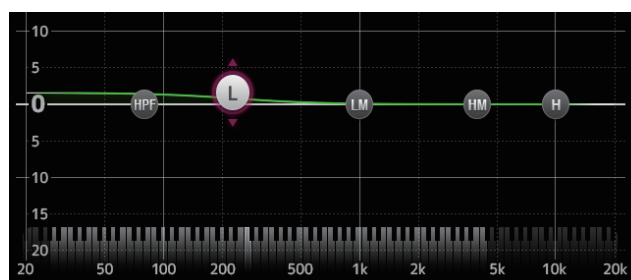
1-knob EQ モードにすると、複数のパラメーターを同時にひとつの操作で設定できます。これにより、複雑な EQ の調節を簡単に操作できます。本体にあらかじめ保存されている Preset には、それぞれの楽器に合った EQ が設定されています。この EQ 設定を 1-knob EQ モードで操作することで、全体のバランスを損なうことなく EQ のかかり具合を調節できます。

マニュアルモードで EQ の設定を作って 1-knob EQ モード(Intensity)に移行すると、マニュアルモードで作った設定を 50%(中間の値)として、0%(EQ がかかっていない状態)～100%(マニュアルモードで作った設定をさらに強調した状態)の間で EQ の設定を操作できます。あらかじめ作った EQ の設定の微調整を、ひとつの操作でできるので便利です。

1-knob EQ のタイプを Vocal や Loudness に変更すると、あらかじめ用意された EQ カーブで 0%(EQ がかかっていない状態)～100%(EQ のかかり具合が最大の状態)の間で操作できます。

⑧ 鍵盤表示

グラフの下部でパラメーターのない場所をクリックすると、鍵盤が表示されます。調整する周波数と楽器の音階との関係を視覚的に把握できます。



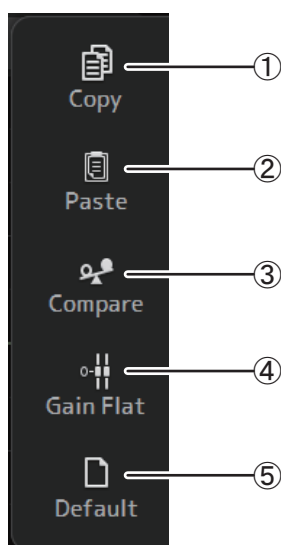
LPF を設定する

SUB チャンネルでは、EQ とは独立してサブウーファー用の調整(高域成分のカット)を行なう LPF を設定できます。



EQ 画面のメニュー

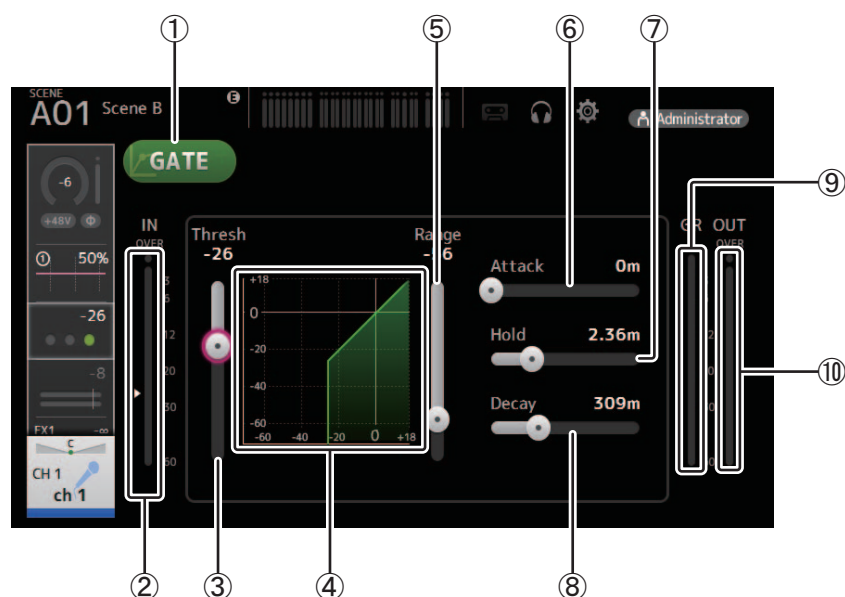
EQ 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



- ① **Copy**
選択しているチャンネルの EQ のパラメーターをコピーバッファに格納します。
- ② **Paste**
コピーバッファに格納されている EQ のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- ③ **Compare**
選択しているチャンネルの EQ のパラメーターと、コピーバッファに格納されている EQ のパラメーターを切り替えて比較します。
- ④ **Gain Flat**
選択しているバンドのゲインをフラットに設定します。
- ⑤ **Default**
EQ 全体の設定を初期状態に設定します。

GATE 画面

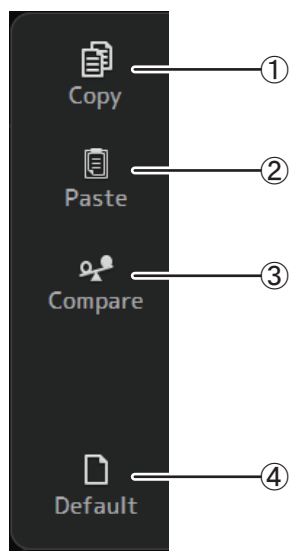
チャンネルのゲートを設定します。スレッシュホルドレベル(しきい値)より小さい信号が入力された場合、出力を一定の値(RANGE)で小さくします。GATEはCH1～CH32に搭載されています。



- ① **GATE ボタン**
ゲート機能のオン / オフを切り替えます。
- ② **ゲートインプットレベルメーター**
ゲート前段のレベルを表示します。
- ③ **Threshold スライダー**
ゲートの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。
- ④ **ゲートグラフ**
ゲートレベルの設定を視覚的に表示します。
- ⑤ **Range スライダー**
ゲートの効果がかかっているときの減衰量を設定します。
- ⑥ **Attack スライダー**
入力信号がスレッシュホルドレベルを超えてから、ゲートが開くまでの時間を設定します。
- ⑦ **Hold スライダー**
入力信号がスレッシュホルドレベルを下回ったあとにゲートが閉じ始めるまでの待ち時間を設定します。
- ⑧ **Decay スライダー**
入力信号が HOLD の待ち時間を経たあと、ゲートが閉じるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが 6dB 変化するのに要する時間で表現します。
- ⑨ **GR(ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- ⑩ **OUT(ゲートアウトプット)メーター**
ゲート後段のレベルを表示します。

GATE 画面のメニュー

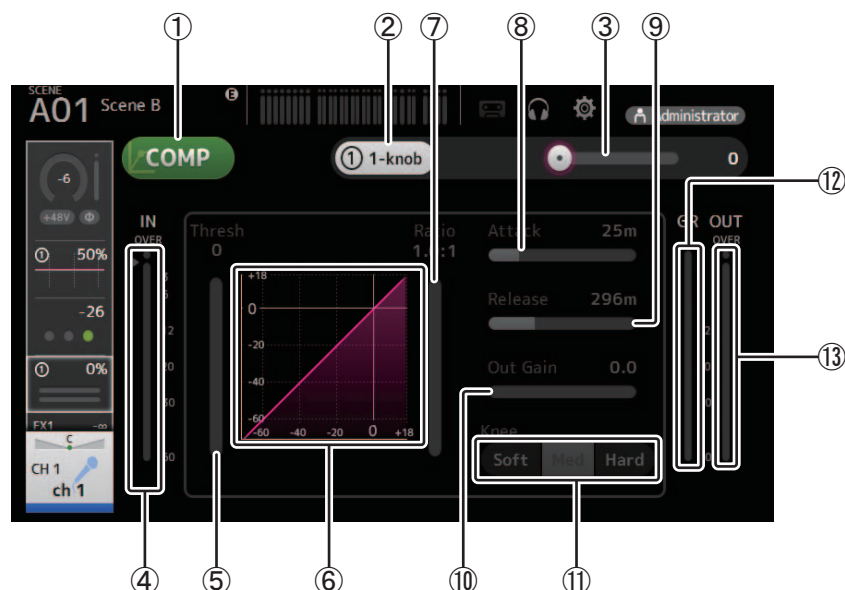
GATE 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



- ① **Copy**
選択しているチャンネルの GATE のパラメーターをコピーバッファに格納します。
- ② **Paste**
コピーバッファに格納されている GATE のパラメーターを、選択しているチャンネルにペーストします。
- ③ **Compare**
選択しているチャンネルの GATE のパラメーターと、コピーバッファに格納されている GATE のパラメーターを切り替えて比較します。
- ④ **Default**
GATE の設定を初期状態に設定します。

COMP 画面

各チャンネルのコンプレッサーを設定します。マウスホイールひとつで簡単に操作できる 1-knob モードと、個別にパラメーターを操作するマニュアルモードの切り替えも、この画面で操作します。



- ① **COMP ボタン**
コンプレッサーのオン / オフを切り替えます。
- ② **1-knob ボタン**
1-knob モードとマニュアルモードを切り替えます。
- ③ **1-knob レベルスライダー(1-knob モード時のみ)**
1-knob COMP のかかり具合を調整します。
マニュアルモードのときは、表示されません。
- ④ **コンプレッサーインプットレベルメーター**
コンプレッサー前段のレベルを表示します。
- ⑤ **Threshold スライダー**
コンプレッサーの効果がかかるしきい値のレベルを設定します。
- ⑥ **コンプレッサーグラフ**
設定状態を視覚的に表示します。
- ⑦ **Ratio スライダー**
コンプレッサーの圧縮量を設定します。
- ⑧ **Attack スライダー**
入力信号が Threshold スライダーで設定した値を超えてから、コンプレッサーの効果が最大に達するまでの時間を設定します。
- ⑨ **Release スライダー**
入力信号が Threshold スライダーで設定した値以下に下がったあと、コンプレッサーの効果がなくなるまでの時間を設定します。設定値は、レベルが 6dB 変化するのに要する時間で表現します。
- ⑩ **Out Gain スライダー**
コンプレッサーの出力レベルを調整します。
- ⑪ **Knee ボタン**
スレッシュホールドレベルでの折れ曲がりの鋭さを選択します。Soft ではなめらかに、Hard では急激にコンプレッサーがかかります。
- ⑫ **GR(ゲインリダクション)メーター**
ゲインリダクション量を表示します。
- ⑬ **OUT(コンプレッサーアウトプット)メーター**
コンプレッサー後段のレベルを表示します。

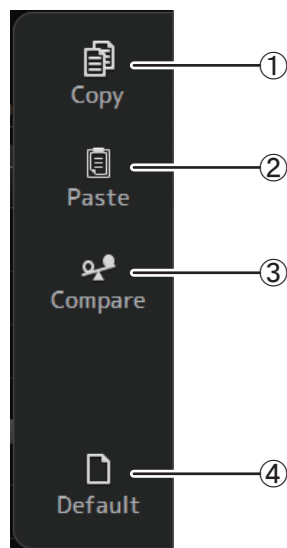
1-knob COMP モードの仕組み

1-knob COMP モードでは、コンプレッサーのかかり具合を簡単に操作できます。1-knob レベルスライダーを右に動かすほどコンプレッションが強くなり、それに応じてレベルが上がります。単にフェーダーやゲインで音量を上げるだけではレベルオーバーが起きてしまうような音量差のある音の粒を揃えて、音が前面に出てくるような効果が得られます。

Threshold、Ratio、Out Gain のバランスを自動的にコントロールすることで、難しいコンプレッサーの設定を気にすることなく操作できます。

COMP 画面のメニュー

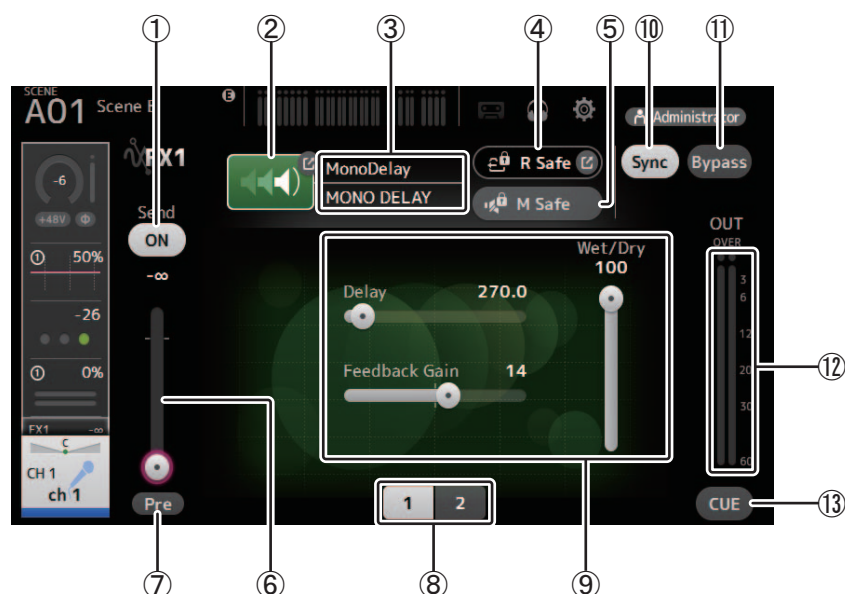
COMP 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



- ① **Copy**
選択している COMP のパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- ② **Paste**
コピーバッファーに格納されている COMP のパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。
- ③ **Compare**
選択しているチャンネルの COMP のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている COMP のパラメーターを切り替えて比較します。
- ④ **Default**
コンプレッサーの設定を初期状態に設定します。

FX 画面(FX1/FX2/InsFX1 ~ 6)

エフェクトの種類やパラメーターを設定します。



- ① **Send ボタン**
FX リターンチャンネルへの送りのオン/オフを切り替えます。
CH1 ~ CH40、ST IN1/2 のインプットチャンネルの場合に表示します。
- ② **エフェクトタイプボタン**
クリックすると、エフェクトを選択する(EFFECT TYPE)画面を表示します。
- ③ **タイプ/ライブラリー名表示**
選択しているライブラリーのタイプ、名称を表示します。
- ④ **R Safe(リコールセーフ)インジケーター**
FX モジュールのリコールセーフの状態を表示します。
クリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します(→ P.22)。
- ⑤ **M Safe(ミュートセーフ)切り替えボタン**
FX モジュールのミュートセーフのオン / オフを切り替えます。
- ⑥ **FX センドレベルスライダー**
FX のセンドレベルを調整します。
CH1 ~ CH40、ST IN1/2 のインプットチャンネルの場合に表示されます。
- ⑦ **Pre ボタン**
FX RETURN チャンネルに送る信号をフェーダーの直前または直後のどちらに送るかを選択します。
オン: フェーダーの直前
オフ: フェーダーの直後
CH1 ~ CH40、ST IN1/2 のインプットチャンネルの場合に表示されます。
- ⑧ **パラメータースライダー切り替えボタン**
クリックすると、表示されていないパラメータースライダーを表示します。
- ⑨ **パラメータースライダー**
それぞれのエフェクトで設定できるパラメーターがスライダーで表示されます。
- ⑩ **Sync ボタン**
ディレイなど、テンポの設定ができるエフェクトのときに表示されます。
- ⑪ **Bypass ボタン**
FX モジュールのバイパスをオン / オフします。
- ⑫ **FX アウトプットレベルメーター**
FX モジュールの出力レベルを表示します。
- ⑬ **CUE ボタン**
FX モジュールの CUE のオン / オフを切り替えます。

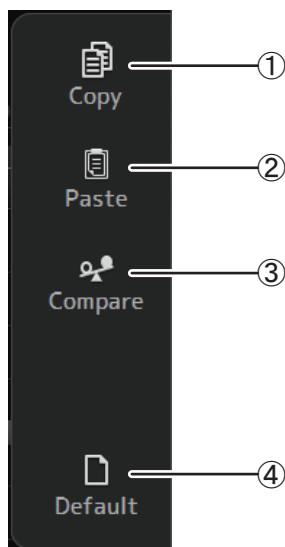
インサートエフェクトを設定する

AUX9/10 ～ AUX19/20 では、インサートエフェクトを設定できます。

インサートエフェクトは、初期設定では Bypass になっているので、Bypass を解除してから使います。

FX 画面のメニュー

FX 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



- ① **Copy**
選択しているエフェクトのパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- ② **Paste**
コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを、選択しているエフェクトにペーストします。
- ③ **Compare**
選択しているエフェクトのパラメーターと、コピーバッファーに格納されているエフェクトのパラメーターを切り替えて比較します。
- ④ **Default**
選択しているエフェクトのパラメーターを初期状態に設定します。

EFFECT TYPE 画面

エフェクトタイプを選択します。目的のボタンをクリックして選択します。



エフェクトパラメーター

REVERB HALL, REVERB ROOM, REVERB STAGE, REVERB PLATE

1 IN/2 OUT のホール、ルーム、ステージ、プレートリバーブのシミュレーションです。

Parameter	Range	Description
Reverb Time	0.3s~20.0s	リバーブの残響の長さ
Initial Delay	1.0~500.0ms	リバーブの初期反射音が出るまでの遅延時間
High Ratio	0.1~1.0	リバーブの高域成分の残響時間の Reverb Time に対する比率
Diffusion	0~10	リバーブ音の左右の広がり
Density	0%~100%	リバーブの密度
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

MONO DELAY

1 IN/2 OUT のベーシックなリピートディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0~2700.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99 ~ +99	フィードバックの量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから DELAY を換算するための値

STEREO DELAY

2 IN/2 OUT のベーシックなステレオディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0~1350.0ms	L チャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0~1350.0ms	R チャンネルのディレイタイム
Feedback Gain L	-99 ~ +99	L チャンネルのフィードバックの量
Feedback Gain R	-99 ~ +99	R チャンネルのフィードバックの量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay L を換算するための値
Note R	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay R を換算するための値

DELAY LCR

1 IN/2 OUT の 3 タップディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0~2700.0ms	L チャンネルのディレイタイム
Delay C	1.0~2700.0ms	センターチャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0~2700.0ms	R チャンネルのディレイタイム
Delay FB	1.0~2700.0ms	フィードバックのディレイタイム
Feedback Gain	-99 ~ +99	フィードバックの量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Level L	-100 ~ +100	L チャンネルのレベル
Level C	-100 ~ +100	センターチャンネルのレベル
Level R	-100 ~ +100	R チャンネルのレベル
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay L を換算するための値
Note C	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay C を換算するための値
Note R	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay R を換算するための値
Note FB	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay FB を換算するための値

ECHO

2 IN/2 OUT のクロスフィードバックループ付きステレオディレイです。

Parameter	Range	Description
Delay L	1.0~1350.0ms	L チャンネルのディレイタイム
Delay R	1.0~1350.0ms	R チャンネルのディレイタイム
Delay FB L	1.0~1350.0ms	L チャンネルのフィードバックディレイタイム
Delay FB R	1.0~1350.0ms	R チャンネルのフィードバックディレイタイム
Feedback Gain L	-99 ~ +99	L チャンネルのフィードバックの量
Feedback Gain R	-99 ~ +99	R チャンネルのフィードバックの量
XFeedback Gain	-99 ~ +99	L>R, R>L のフィードバック量
High Ratio	0.1~1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz~8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz~16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオンオフ
Note L	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay L を換算するための値
Note R	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay R を換算するための値
Note FBL	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay FB L を換算するための値
Note FBR	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay FB R を換算するための値

DELAY->REVERB

1 IN/2 OUT のシリーズ接続されたディレイ / リバースエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0 - 2700.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
DLY BAL	0% - 100%	ディレイのミックスバランス
Reverb Time	0.3s - 20.0s	リバーブの残響の長さ
High Ratio	0.1 - 1.0	リバーブの高域成分の残響時間の、Reverb Time に対する比率
Diffusion	0 - 10	リバーブ音の左右の広がり
Density	0% - 100%	リバーブの密度
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
REV BAL	0% - 100%	リバーブのミックスバランス
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	---, 用 ₃ ~ 60	テンポから Delay を換算するための値

EARLY REF

1 IN/2 OUT のアーリーリフレクションです。

Parameter	Range	Description
Type	S-Hall, L-Hall, Random, Reverse, Plate, Spring	初期反射音のパターンのタイプ
Room Size	0.1 - 20.0	部屋の大きさ (反射音の間隔)
Liveness	0 - 10	反射音の減衰のしかた (0: dead, 10: Live)
Initial Delay	1.0ms - 500.0ms	初期反射音が出るまでの遅延時間
Diffusion	0 - 10	反射音の左右の広がり
Density	0% - 100%	反射音の密度
ER Number	1 - 19	反射音の本数
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

GATE REVERB, REVERSE GATE

1 IN/2 OUT のゲート付アーリーリフレクションとリバースゲート付アーリーリフレクションです。

Parameter	Range	Description
Type	Type-A, Type-B	初期反射音のパターンのタイプ
Room Size	0.1 - 20.0	部屋の大きさ（反射音の間隔）
Liveness	0 - 10	反射音の減衰のしかた
Initial Delay	1.0ms - 500.0ms	初期反射音が出るまでの遅延時間
Diffusion	0 - 10	反射音の左右の広がり
Density	0% - 100%	反射音の密度
ER Number	1 - 19	反射音の本数
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数

CHORUS

2 IN/2 OUT のコーラスエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
AM Depth	0% - 100%	振幅変調の深さ
PM Depth	0% - 100%	ピッチ変調の深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note		テンポから Frequency を換算するための値

FLANGE

2 IN/2 OUT のフランジエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note		テンポから Frequency を換算するための値

SYMPHONIC

2 IN/2 OUT のシンフォニックエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
MOD. Delay	1.0ms - 500.0ms	モジュレーションのディレイタイム
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note		テンポから Frequency を換算するための値

PHASER

2 IN/2 OUT の 16 ステージエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Frequency	0.05Hz - 10.00Hz	モジュレーションのスピード
Depth	0% - 100%	モジュレーションの深さ
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
Offset	0 - 100	フェイズシフトのかかる周波数のオフセット
Phase	0° - 355°	モジュレーションの左右の位相差
Stage	2 - 16	フェイズシフトの段数
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	OFF, ON	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note		テンポから Frequency を換算するための値

M BAND COMP

2 IN/2 OUT の 3 バンドコンプレッサーです。各帯域にソロとゲインリダクションメーターが付いています。

Parameter	Range	Description
Low Gain	-12.0dB - +12.0dB	低域のゲイン
Mid Gain	-12.0dB - +12.0dB	中域のゲイン
High Gain	-12.0dB - +12.0dB	高域のゲイン
Total Gain	-72dB - +12dB	トータルゲイン
L-M XOver	21.2Hz - 8.00kHz	低域 / 中域のクロスオーバー周波数
M-H XOver	21.2Hz - 8.00kHz	中域 / 高域のクロスオーバー周波数
Knee	0 - 5	コンプレッサーのニー（全帯域共通）
Low/Mid/High Link	OFF, ON	オンにすると、低域、中域、高域のスレッシュホルドが差分を保ったまま連動する機能
Low Thr	-54dB - 0dB	低域のスレッシュホルド
Low Ratio	1:1 - ∞:1	低域のレシオ
Low Attack	0ms - 120ms	低域のアタックタイム
Low Release	3.34ms - 42.7s	低域のリリースタイム
Low Bypass	OFF, ON	低域のコンプレッサーのバイパス機能
Low Solo	OFF, ON	低域のソロ機能
Mid Thr	-54dB - 0dB	中域のスレッシュホルド
Mid Ratio	1:1 - ∞:1	中域のレシオ
Mid Attack	0ms - 120ms	中域のアタックタイム
Mid Release	3.34ms - 42.7s	中域のリリースタイム
Mid Bypass	OFF, ON	中域のコンプレッサーのバイパス機能
Mid Solo	OFF, ON	中域のソロ機能
High Thr	-54dB - 0dB	高域のスレッシュホルド
High Ratio	1:1 - ∞:1	高域のレシオ
High Attack	0ms - 120ms	高域のアタックタイム
High Release	3.34ms - 42.7s	高域のリリースタイム
High Bypass	OFF, ON	高域のコンプレッサーのバイパス機能
High Solo	OFF, ON	高域のソロ機能

PING PONG DELAY

1 IN/2 OUT のピンポンディレイです。ディレイ音が左右交互に等間隔で繰り返されるディレイエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Delay	1.0ms - 1350.0ms	ディレイタイム
Feedback Gain	-99% - 99%	フィードバックの量
High Ratio	0.1 - 1.0	フィードバックの高域成分の量
HPF	Thru, 21.2Hz - 8.00kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数
LPF	50.0Hz - 16.0kHz, Thru	ローパスフィルターのカットオフ周波数
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note	---, 00 ~ 1	テンポから Delay を換算するための値

DUAL PITCH

2 IN/2 OUT のピッチシフトエフェクトです。

Parameter	Range	Description
Pitch 1	-24 - 24	Ch1 のピッチ（半音単位）
Fine 1	-50 - 50	Ch1 のピッチ（1 セント単位）
Level 1	-100 - 100	Ch1 の音量
Pan 1	L63 - R63	Ch1 のパン
Delay 1	1.0ms - 1000.0ms	Ch1 のディレイタイム
Feedback Gain 1	-99 - 99	Ch1 のフィードバックレベル
Pitch 2	-24 - 24	Ch2 のピッチ（半音単位）
Fine 2	-50 - 50	Ch2 のピッチ（1 セント単位）
Level 2	-100 - 100	Ch2 の音量
Pan 2	L63 - R63	Ch2 のパン
Delay 2	1.0ms - 1000.0ms	Ch2 のディレイタイム
Feedback Gain 2	-99 - 99	Ch2 のフィードバックレベル
Mode	1 - 10	ピッチシフトの変調幅
Sync	Off, On	テンポパラメーター同期のオン / オフ
Note 1	---, 00 ~ 1	テンポから Delay 1 を換算するための値
Note 2	---, 00 ~ 1	テンポから Delay 2 を換算するための値

OUTPUT DELAY

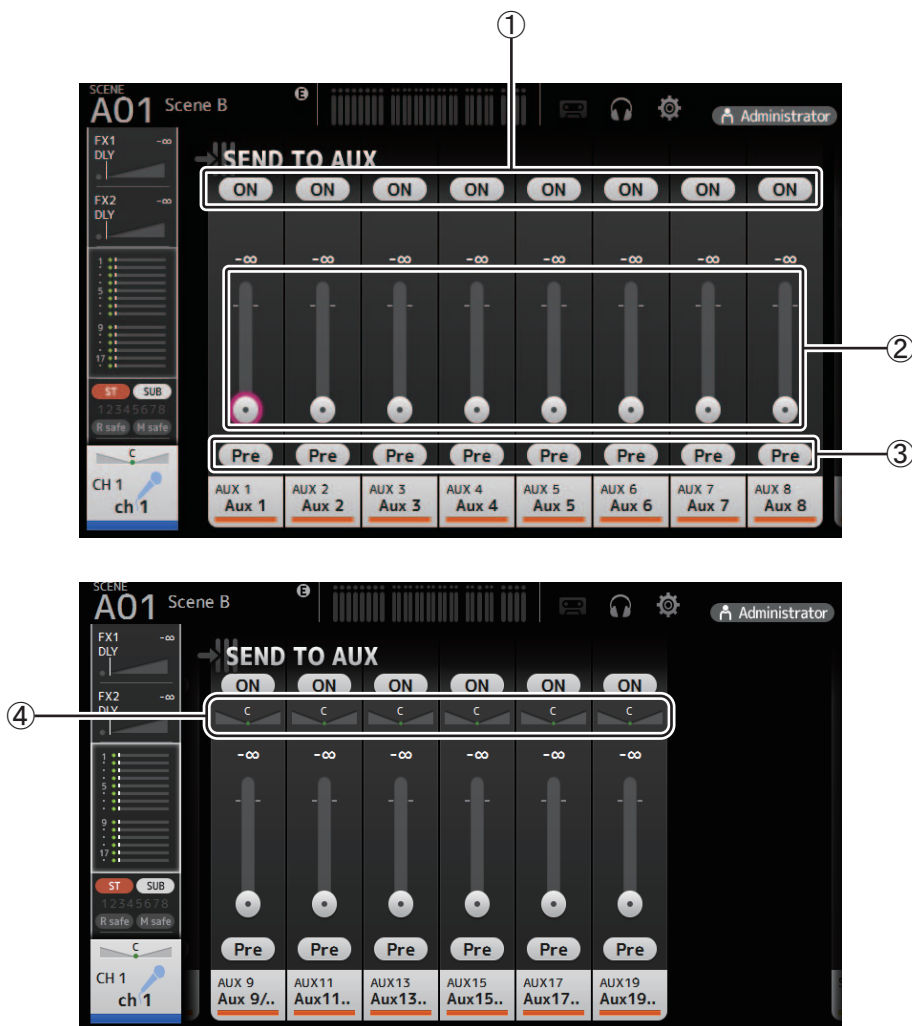
2 イン 2 アウトのシンプルなシングルディレイです。INS FX1 ～ 6 で使用すると、出力の遅延補正などに便利です。

Parameter Name	Range	Description
LR LINK	On, Off	左のディレイと右のディレイのリンク
Delay	0.3 - 343.6 meter 1.1 - 1127.3 feet 1.00 - 1000.00ms 0.03 - 30.00 frame ^{*1}	ディレイタイムをフレーム (frame)、メートル (meter)、フィート (feet)、ミリ秒 (ms) のいずれかの単位で設定

*1 frame rate=24: 0.03 - 24.00、
 frame rate=25: 0.03 - 25.00、
 frame rate=29.97D/29.97: 0.03 - 29.97
 frame rate=30D/30: 0.03 - 30.00
 フレームレートはメニューバー → Setup メニュー → Frame Rate で設定します。

SEND TO AUX 画面

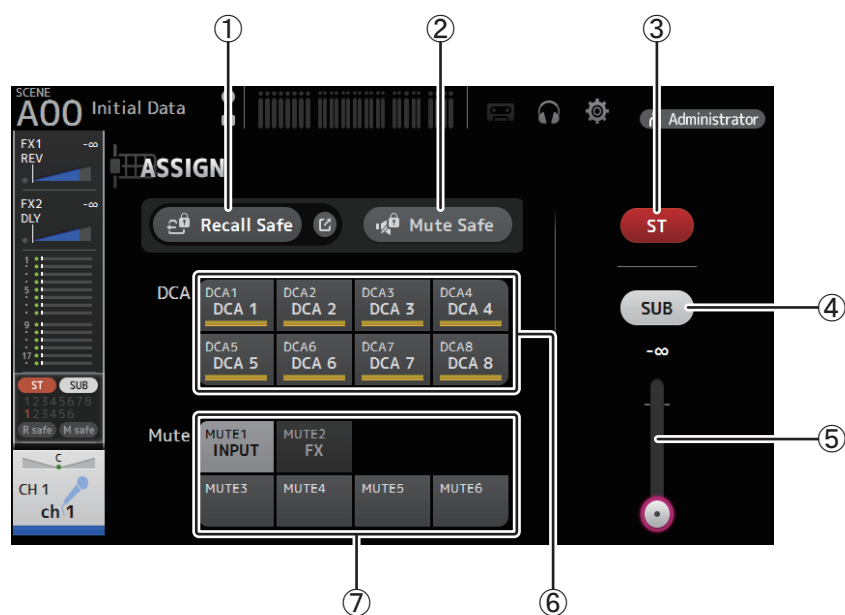
各チャンネルから AUX バスへの送り量を設定します。
左右にドラッグすると、表示されていないバスを表示します。



- ① **オン / オフボタン**
AUX チャンネルへの送りのオン / オフを切り替えます。
- ② **レベルスライダー**
各 AUX チャンネルへの送り量を設定します。
- ③ **Pre ボタン**
AUX チャンネルに送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。
オン: フェーダーの直前
オフ: フェーダーの直後
- ④ **SEND PAN スライダー**
送り先の AUX バスがステレオのときに表示されます。センド PAN を調節します。

ASSIGN 画面

各チャンネルのリコールセーフやミュートセーフのオン / オフ、DCA へのアサイン、SUB バスへの送り量を設定します。



① Recall Safe ボタン

そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。

Recall Safe ボタンの右側にあるジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します(→ P.22)。

② Mute Safe ボタン

ミュートグループに属するチャンネルの中から、特定のチャンネルのみを一時的に除外します。

ミュートセーフに設定したチャンネルは、そのチャンネルの属するミュートグループをミュートしても影響を受けません。

③ ST ボタン

ステレオチャンネルへのアサインのオン / オフを切り替えます。

④ SUB ボタン

SUB チャンネルへの送りのオン / オフを切り替えます。

⑤ SUB スライダー

SUB チャンネルへの送り量を調整します。

⑥ DCA ボタン

DCA グループ 1 ~ 8 へのアサインのオン / オフを切り替えます。

ひとつのチャンネルを複数の DCA グループにアサインできます。

⑦ Mute ボタン

MUTE グループ 3 ~ 6 へのアサインのオン / オフを切り替えます。

ひとつのチャンネルを複数の MUTE グループにアサインできます。

MUTE1 INPUT、MUTE2 FX へのアサインは変更できません。

AUTOMIXER 画面

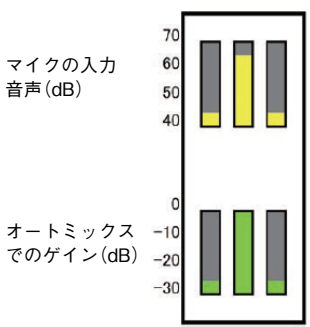
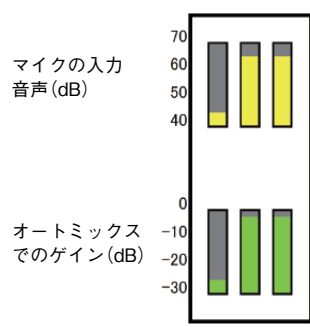
CH1 ～ CH8 で使用できる AUTOMIXER を設定します。

AUTOMIXER について

AUTOMIXER は、会議やトークショーなどの会話のミキシングを自動化する機能です。有効なマイクを検出してゲイン配分を自動的に最適化することで、エンジニアがフェーダー操作に切り切りになることなく複数のマイク間で一貫したシステムゲインを維持します。

AUTOMIXER の原理

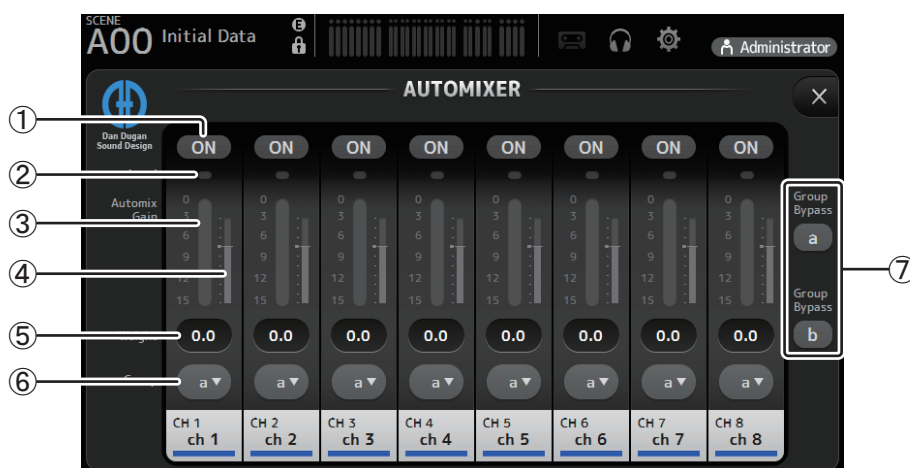
TF シリーズの AUTOMIXER は Dugan スピーチシステムをしています。このシステムは、最大 8 本のマイクに対してゲインを自動調整します。

複数のマイクで 1 人が話す場合	複数のマイクで 2 人が話す場合
 マイクの入力 音声 (dB) オートミックス でのゲイン (dB)	 マイクの入力 音声 (dB) オートミックス でのゲイン (dB)
1 人が話した場合には、そのマイクのゲインが瞬時に上がり、他のマイクのゲインは下がります。別の 1 人が話した場合も同様の動作です。	2 人が同時に話した場合には、トータルゲインが一定となるよう 2 本のマイク間でゲインが自動配分され、残り 1 本のマイクのゲインは下がります。

Dugan スピーチシステムは、リミッターやオートレベルコントローラーの機能とは異なり、複数の人が同時に話しているときでも、エンジニアが個々のレベルを通常どおり操作できます。また、誰も話していないときも、マイク音声を検出して自動的にゲインを配分するので、フェーダーを上げたままにできます。

NOTE

- ・ AUTOMIXER は、CH1 ～ CH8 のチャンネル ON の直後に配置されています。
- ・ CH1 ～ CH8 の SEND TO AUX で Pre ボタンをオフにした場合は、AUTOMIXER の直後から AUX バスに信号が送られます。
- ・ CH1 ～ CH8 がステレオリンクに設定されていても、AUTOMIXER のパラメーターはリンクしません。



① AUTOMIXER ON ボタン

該当チャンネルの AUTOMIXER をオン / オフします。

NOTE

コンサートなど、スピーチ以外の用途ではオフにしておくことをおすすめします。

② Level インジケーター

AUTOMIXER への入力ゲインが適切かどうかを確認します。

消灯： 入力信号なし、または入力レベルが足りない

緑点灯： 入力ゲインが適切

赤点灯： 過大入力

NOTE

入力ゲインの調整は、各インプットチャンネルのアナログゲイン、デジタルゲイン、フェーダーで行ないます。

③ Automix Gain メーター

AUTOMIXER で調整されたゲインを表示します。

④ Weight インジケーター

⑥ Weight テキストボックスで設定された設定値をグラフで表示します。

⑤ Weight テキストボックス

AUTOMIXER のサイドチェーンに入力される信号のレベルを調整します。他のチャンネルと同じ値にすると、同時に音声が入力されたときに、均等にゲインが配分されます。値を大きくすると、同時に音声が入力されたときに他のチャンネルに比べて大きな音になるようゲインが配分されます。

設定範囲： -100.0 dB, -29.5 dB ~ 0.0 dB (初期設定) ~ 15.0 dB

⑥ Group 選択ボタン

AUTOMIXER のグループアサインを a と b から選択します。グループを活用することで 2 種類のミックスを独立して作ることができます。選択したグループに応じて背景色が変わります。

⑦ Group Bypass a/b ボタン

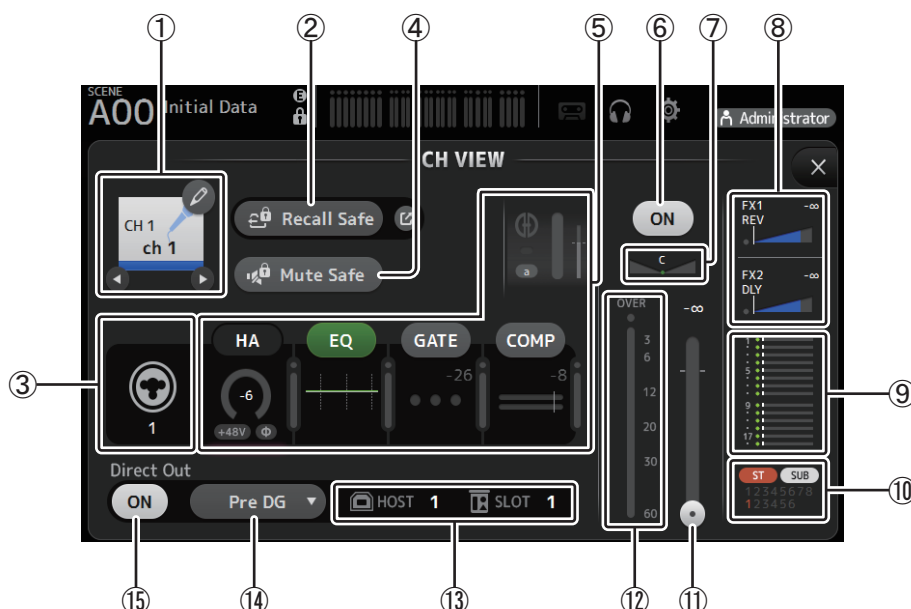
グループごと一括して Automixer 機能のバイパスをオン / オフします。

CH VIEW 画面

チャンネルの設定全体を俯瞰します。

この画面でも設定できるほか、各専用画面へ移動できます。チャンネルの種類により、表示される内容は異なります。

CH1 ~ CH32



- ① **チャンネル名**
 クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。
 ◀/▶ をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。
- ② **Recall Safe ボタン**
 クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
 Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。
- ③ **入力ソース表示**
 インพุットチャンネルの入力ソースを表示します。入力ソースは、INPUT 画面で選択できます。
- ④ **Mute Safe ボタン**
 クリックすると、現在のチャンネルがインพุットミュートグループから一時的に除外されます。
 ミュートセーフに設定したチャンネルは、インพุットミュートグループをミュートしても影響を受けません。
- ⑤ **ボックス**
 クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。
 EQ、GATE、COMP ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
HA ボックス: INPUT 画面を表示します(→ P.45)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。
GATE ボックス: GATE 画面を表示します(→ P.51)。
COMP ボックス: COMP 画面を表示します(→ P.53)。
AUTOMIXER ボックス(CH1 ~ CH8 のみ): AUTOMIXER 画面を表示します(→ P.64)。
- ⑥ **チャンネルオン / オフボタン**
 表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑦ **チャンネル PAN スライダー**
 チャンネルの PAN を調整します。
- ⑧ **FX1/2 ボックス**
 FX1/2 のタイプを表示します。
 選択した状態でマウスホイールを回して、FX センドレベルを設定できます。また、選択した状態でクリックすると、FX 画面を表示します。
 選択しているチャンネルから FX1/2 リターンチャンネルへの送り量を白い線で表示します。
 センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。
 FX1/2 リターンチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

⑨ SEND TO AUX ボックス

選択した状態でクリックすると、SEND TO AUX 画面を表示します。

選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。

AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

⑩ ASSIGN ボックス

クリックすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.63)。

⑪ チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑫ チャンネル出力レベルメーター

チャンネルの出力レベルを表示します。

⑬ ダイレクトアウトポートインジケーター

チャンネルに対応した出力ポート(出力端子)を表示します。

⑭ ダイレクトアウトポイントボタン

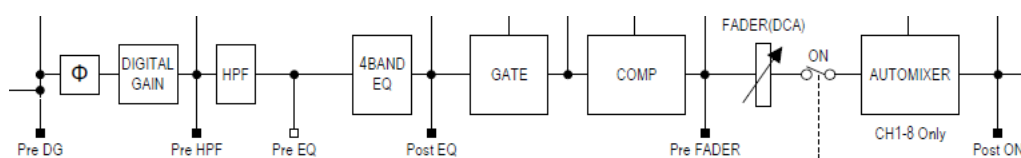
ダイレクトアウトポイントを設定します。

Pre DG: デジタルゲインの直前

Pre HPF: ハイパスフィルターの直前

Pre Fader: フェーダーの直前

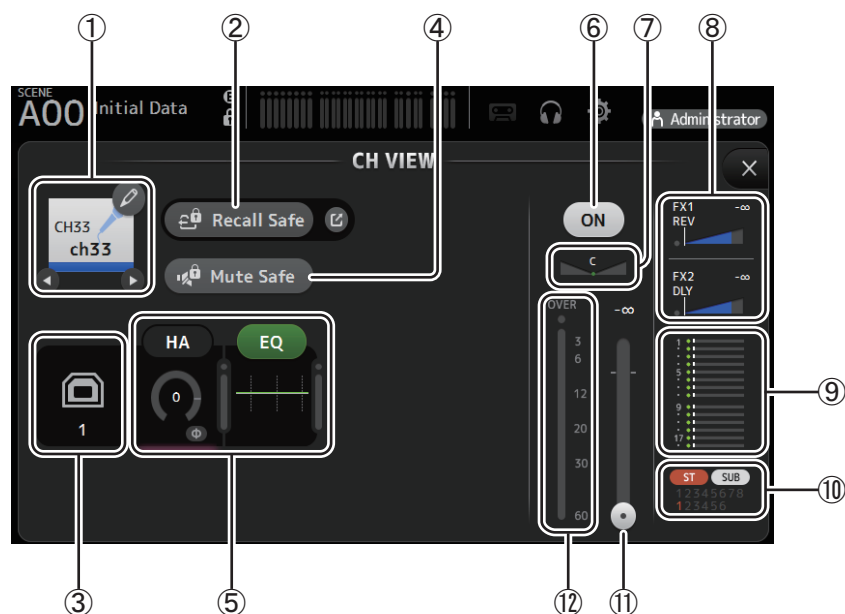
Post ON: [ON] キーの直後、CH1 ~ CH8 は AUTOMIXER の直後



⑮ ダイレクトアウトオン / オフボタン

ダイレクトアウトのオン / オフを切り替えます。

CH33 ~ CH40



① チャンネル名

クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。

▶/◀をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。

② Recall Safe ボタン

クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。

Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。

③ 入力ソース表示

インプットチャンネルの入力ソースを表示します。入力ソースは、INPUT 画面で選択できます。

④ Mute Safe ボタン

クリックすると、現在のチャンネルがインプットミュートグループから一時的に除外されます。

ミュートセーフに設定したチャンネルは、インプットミュートグループをミュートしても影響を受けません。

⑤ ボックス

クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。

HA ボックス: INPUT 画面を表示します(→ P.45)。

EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。

⑥ チャンネルオン / オフボタン

表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑦ チャンネル PAN スライダー

チャンネルの PAN を調整します。

⑧ FX1/2 ボックス

FX1/2 のタイプを表示します。

選択した状態でマウスホイールを回して、FX センドレベルを設定できます。また、選択した状態でクリックすると、FX 画面を表示します。

選択しているチャンネルから FX1/2 リターンチャンネルへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。

FX1/2 リターンチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

⑨ SEND TO AUX ボックス

選択した状態でクリックすると、SEND TO AUX 画面を表示します。

選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。

センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。

AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

⑩ ASSIGN ボックス

クリックすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.63)。

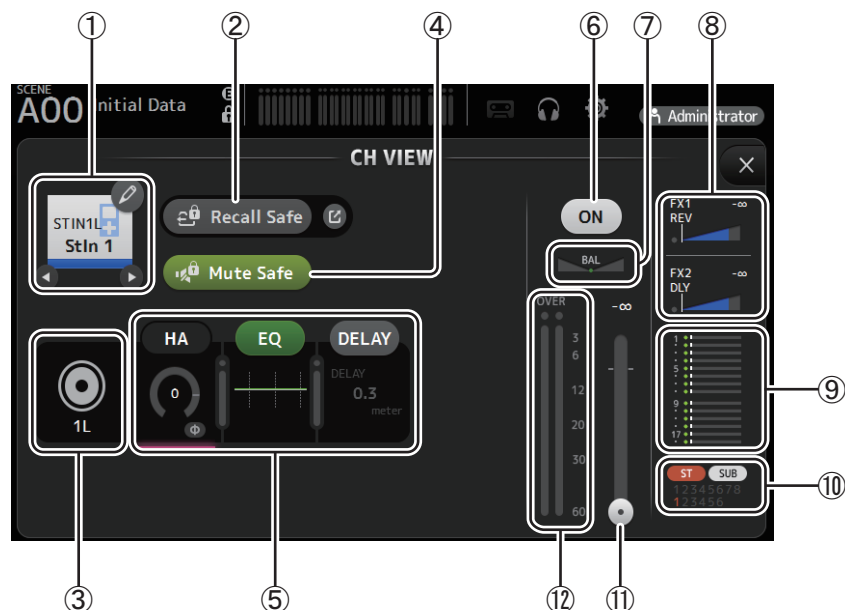
⑪ チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑫ チャンネル出力レベルメーター

チャンネルの出力レベルを表示します。

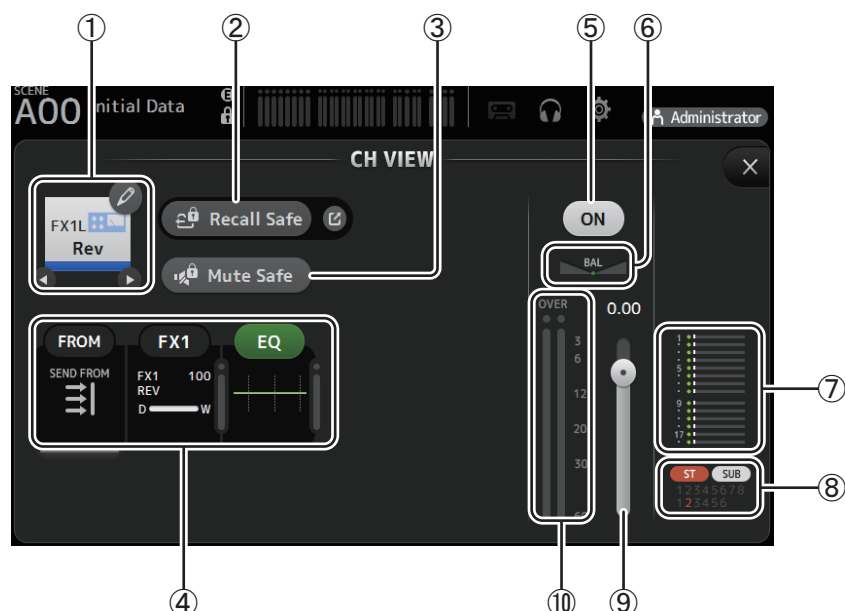
ST IN 1L ~ 2R



- ① **チャンネル名**
クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。
◀/▶をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。
- ② **Recall Safe ボタン**
クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。
- ③ **入力ソース表示**
インプットチャンネルの入力ソースを表示します。入力ソースは、INPUT 画面で選択できます。
- ④ **Mute Safe ボタン**
クリックすると、現在のチャンネルがインプットミュートグループから一時的に除外されます。
ミュートセーフに設定したチャンネルは、インプットミュートグループをミュートしても影響を受けません。
- ⑤ **ボックス**
クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
HA ボックス: INPUT 画面を表示します(→ P.45)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。
DELAY ボックス: DELAY 画面を表示します(→ P.84)。
- ⑥ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑦ **BAL(バランス)スライダー**
チャンネルの左右の音量バランスを調整します。
- ⑧ **FX1/2 ボックス**
FX1/2 のタイプを表示します。
選択した状態でマウスホイールを回して、FX センドレベルを設定できます。また、選択した状態でクリックすると、FX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから FX1/2 リターンチャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、三角形のバーで表示します。
FX1/2 リターンチャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。
- ⑨ **SEND TO AUX ボックス**
選択した状態でクリックすると、SEND TO AUX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。
AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケーターが緑色の場合は、直前、点灯していない場合は直後です。

- ⑩ **ASSIGN ボックス**
クリックすると、ASSIGN 画面を表示します(→ P.63)。
- ⑪ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。
- ⑫ **チャンネル出力レベルメーター**
チャンネルの出力レベルを表示します。

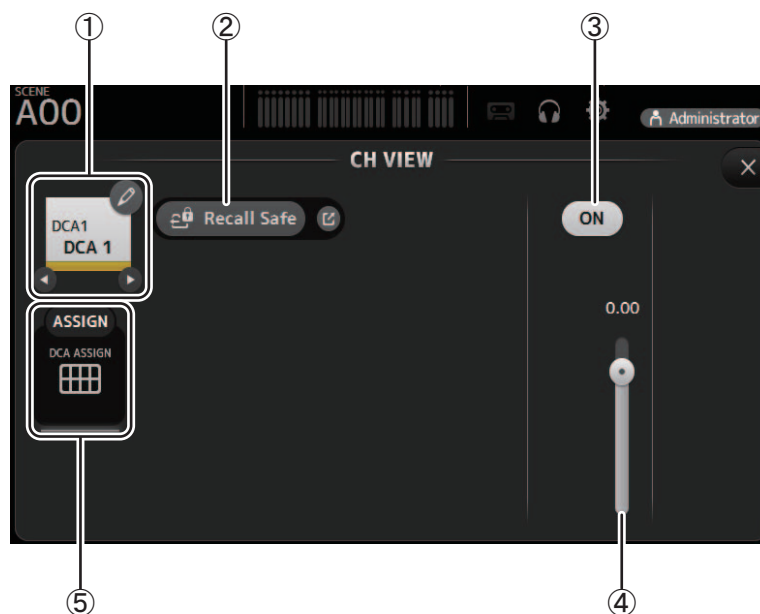
FX 1L ~ 2R



- ① **チャンネル名**
クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。
◀ / ▶ をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。
- ② **Recall Safe ボタン**
クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。
- ③ **Mute Safe ボタン**
クリックすると、現在のチャンネルが FX ミュートグループから一時的に除外されます。ミュートセーフに設定したチャンネルは、FX ミュートグループをミュートしても影響を受けません。
- ④ **ボックス**
クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。
EQ ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス: SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。
FX ボックス: FX 画面を表示します(→ P.55)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。
- ⑤ **チャンネルオン / オフボタン**
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑥ **BAL(バランス)スライダー**
チャンネルの左右の音量バランスを調整します。
- ⑦ **SEND TO AUX ボックス**
選択した状態でクリックすると、SEND TO AUX 画面を表示します。
選択しているチャンネルから AUX チャンネルへの送り量を白い線で表示します。
センドレベル、選択中のチャンネルのフェーダーレベル、DCA を加味した実際のセンドレベルは、横に伸びるバーで表示します。
AUX チャンネルに送る信号が、フェーダーの直前か直後かの情報を表示します。インジケータが緑色の場合は直前、点灯していない場合は直後です。
- ⑧ **ASSIGN ボックス**
クリックすると ASSIGN 画面を表示します(→ P.63)。

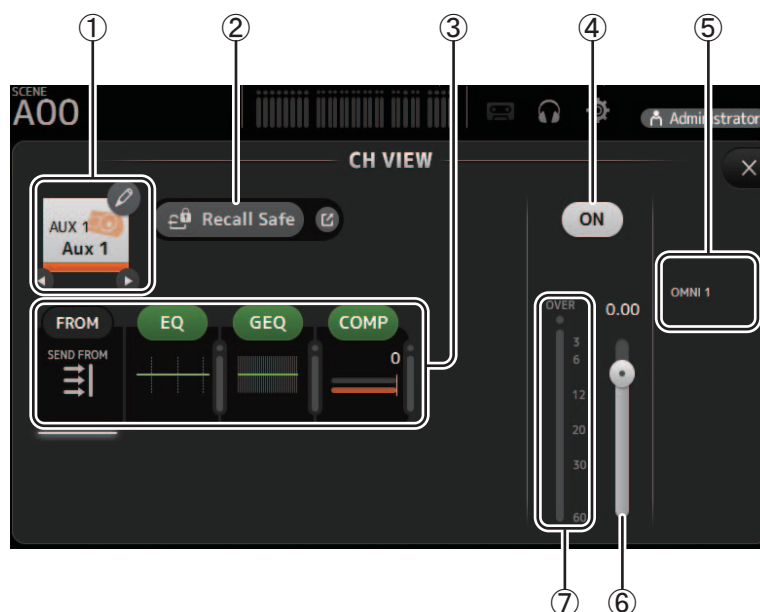
- ⑨ チャンネルフェーダーレベルスライダー
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。
- ⑩ チャンネル出力レベルメーター
チャンネルの出力レベルを表示します。

DCA1 ～ DCA8



- ① チャンネル名
クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。
◀ / ▶ をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替ええます。
- ② Recall Safe ボタン
クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。
- ③ チャンネルオン / オフボタン
表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ④ チャンネルフェーダーレベルスライダー
チャンネルのフェーダーレベルを調整します。
- ⑤ ASSIGN ボックス
選択した状態でクリックすると DCA ASSIGN 画面を表示します(→ P.83)。

AUX1 ～ AUX8



① チャンネル名

クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。

◀/▶をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。

② Recall Safe ボタン

クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。

Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。

③ ボックス

クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ、GEQ、COMP ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。

FROM ボックス: SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。

EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。

GEQ ボックス: GEQ 画面を表示します(→ P.79)。

COMP ボックス: COMP 画面を表示します(→ P.53)。

④ チャンネルオン / オフボタン

表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑤ OUTPUT ボックス

OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。

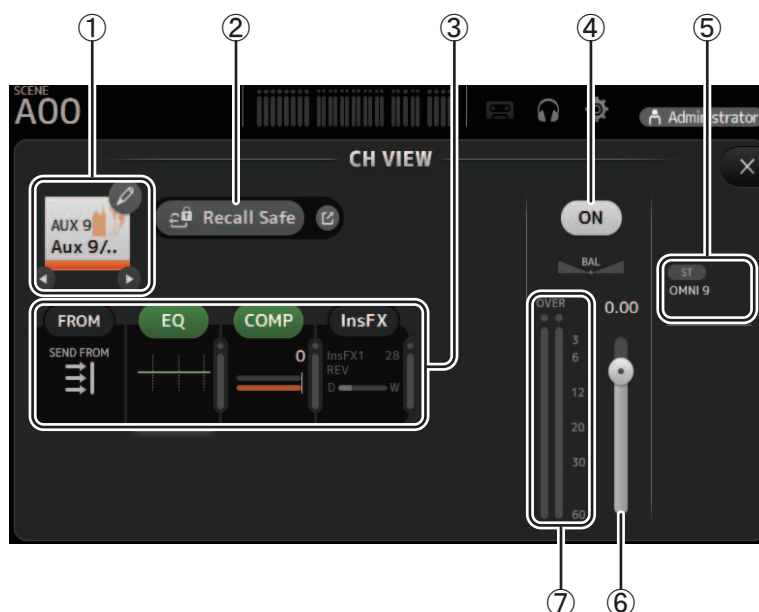
⑥ チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑦ チャンネル出力レベルメーター

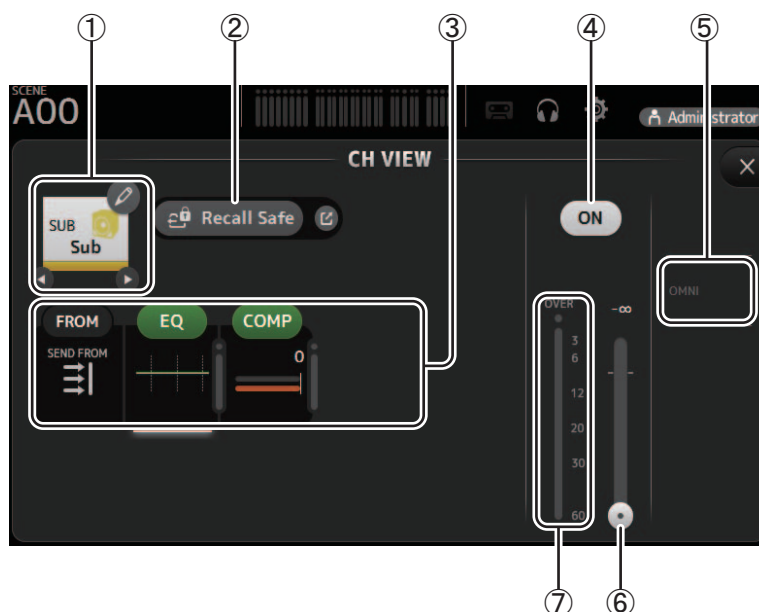
チャンネルの出力レベルを表示します。

AUX9 ～ AUX20



- ① **チャンネル名**
 クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。
 ◀/▶をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。
- ② **Recall Safe ボタン**
 クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
 Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。
- ③ **ボックス**
 クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。
 EQ、COMP ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス: SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。
COMP ボックス: COMP 画面を表示します(→ P.53)。
InsFX ボックス: FX 画面を表示します(→ P.55)。
- ④ **チャンネルオン / オフボタン**
 表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑤ **OUTPUT ボックス**
 OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。
- ⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
 チャンネルのフェーダーレベルを調整します。
- ⑦ **チャンネル出力レベルメーター**
 チャンネルの出力レベルを表示します。

SUB



① チャンネル名

クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。

◀/▶をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。

② Recall Safe ボタン

クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。

Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。

③ ボックス

クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。

EQ、COMP ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。

FROM ボックス: SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。

EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。

COMP ボックス: COMP 画面を表示します(→ P.53)。

④ チャンネルオン / オフボタン

表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。

⑤ OUTPUT ボックス

OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。

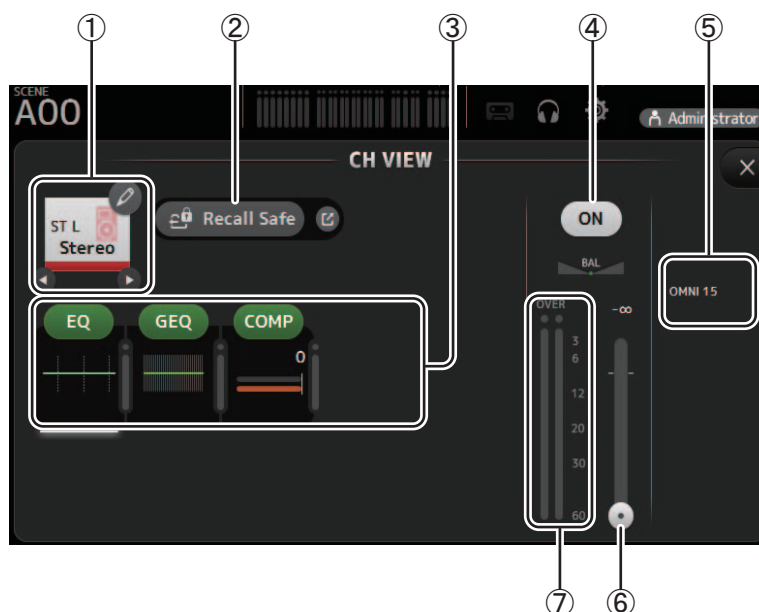
⑥ チャンネルフェーダーレベルスライダー

チャンネルのフェーダーレベルを調整します。

⑦ チャンネル出力レベルメーター

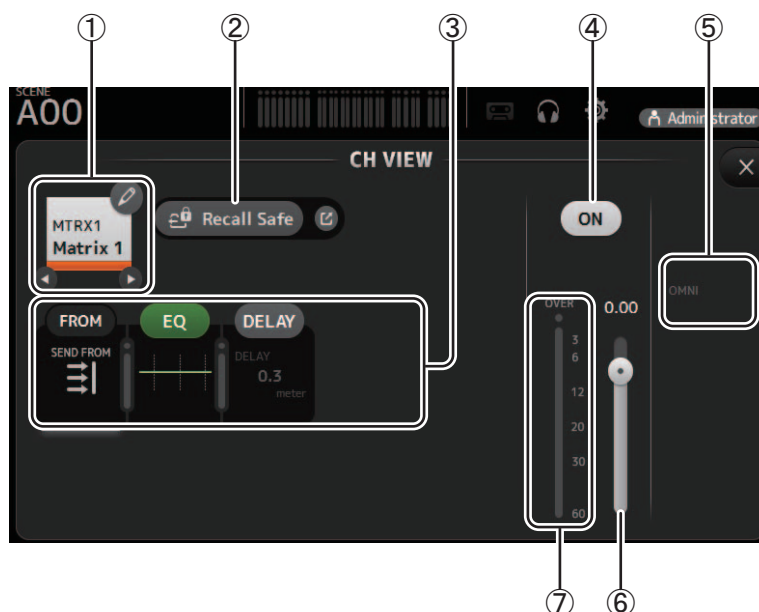
チャンネルの出力レベルを表示します。

ST L/R



- ① **チャンネル名**
 クリックすると、CH NAME 画面(→ P.78)を表示します。
 ◀/▶ をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えられます。
- ② **Recall Safe ボタン**
 クリックすると、そのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
 Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面を表示します。
- ③ **ボックス**
 クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。
 EQ、GEQ、COMP ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。
GEQ ボックス: GEQ 画面を表示します(→ P.79)。
COMP ボックス: COMP 画面を表示します(→ P.53)。
- ④ **チャンネルオン / オフボタン**
 表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑤ **OUTPUT ボックス**
 OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。
- ⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
 チャンネルのフェーダーレベルを調整します。
- ⑦ **チャンネル出力レベルメーター**
 チャンネルの出力レベルを表示します。

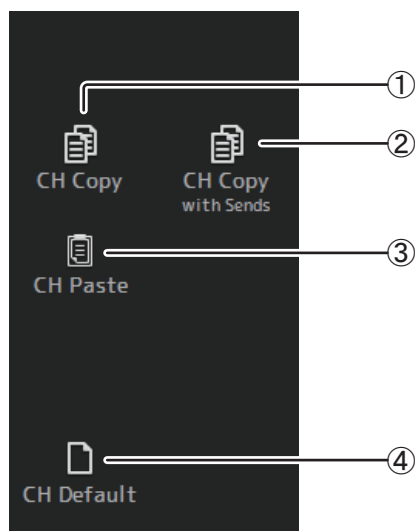
MATRIX1 ～ MATRIX4



- ① **チャンネル名**
 クリックすると、CH NAME 画面を表示します。
 ◀/▶ をクリックすると、情報を表示するチャンネルを切り替えます。
- ② **Recall Safe ボタン**
 クリックするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
 Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面(→ P.22)を表示します。
- ③ **ボックス**
 クリックすると、それぞれ専用画面を表示します。
 EQ、DELAY ボックスのボタンは、クリックするとそれぞれオン / オフを切り替えます。
FROM ボックス: SEND FROM 画面を表示します(→ P.82)。
EQ ボックス: EQ 画面を表示します(→ P.48)。
DELAY ボックス: DELAY 画面を表示します(→ P.84)。
- ④ **チャンネルオン / オフボタン**
 表示中のチャンネルのオン / オフを切り替えます。
- ⑤ **OUTPUT ボックス**
 OUTPUT 画面を表示します(→ P.81)。
- ⑥ **チャンネルフェーダーレベルスライダー**
 チャンネルのフェーダーレベルを調整します。
- ⑦ **チャンネル出力レベルメーター**
 チャンネルの出力レベルを表示します。

CH VIEW 画面のメニュー

CH VIEW 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



① **CH Copy**

選択しているチャンネルの設定をコピーします。

② **CH Copy with Sends**

選択している AUX/MATRIX チャンネルの設定と各チャンネルから送られてくるセンドの設定をコピーします。

③ **CH Paste / CH Paste with Sends**

選択しているチャンネルに、CH Copy でコピーしたチャンネルの設定、または CH Copy with Send を使ってコピーした設定をペーストします。

④ **CH Default**

選択しているチャンネルの設定を初期化します。

CH NAME 画面

チャンネル名に表示する名前、アイコン、チャンネルカラーを設定します。



① Name テキストボックス

チャンネル名を入力します。

テキストボックスをクリックするとコンピューターキーボードで直接入力できます。

② Icon ボタン

クリックすると、チャンネルアイコンの一覧が画面下側に表示されます。

③ Category ボタン

表示するチャンネルアイコンのカテゴリーを切り替えます。

チャンネルの種類によって表示されるカテゴリーが変わります。

④ チャンネルアイコン選択

アイコンをクリックすると、チャンネルアイコンとして反映されます。

上下にドラッグすると、表示されていないアイコンが表示されます。

⑤ Sample Name ボタン

選択したチャンネルアイコンと一緒によく使われるチャンネルネームの例を表示します。

チャンネルネームの例が書かれたボタンをクリックすると、チャンネル名として反映されます。

⑥ Color ボタン

クリックすると、チャンネルカラーの一覧が画面下側に表示されます。



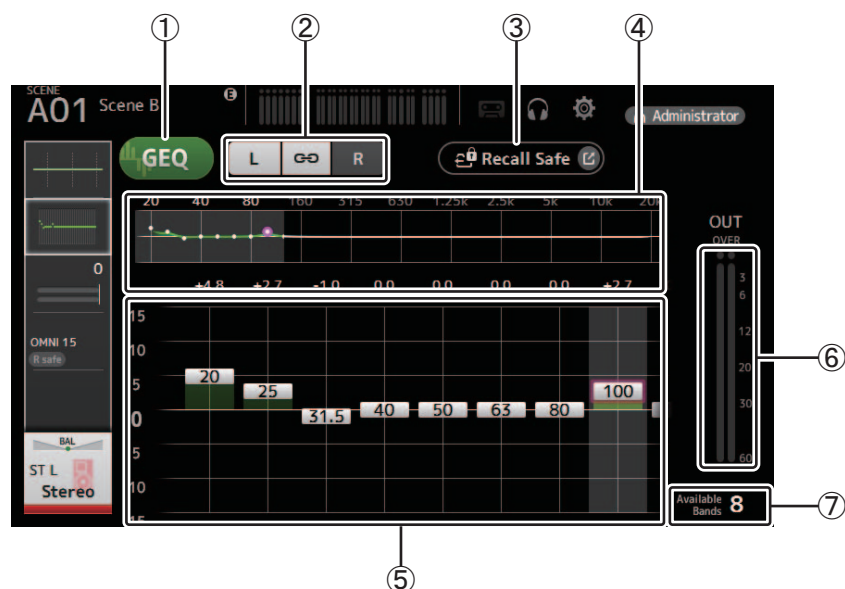
チャンネルカラーに設定したい色のボタンをクリックすると、チャンネルカラーとして反映されます。

GEQ 画面

AUX1 ～ 8 と STEREO チャンネルには、グラフィック EQ (以下「GEQ」) が内蔵されています。

モノラル仕様の 12 バンド GEQ です。バンド幅は 1/3 オクターブ刻み、ゲインの可変幅は $\pm 15\text{dB}$ です。

31BandGEQ と同じ 31 バンドのうち、任意の 12 バンドまでゲインを操作できます。



① GEQ ボタン

GEQ のオン / オフを切り替えます。

② GEQ 設定チャンネル / LR リンク選択ボタン

シグナルタイプがステレオの AUX、または STEREO を選択した場合に表示されます。

モノラルの AUX の場合は表示されません。

GO : LR リンクのオン / オフを切り替えます。

L/R : 選択チャンネルの L と R を切り替えます。

③ Recall Safe ボタン

クリックすると、RECALL SAFE 画面が表示されます (→ P.22)。

④ 周波数特性、ゲイン操作可能バンド選択

パラメーターの特性を表示します。

ドラッグまたはクリックして、操作するバンドの表示を切り替えます。

⑤ ゲインスライダー

ゲインを上下にドラッグして調整します。

横にドラッグすると、ゲイン操作できるバンドの表示が切り替わります。

⑥ 出力レベルメーター

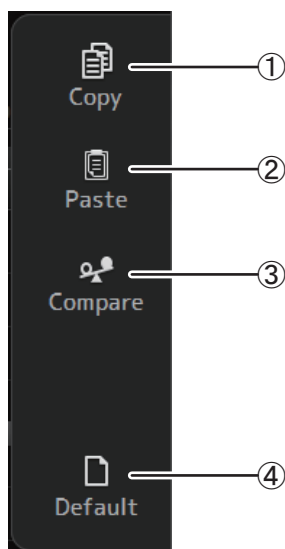
GEQ の出力レベルを表示します。

⑦ 操作可能バンド表示

ゲインを操作できる未使用バンド数を表示します。

GEQ 画面のメニュー

GEQ 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



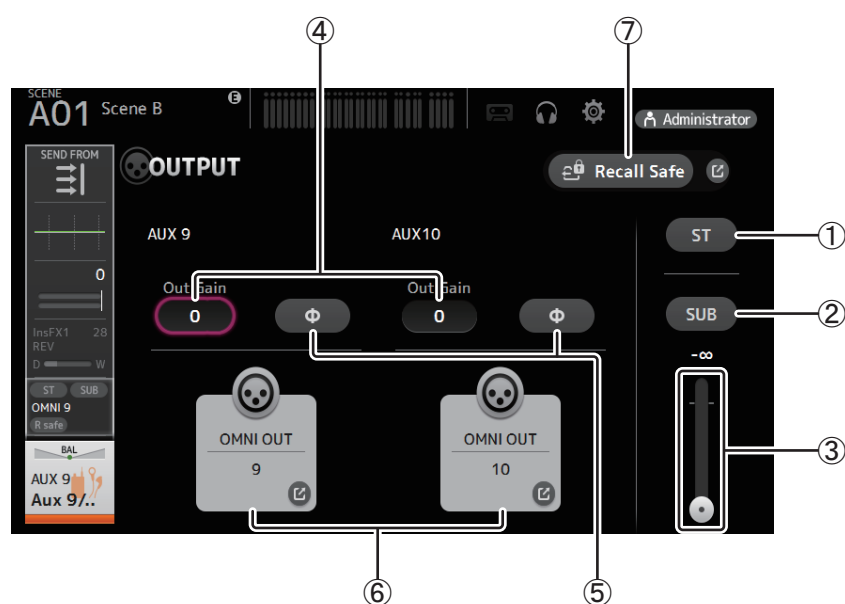
- ① **Copy**
選択しているチャンネルの GEQ のパラメーターをコピーバッファーに格納します。
- ② **Paste**
コピーバッファーに格納されている GEQ のパラメーターを選択しているチャンネルにペーストします。
- ③ **Compare**
選択しているチャンネルの GEQ のパラメーターと、コピーバッファーに格納されている GEQ のパラメーターを切り替えて比較します。
- ④ **Default**
GEQ 全体の設定を初期状態に設定します。

OUTPUT 画面

アウトプットチャンネル(OMNI OUT 1 ~ 16)に出力する信号を選択します。
 選択しているアウトプットチャンネルによって、表示されるボタンは異なります。

アウトプット チャンネル	ボタン					
	ST ボタン	SUB ボタン SUB スライダー	Out Gain ボタン	Φ ボタン	OMNI OUT インジケーター	OMNI OUT ボタン
AUX1 ~ 8	—	—	○	○	○	○
AUX9/10 ~ 19/20	○	○	○	○	○	○
SUB	—	—	○	○	○	○
STEREO	—	—	○	○	○	○
MATRIX1 ~ 4	—	—	○	○	○	○

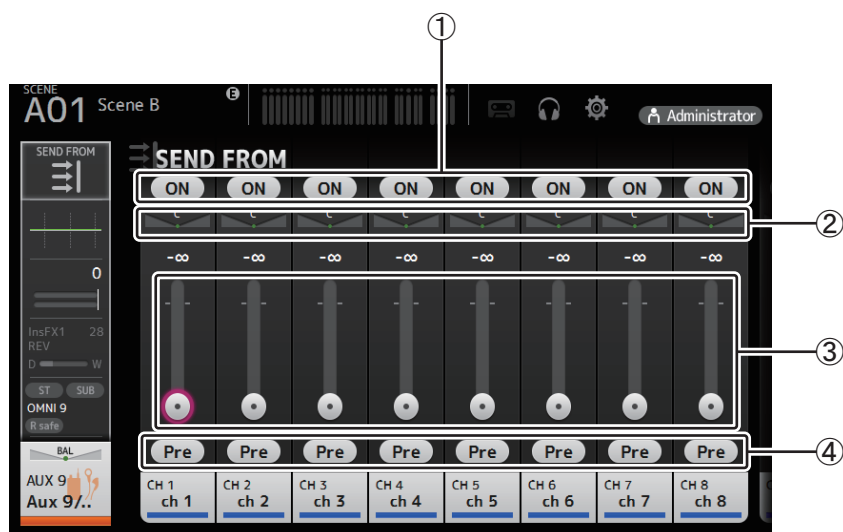
○：表示します。
 —：表示しません。



- ① **ST ボタン**
ステレオチャンネルを出力するかどうかを切り替えます。
- ② **SUB ボタン**
SUB チャンネルへの送りのオン / オフを切り替えます。
- ③ **SUB スライダー**
SUB チャンネルへの送り量を調整します。
- ④ **Out Gain テキストボックス**
出力ゲインを設定します。
テキストボックスを選択した状態でマウスホイールを回して設定します。再度クリックすると、それぞれの数値をコンピューターキーボードで直接入力できます。
- ⑤ **Φ(フェイズ)ボタン**
信号の位相を切り替えます。
オンにすると、出力される信号の位相を反転します。
- ⑥ **OMNI OUT ボタン**
出力先の OMNI OUT 番号を表示します。
番号は、2 つまで表示し、3 つめ以降は「+」で表示します。
クリックすると、OMNI OUT 画面を表示します(→ P.21)。
- ⑦ **Recall Safe ボタン**
クリックするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面(→ P.22)を表示します。

SEND FROM 画面

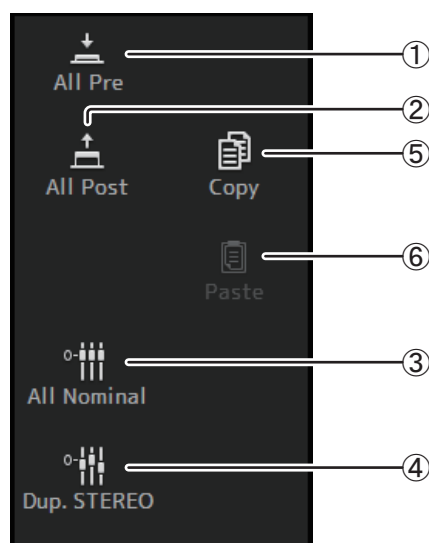
各チャンネルからの送り量を設定します。



- ① **ON ボタン**
各チャンネルからの送りのオン / オフを切り替えます。
- ② **SEND PAN スライダー**
インプットチャンネルからの SEND PAN を操作します。
AUX1 ~ AUX8, MATRIX1 ~ MATRIX4 では、Signal Type が STEREO のときだけ表示されます。
FX1L ~ FX2R では、表示されません。
- ③ **SEND レベルスライダー**
各チャンネルからの SEND レベルを操作します。
- ④ **Pre ボタン**
インプットチャンネルから送る信号をフェーダーの前後のどちらから送るかを選択します。
オン: フェーダーの直前
オフ: フェーダーの直後
MATRIX1 ~ MATRIX4 では、表示されません。MATRIX チャンネルへは、AUX チャンネル、STEREO チャンネル、SUB チャンネルのポスト ON (ON ボタンの直後) の信号が送られます。

SEND FROM 画面のメニュー

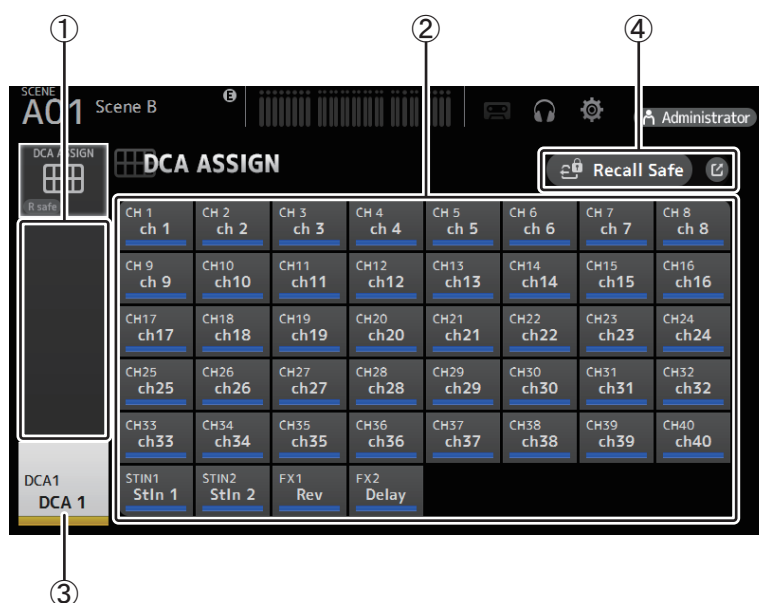
SEND FROM 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



- ① **All Pre**
すべての Pre ボタンをオンにします。
- ② **All Post**
すべての Pre ボタンをオフにします。
- ③ **All Nominal**
すべての SEND レベルをノミナル (0.00dB) に設定します。
- ④ **Dup. STEREO (Duplicate STEREO)**
各チャンネルのフェーダーレベルを SEND レベルにコピーします。
- ⑤ **Copy**
選択している AUX/MATRIX チャンネルの SEND レベルをコピーします。
- ⑥ **Paste**
コピーした SEND レベルを選択している AUX/MATRIX チャンネルにペーストします。

DCA ASSIGN 画面

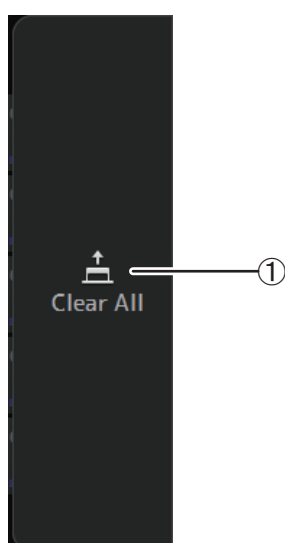
各 DCA グループに割り当てるチャンネルを設定します。



- ① **チャンネル表示エリア**
選択されている DCA グループに割り当てているチャンネルが表示されます。
- ② **DCA ASSIGN ボタン**
DCA グループに割り当てるチャンネルを選択します。
選択されているチャンネルはハイライトされます。
- ③ **チャンネルビューボタン**
クリックすると CH VIEW 画面が表示されます (→ P.66)。
- ④ **Recall Safe ボタン**
クリックするとそのチャンネルの Recall Safe のオン / オフを切り替えます。
Recall Safe ボタン右側のジャンプボタンをクリックすると、RECALL SAFE 画面 (→ P.22) を表示します。

DCA ASSIGN 画面のメニュー

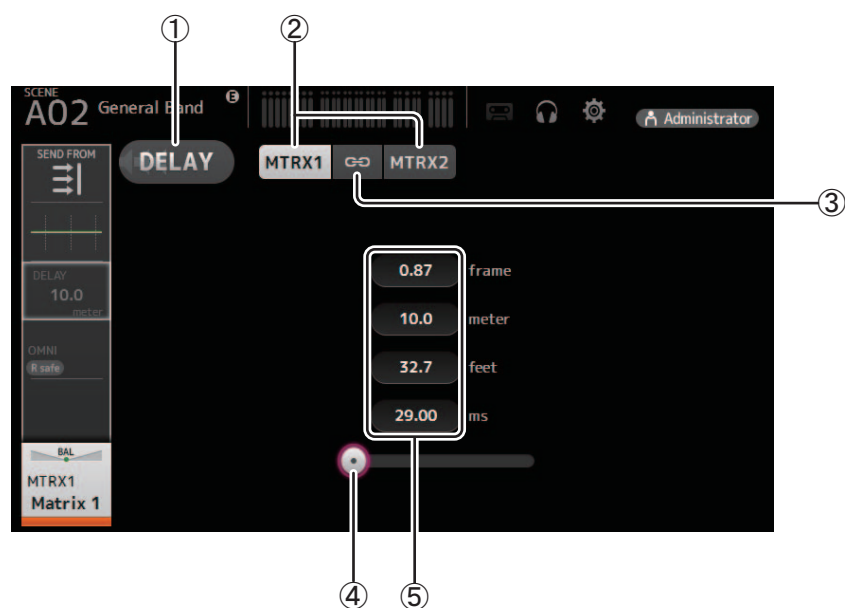
DCA ASSIGN 画面では、MENU エリアに次のコンテキストメニューが表示されます。



- ① **Clear All**
DCA グループに割り当てたチャンネルをすべて解除します。

DELAY 画面

MATRIX チャンネルから出力する信号のディレイや、ST IN チャンネルに入力する信号のディレイを設定します。



- ① **DELAY ボタン**
DELAY のオン / オフを切り替えます。
- ② **表示切り替えボタン**
MATRIX チャンネルが Stereo に設定されているときに、パラメーターを表示する MATRIX チャンネルを選択します。
ST IN チャンネルでは、2 つのボタンが常に表示されています。
- ③ **LR Link ボタン**
MATRIX チャンネルが Stereo に設定されているときに、オンにすると左右のチャンネルの DELAY のオン / オフとディレイタイムの操作をリンクします。ディレイタイムが違う値で設定されている場合は、差分を保ったままディレイタイムがリンク動作します。
ST IN チャンネルでは、LR Link ボタンが常に表示されています。

NOTE

MATRIX チャンネルでは、Stereo に設定されているときだけ表示されます。Stereo/MONO×2 の切り替えは、本体の SETUP 画面にある BUS SETUP 画面で設定します。(→ P.20)

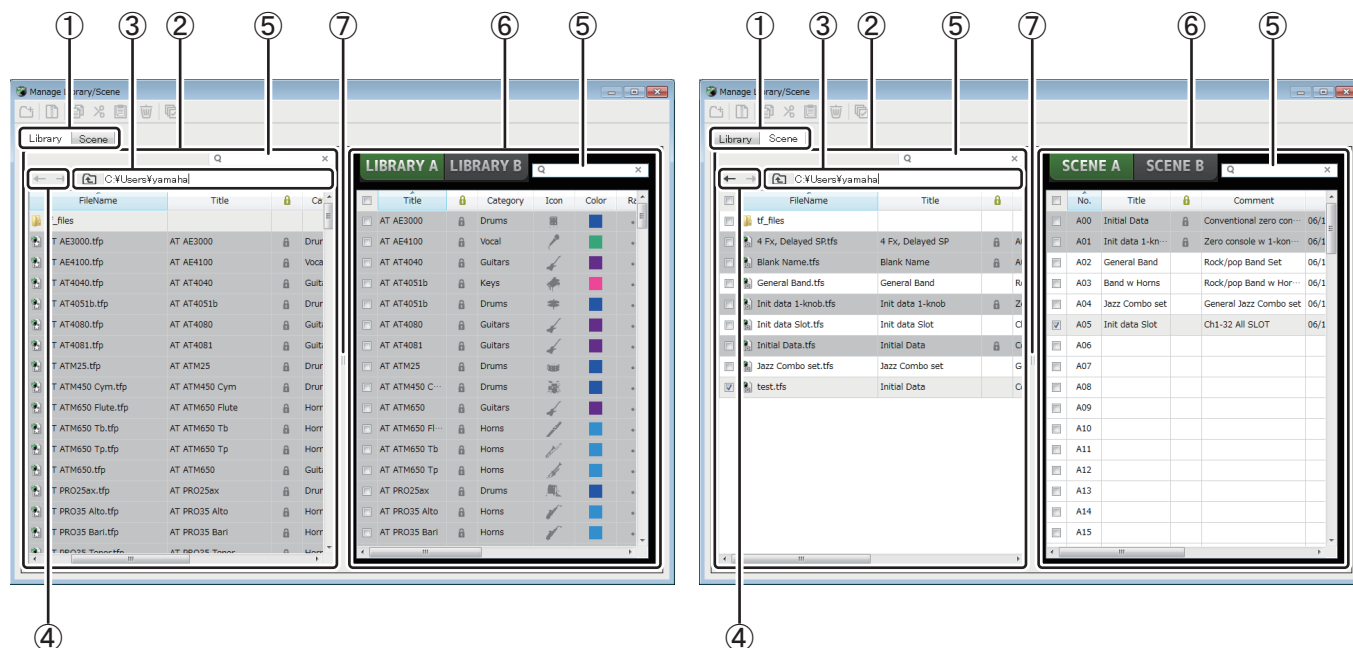
- ④ **DELAY スライダー**
ディレイタイムを設定します。
ディレイタイムは、frame(フレーム)、meter(メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)単位で表示されます。
- ⑤ **DELAY 設定テキストボックス**
ディレイを frame (フレーン)、meter(メートル)、feet(フィート)、ms(ミリ秒)で指定できます。クリックすると、数値で入力する画面が表示されます。

Manage Library/Scene 画面

TF Editor 内のシーンデータ、ライブラリーデータを一括で管理する画面です。

ライブラリーデータやシーンデータの編集ができるほか、TFF ファイルに保存されているライブラリーデータやシーンデータを個別ファイルで扱うこともできます。

TF シリーズ本体とオフラインのときに、ファイルメニューから Manage Library/Scene を選択して開きます。



① Library タブ /Scene タブ

表示する画面を切り替えます。

② 左ペイン

コンピューター上にあるフォルダー、.TFP ファイル(ライブラリーデータ)、.TFS ファイル(シーンデータ)、.TFF ファイルを表示します。チェックボックスで複数行を選択して操作できます。選択された状態でクリックすると、テキストの直接入力やプルダウンメニューで編集できます。

表示されているファイルをドラッグして、右ペイン(TF Editor 内)やひとつ下のディレクトリーへコピーや移動ができます。

③ バス表示

左ペインに表示されているリストのディレクトリーバスを表示します。バスを直接入力することもできます。

左横のボタンをクリックすると、ひとつ上の階層に移動します。

④ ← / → ボタン

クリックすると、前の階層 / 次の階層に移動します。

⑤ テキスト検索ボックス

FileName、Title、Comment の項目に対してテキストで検索して表示をフィルタリングできます。

⑥ 右ペイン

TF Editor 内のデータをバンクごとに表示します。

操作方法は左ペインと同様です。

Protect の項目は、選択状態にかかわらずクリックするとオン / オフが切り替わります。オンの状態では編集ができなくなります。

Protect がオンのプリセットは、背景がグレーで表示されます。

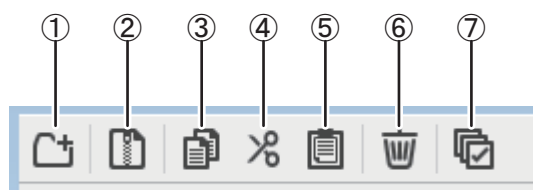
⑦ セパレーター

セパレーターのハンドルを左右に動かして、左右のペインの表示サイズを変更します。

NOTE

- ・タッチパネルディスプレイで素早い操作を繰り返すと、タッチパネル操作ができなくなる場合があります。この場合は、マウスやタッチパッドで一旦操作するか、アプリケーションからフォーカスを外してください。
- ・左ペインに表示されるファイル数が多くなると、ソートや選択操作が遅くなることがありますが、不具合ではありません。プログラムが反応するまでお待ちください。左ペインに表示するファイル数は 1000 ファイル以内にするをおすすめします。
- ・Manage Library/Scene 画面を開いている状態で、左ペインに表示しているフォルダー内を、コンピューターのエクスプローラーや Finder から直接操作しないでください。Manage Library/Scene 画面の表示を更新するのに長時間かかる場合があります。

ツールバー



右クリックすると同様のコンテキストメニューが表示されます。

① **New Folder**

左ペインに表示されているコンピューターのディレクトリーに新規フォルダーを作成します。

② **Extract .tff**

.TFF ファイルを展開して、中のデータを個別ファイルで扱えるようにします。クリックすると、展開先を指定するダイアログが表示されます。実行すると、展開先に Library フォルダと Scene フォルダが作成され、バンクごとに個別ファイルに展開されます。

③ **Copy**

選択中のデータをコピーします。

④ **Cut**

選択中のデータを切り取りします。

⑤ **Paste**

Copy または Cut したデータを貼り付けます。

⑥ **Delete**

選択中のデータを削除します。

⑦ **Select All**

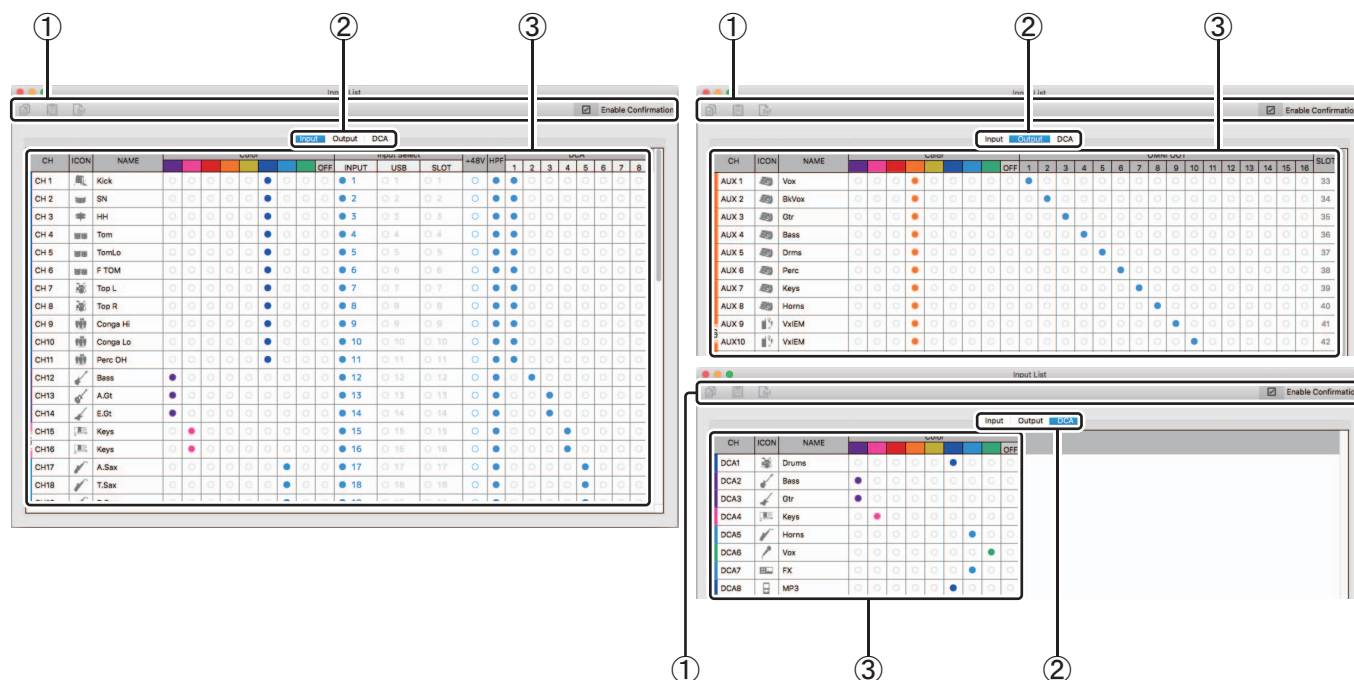
表示中のデータをすべて選択します。

NOTE

- ・ Manage Library/Scene 画面では、個別ファイルを直接コンピューターのデスクトップなどへのドラッグ & ドロップが使用できません。
- ・ 複数のシーンファイルをコンピューターからコピー/移動する場合は、コピー/移動先として選択した行から順にコピーされます。このとき、上書きするデータにプロテクトがかかっているときは、プロテクトがかかっている行に対してはコピー/移動ができません。
- ・ コピー/移動先のバンクにあるシーンの数が、コピー/移動することで最大数(100 個)を超える場合は、最大数(100 個)になるところまでコピー/移動します。
- ・ ライブラリーのコピー/移動先のバンクが最大数(1000 個)を超える場合はコピー/移動ができません。

Input List 画面

インプットチャンネル、アウトプットチャンネル、DCA グループのチャンネル名、チャンネルカラー、チャンネルアイコン、パッチを表示し設定する画面です。



① ツールバー

Copy ボタン

選択したチャンネル行、パラメーター列、セルの内容をコピーします。

Paste ボタン

コピーした内容を選択した箇所にペーストします。

Default ボタン

選択した内容を初期値に戻します。

チャンネル行に対して実行すると、確認メッセージが表示されます。

OK をクリックするとチャンネルが初期化されます。Cancel をクリックすると初期化を中止します。

パラメーターのタイトル部分をクリックすると、そのパラメーターの列がすべて選択されます。この状態で Default ボタンをクリックすると、選択されたチャンネルの該当パラメーターがすべて初期値に戻ります。

NOTE

OMNI OUT の設定は Copy/Paste/Default 操作の対象外です。

Enable Confirmation チェックボックス

チェックを入れると、Default を実行するとき、Input Select、OMNI OUT の設定を変更するときに確認メッセージを表示します。

② 表示切り替えタブ

Edit エリアに表示する内容を、Input、Output、DCA に切り替えます。

③ Edit エリア

表示しているチャンネルのチャンネル名、チャンネルアイコン、チャンネルカラー、パッチを設定します。チャンネルの種類によって、表示されるパラメーターが変わります。

ここでの編集内容は、TF Editor のメインウィンドウと同期します。また、TF シリーズ本体と接続中は、編集内容が本体とも双方向で同期します。

Edit エリア内で右クリック (Windows)/Ctrl+ クリック (Mac) するとコンテキストメニューが表示されます。

Edit エリアで編集できるパラメーター

Stereo Link

Stereo Link の設定 / 解除は、コンテキストメニューから操作します。チャンネルを選択した状態で右クリック(Windows)/Ctrl+ クリック(Mac)するとコンテキストメニューが表示されます。

リンクしたチャンネルの間には鎖アイコンが表示されます。

Stereo Link は DCA タブでは表示されません。

Channel Icon

クリックするとメニューが表示され、チャンネルアイコンを選択できます。

Channel Name

クリックするとテキスト入力ができます。

Channel Color

該当する色のセルをクリックすると、チャンネルカラーが設定されます。

Input Select

Input タブでのみ表示されます。

インプットチャンネルの入力ソース(入力ポート)を INPUT、USB、SLOT から選択します。

変更するときは確認メッセージが表示されます。

+48V

Input タブでのみ表示されます。

Input Select で選択された入力ポートのファンタム電源のオン / オフを切り替えます。

HPF

Input タブでのみ表示されます。

ハイパスフィルターのオン / オフを切り替えます。

DCA

Input タブでのみ表示されます。

DCA グループへのアサインを設定します。

OMNI OUT

Output タブでのみ表示されます。

アウトプットチャンネルの OMNI OUT への出力パッチを設定します。

OMNI OUT の設定を変更するときは、確認のメッセージが表示されます。

SLOT

Output タブでのみ表示されます。

各アウトプットチャンネルから出力されている SLOT のポート番号を表示します。(表示のみ)

メッセージ一覧

メッセージ	説明
Item Already Exists. Replace it?	Library に同じ名前で上書き保存しようとした。
File Already Exists, Replace it?	Save As 時に名前が重複していた。 Save で上書きしようとした。
Operation Failed!	実行に失敗した。(汎用的なエラー)
Invalid Name!	命名規則に違反している。
Operation Ignored.	その時の状態では、USER DEFINED KNOB にアサインされた機能は動作しない。
SCENE #XX is Empty!	リコールしようとしたシーンにデータがストアされていない、またはデータが壊れていてリコールできない。
SCENE #XX is Read Only!	読み込み専用のシーンに対して上書きでストアしようとした。
Cannot Store!	シーンメモリーやライブラリーのストアに失敗した。
Cannot Recall!	シーンメモリーやライブラリーのリコールに失敗した。
LIBRARY is Read Only!	読み込み専用のライブラリーに対して上書きでストアしようとした。
Operation Failed. Library Memory Full.	最大数に達した状態でデータの追加をしたとき。
Turn Off 1-knob Mode to Adjust.	1-knob モードが有効 (オフにしてください)。
Nothing to Paste!	コピーバッファが空の状態です。
Page does not exist.	ページが存在していない。
Cannot Close This Popup.	ポップアップを閉じることができない。
Unsupported File Format!	対応していないフォーマットのファイルを読み込もうとした。
Couldn't Write File.	ファイルを保存できなかった。
File Protected!	ファイルが書き込み禁止になっているため上書きできなかった。
Already Exists!	ディレクトリー作成のとき、またはディレクトリーの名前を変更するときに、既に同じ名前のディレクトリーが存在する。
Couldn't Access File.	ファイルが何らかの理由でアクセスできなかった。
File Error!	内部的なファイルアクセスエラー。
Illegal IP Address!	IP アドレスやゲートウェイアドレスの設定が不正である。
Wrong Word Clock! (Slot)	NY64-D の Sample Rate 設定が適切ではないので、TF シリーズが同期できない。
Wrong Word Clock! (Dante Device)	NY64-D 経由で Dante ネットワークに接続されている機器の SampleRate 設定が適切でないので、NY64-D と同期できない。
USB Sample Rate Mismatch on USB. Console:44100Hz	USB TO HOST 端子で接続された PC と TF との間で Sample Rate が異なっている。(コンソール: 44.1kHz PC: 48kHz) PC の Sample Rate の設定を 44.1kHz に設定してください。
USB Sample Rate Mismatch on USB. Console:48000Hz	USB TO HOST 端子で接続された PC と TF との間で Sample Rate が異なっている。(コンソール: 48kHz PC: 44.1kHz) PC の Sample Rate の設定を 48kHz に設定してください。

TF Editor ショートカットキー一覧

メニュー		キー操作	
		Windows	Mac
File	Load	Ctrl+O	Cmd+O
	Save	Ctrl+S	Cmd+S
	Exit	Alt+F4	Cmd+Q
Home	screen	ESC	ESC
SEL CH	Left	Ctrl+←	Cmd+←
	Right	Ctrl+→	Cmd+→
FADER BANK	INPUT	Ctrl+1	Cmd+1
	GROUP	Ctrl+2	Cmd+2
	OUTPUT	Ctrl+3	Cmd+3
	CUSTOM	Ctrl+4	Cmd+4
SCENE	screen	Ctrl+5	Cmd+5
Meter	screen	Ctrl+6	Cmd+6
Library	screen	Ctrl+L	Cmd+L
Menu	Copy	Ctrl+Shift+C	Cmd+Shift+C
	Paste	Ctrl+Shift+V	Cmd+Shift+V
	Cut	Ctrl+Shift+X	Cmd+Shift+X
CH NAME	screen	F2	F2
TOUCH AND TURN	Inc/Dec	マウスホイール ↑/↓	マウスホイール ↑/↓
	Inc/Dec(Fine)	Shift+ マウスホイール ↑/↓ Shift+↑/↓	Shift+ マウスホイール ↑/↓ Shift+↑/↓
Window → Zoom	100%	Ctrl+Alt+1	Cmd+Option+1
	150%	Ctrl+Alt+2	Cmd+Option+2
	200%	Ctrl+Alt+3	Cmd+Option+3
Manage Library/Scene Screen	検索	Ctrl+F	Cmd+F
	Copy	Ctrl+C	Cmd+C
	Cut	Ctrl+X	Cmd+X
	Paste	Ctrl+V	Cmd+V
	Select All	Ctrl+A	Cmd+A
	ドラッグによる移動	Shift+ ドラッグ	Cmd+ ドラッグ
	ドラッグによるコピー	Ctrl+ ドラッグ	Option+ ドラッグ
	ひとつ階層を上げる	Backspace	Cmd+↑
	ひとつ階層を下がる	Enter	Cmd+↓
	TFF ファイルの展開	ダブルクリック	Cmd+O、ダブルクリック
	削除	Delete	Cmd+Delete
	コンテキストメニュー表示	Shift+F10、右クリック	Ctrl+ クリック

Numerics

1-knob COMP	54
1-knob EQ	48
Intensity.....	48
Loudness	48
Vocal.....	48

A

ASSIGN 画面	63
AUTOMIXER 画面	64
AUX1 ～ AUX8	
チャンネル	35
AUX9/10 ～ AUX19/20	
チャンネル	35

B

BUS SETUP 画面.....	20
-------------------	----

C

CH NAME 画面.....	78
CH STRIP エリア	11
CH VIEW 画面	66
COMP 画面.....	53
COMP 画面のメニュー	54
CONNECT エリア.....	9
CONNECT 画面.....	5
CUE	17
CUSTOM FADER BANK	
画面.....	28
CUSTOM FADER BANK	
画面のメニュー.....	28

D

DCA ASSIGN 画面.....	83
DCA グループ.....	83
DELAY 画面	84

E

EFFECT TYPE 画面	56
EQ 画面	48
EQ 画面のメニュー	50

F

FADER BANK エリア	9
FX 画面 (FX1/FX2/ InsFX1 ～ 6).....	55
FX 画面のメニュー.....	56

G

GainFinder.....	46
GATE 画面	51
GATE 画面のメニュー.....	52
GEQ 画面	79

I

Input List 画面	87
INPUT 画面	45
INPUT 画面のメニュー	47

L

LIBRARY 画面	30
LOG 画面.....	29

M

Manage Library/Scene	
画面.....	85
MASTER/FX/STIN STRIP	
エリア.....	11
MATRIX1 ～ MATRIX4	
チャンネル	36
MENU エリア	10
METER 画面	16
MONITOR 画面	17
MUTE エリア	9

O

OMNI OUT	21
OMNI OUT 画面.....	21
OMNI OUT 画面のメニュー	21
OUTPUT 画面	81
OVERVIEW 画面.....	33
OVERVIEW 画面の操作	33

P

Peak Hold	16
-----------------	----

R

RECALL SAFE 画面	22
----------------------	----

S

SCENE 画面.....	13
SCENE 画面のメニュー	15
SELECT MIXER TYPE 画面	4
SEND FROM 画面.....	82
SEND PAN	82
SEND TO AUX 画面.....	62
SETUP 画面.....	19
SOFT KEYBOARD 画面	32

U

USER DEFINED	
CONTROLS 画面	24
USER DEFINED KEYS.....	24
USER DEFINED KNOBS.....	25

え

エラーメッセージ.....	89
---------------	----

お

オシレーター	18
オフラインエディット機能	6

し

シーン	13
-----------	----

す

ステレオリンク	45
---------------	----

た

ダイレクトアウト.....	67
---------------	----

つ

ツールバー	12
-------------	----

て

デジタルゲイン.....	46
--------------	----

と

同期.....	5
---------	---

な

ナビゲーション表示部.....	37
-----------------	----

ふ

ファンタム電源	19, 46
フェイズ.....	45
フットスイッチ	26
プリセット	30

め

メーターポイント	16
メニューバー	
File メニュー	6
Help メニュー.....	7
Setup メニュー.....	7
Window メニュー.....	7

も

モニター	17
------------	----

ら

ライブラリー	30
--------------	----

り

リコールセーフ	22
リコール対象選択	30

れ

レベルメーター	16
---------------	----

■ 操作 / 設定

D

DCA グループ

割り当てるチャンネルを
選ぶ 83

E

EQ

1-knob モードで EQ を
操作する 48
HPF を設定する 48
LPF を設定する 50
マニュアルモードで EQ を
操作する 48

G

GEQ を操作する 79

P

PC キーボードでの操作 4

い

インサートエフェクトを設定
する 56

か

カスタムフェーダーバンク

設定する 28
呼び出す 9

き

機能を割り当てる

[USER DEFINED KEYS]
に機能を割り当てる 24
[USER DEFINED KNOBS]
に機能を割り当てる 25
フットスイッチに機能を
割り当てる 26

し

シーン

編集する 13
呼び出す 13

せ

設定

インサートエフェクトを
設定する 56
インプットチャンネルから
の送りを設定する 62
エフェクトを設定する 55
オシレーターを設定する 18
コンプレッサーを
設定する 53
ステレオリンク、入力ソース
を設定する 45

た

タッチスクリーンでの操作 4

ち

チャンネル設定

コピー / ペーストする 37

ふ

プリセット

編集する 30
リコールする 30

ま

マウスホイールでの操作 4

り

リコールセーフ機能

リコールセーフ機能を
使う 22

ヤマハ プロオーディオウェブサイト
<http://www.yamahaproaudio.com/>
ヤマハダウンロード
<https://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2015 Yamaha Corporation

2021年2月発行 CR-10